

YAMAHA



Clavinova[®]

CLP-705

取扱説明書



このたびは、ヤマハ クラビノーバ CLP-705をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

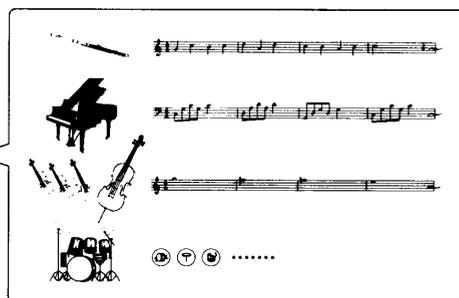
先進のエレクトロニクス技術と楽器づくりの経験によって誕生したCLP-705は、弾く人、聴く人を満足させてくれる音楽表現の豊かな鍵盤楽器です。

CLP-705の機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくために、この「取扱説明書」をご活用ください。お読みになったあとは、いつでもご覧になられるところに大切に保管してくださいませよう、お願い申し上げます。

CLP-705の特長



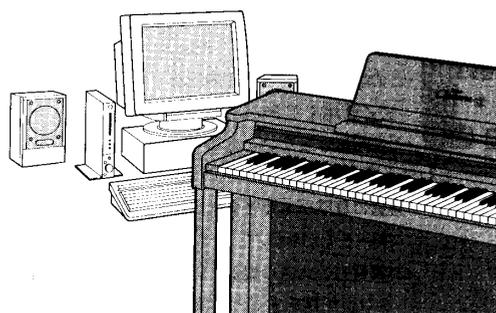
リアルな響きの53音色
☎9ページ



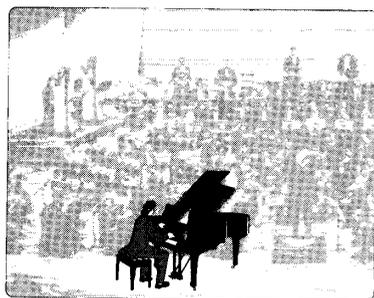
自分の演奏が簡単に録音/再生できる
パフォーマンスメモリー機能
☎52ページ



パネルのリズム(打楽器メトロノーム)6種類+
「ディスクリズム」40種類
☎28ページ



他の電子楽器と接続して
音楽の世界を広げるMIDI機能
☎83ページ



「ディスクオーケストラ・コレクション」ソフト
で、オーケストラやバンドに合わせて演奏できる
ディスクオーケストラ・システム
☎34ページ

正しくお使いいただくために



設置場所

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に熱い場所
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所



お取り扱い

次のようなご使用は、故障や、外装を痛める原因となりますのでご注意ください。

- ・物をぶつけたり、上に乗るなど、乱暴に扱う。
- ・汚れた手や濡れた手で触る。
- ・スライド式キーカバーを乱暴に開閉する。
- ・折りたたみ式譜面立てを乱暴に立てたり、倒したり、中間位置で放置する。
- ・ボタンやスイッチ類に無理な力を加える。



CLP-705の上にものを置く場合のご注意

次のようなものをCLP-705の上に置きますと、水がこぼれて故障の原因になったり、外装を痛める原因となりますのでご注意ください。

- ・水の入った花瓶や鉢
- ・塩化ビニール加工された表紙の本、ビニール製品、プラスチック製品



外装と鍵盤のお手入れ

- ・お手入れは、フェルト布などの柔らかい乾いた布で乾拭きするか、汚れのひどいときは少し水で湿らせた布で拭いてください。アルコールやシンナーなどの溶剤は、絶対に使用しないでください。
- ・市販の化学雑巾や外装手入れ剤のご使用は避けてください。



電源

- ・このCLP-705は日本国内仕様です。電源は必ずAC100Vでご使用ください。
- ・ご使用にならないときは、電源スイッチを切ってください。
- ・落雷の危険があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・消費電力の大きな機器と同じコンセントを使用したり、タコ足配線をするとう質が劣化したり、故障の原因となりますのでご注意ください。
- ・濡れた手で電源プラグに触れると、感電するおそれがありますので、ご注意ください。
- ・電源コードをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いてください。コードを引っ張ると断線やショートの原因となります。



接続

- ・CLP-705を外部機器と接続するときや接続コードをはずす時は、スピーカーやアンプの損傷を防ぐため、あらかじめ両機器の電源を切ってください。
- ・電源を入れるときや切るときは、あらかじめ両機器のボ

リュームを最小にしてください。



他の電気機器への影響

ラジオやテレビの近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生することがあります。十分に離してご使用ください。



ディスクのお取り扱い

付属のフロッピーディスクは、非常にデリケートですので、お取り扱いには十分注意してください。特に次の点にご注意ください。

- ・シャッター部は開けないでください。内部のディスク表面を汚したり、ホコリ、傷などを付けることがあります。
- ・スピーカーやテレビなど、磁気の強いものに近づけないでください。☞48ページ

その他

- ・CLP-705の内部を開けたり、改造することは事故や故障の原因となりますので、絶対にしないでください。改造後の保証はいたしかねます。
- ・誤って水やその他の液体をCLP-705にこぼしたり、CLP-705から異臭や煙が出たときは、すぐに電源プラグを抜き、お買い上げ店または巻末のサービスのサービス拠点にお問い合わせください。



保証書

お買い求めいただきました際に、お買い上げ店で必ず保証書の手続きをお取りください。保証書にご購入日や販売店印がない場合、保証期間中でも修理の費用をいただくこととなりますので、ご注意ください。

CLP-705は調律の必要がありません。



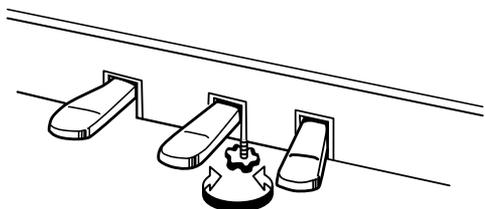
音楽を楽しむエチケット

これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時間や場所によっては気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。隣近所への配慮を十分にしてお楽しみください。

ご使用前の準備

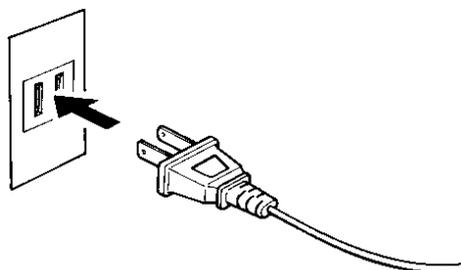
アジャスターの調節(必ず行って下さい。)
設置場所が決まりましたら、ペダル下のアジャスターを回して、ペダル部を床面に固定させてください。



電源の準備

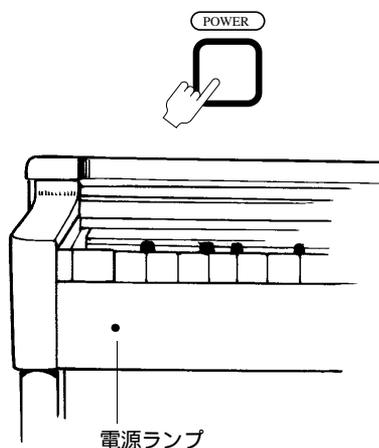
1. 電源コードを接続する

家庭用(AC100V)コンセントに、電源プラグを差し込みます。



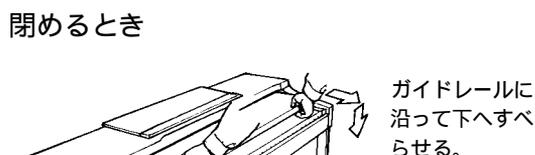
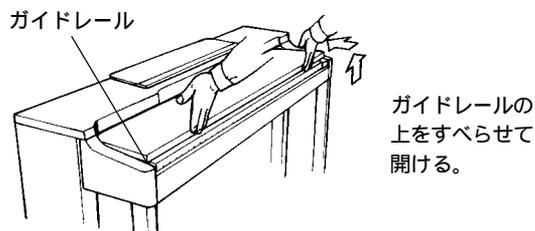
2. 電源を入れる

電源スイッチを押します。
☞ 電源ランプが点きます。



スライド式キーカバーの開け閉め

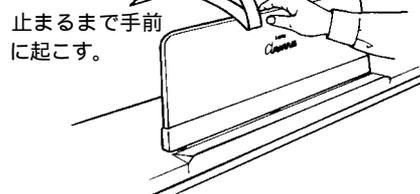
開けるとき 少しだけ持ち上げる。(持ち上げすぎないように、ご注意ください。)



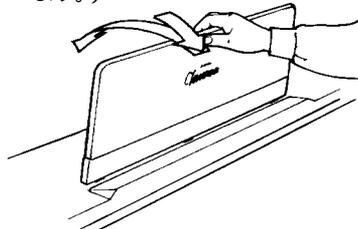
手を添えて降ろす。

ワンタッチ式譜面立て

立てるとき ロックされる位置まで戻す。



倒すとき 止るまで手前に起こす。(ロックがはずれます。)



- ・ 譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。
- ・ 譜面立ては、中間位置で使用または放置しないでください。

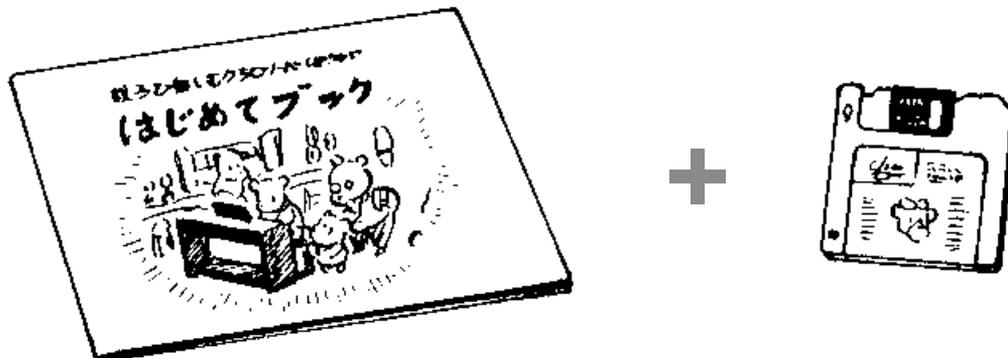
付属品

はじめてブック

+

はじめてブック専用ディスク

お子様に楽しく音楽を体験していただくための本とディスクです。



「ディスクリズム」

本体のリズムの他に、40種類のリズムが入っているディスクです。



保証書



録音用空白ディスク

(3.5インチ2DDマイクロフロッピーディスク)

録音用の新しいディスクです。

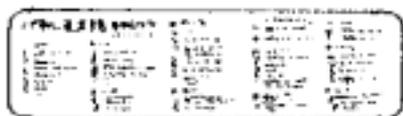


ご愛用者カード



ボイスリスト・ステッカー

53種類の音色名リストです。音色ボタンの右横に貼ってご使用ください。



取扱説明書(本書)

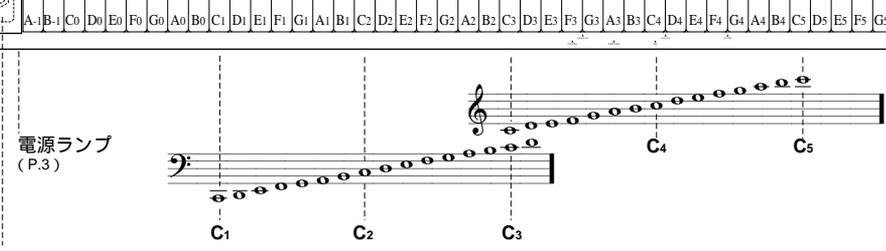
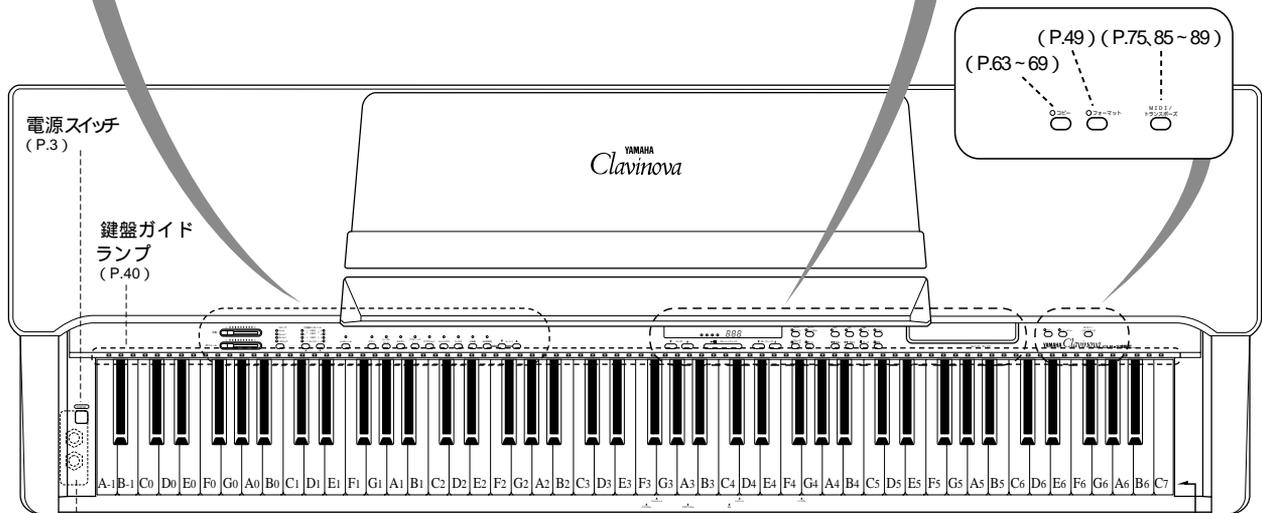
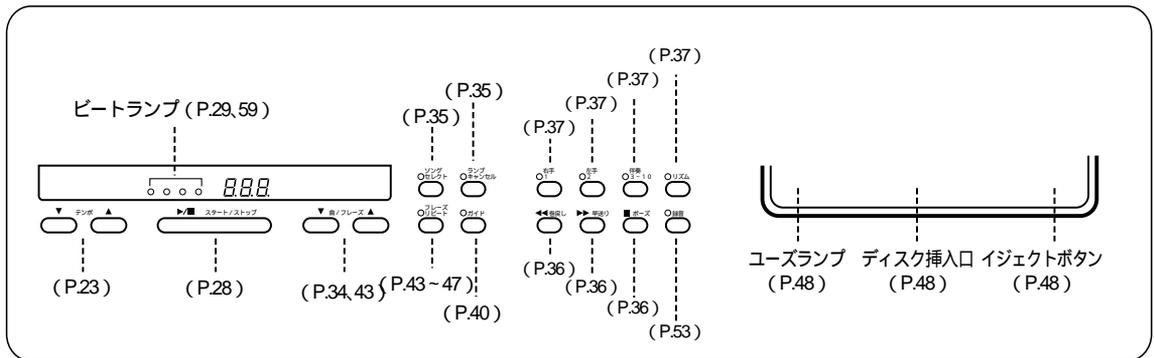
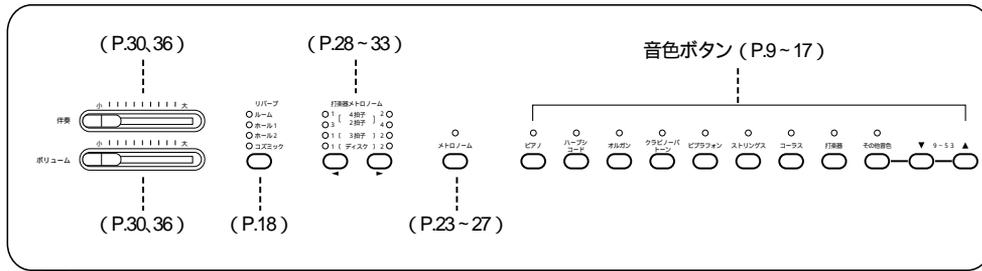


目次

		ページ	
	CLP-705の特長	1	
	正しくお使いいただくために	2	
	ご使用前の準備	3	
	付属品	4	
	各部のなまえ	6	
	デモ演奏を聴いてみましょう	7	
音色	音色を選ぶ	9	
音色を選んで演奏するなど、基本的な操作をご紹介します。	打楽器音色でリズム演奏をする(キーボードパーカッション)	12	
	2つの音色をミックスする(デュアル機能)	15	
	リバーブ(残響効果)をかける	18	
	ペダルを使う	21	
リズム	メトロノームを使う	23	
メトロノームやリズムに合わせて演奏する方法をご紹介します。	メトロノームの打楽器を変える	25	
	リズムに合わせて弾く	28	
	ディスクリズムを使う	32	
ディスクオーケストラ	ディスクオーケストラを聴く	34	
「ディスクオーケストラ・コレクション」を聴いたり、それをバックに演奏する方法をご紹介します。	ディスクオーケストラといっしょに演奏する(パートオン/オフ)	37	
	鍵盤ガイドランプに合わせて練習する(ガイド機能)	40	
	フレーズをリピート練習する(フレーズリピート機能)	43	
	フレーズを指定してリピート練習する(A-Bリピート機能)	46	
録音/再生 (パフォーマンスメモリー)	フロッピーディスクについて	48	
録音用ディスクに、自分の演奏を録音したり(パフォーマンスメモリー)、録音済みの曲をコピーする方法などをご紹介します。	フォーマット(初期化)する	49	
	パフォーマンスメモリーについて	52	
	演奏を録音・再生する	53	
	多重録音をする	56	
	録音/再生のヒント	61	
	同じディスク内でコピーする	63	
	別のディスクへコピーする	66	
データを消去(デリート)する	70		
	クラビノーバ共通音色に変換する	73	
その他の機能	音程を変える(トランスポーズ)	75	
アンサンブルをするときに音程を変えるなど、CLP-705のいろいろな機能をご紹介します。	他の楽器と音程を合わせる(ピッチコントロール)	77	
	鍵盤のタッチ感度を変える	79	
	音像の定位を変える(パン機能)	80	
	ほかの機器と接続する	81	
MIDI	MIDIについて	83	
CLP-705のMIDI機能をご紹介します。	MIDIチャンネルの設定	85	
	各種のMIDI設定	86	
	MIDIデータフォーマット	89	
	MIDIインプリメンテーションチャート	92	
資料	音色一覧表	93	
	各音色の推奨音域	95	
	リズム一覧表	97	
	最大同時発音数について	98	
	エラーメッセージ	99	
	故障かな?と思ったら	100	
	CLP-705の仕様	101	
	オプション(別売品)のご紹介	102	
索引	103		
修理サービスと保証	104		

各部のなまえ

〔コントロールパネル〕



ヘッドフォン端子 (裏側にあります)
 ヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンを使うと、CLP-705のスピーカーからは音が出ません。
 1人で演奏するだけでなく、2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。耳をあまり刺激しないように、適度な音量でご使用ください。

本文中で鍵盤の位置を確認するとき、ご利用ください。

リアパネルの端子については81・82ページ、ペダル部については21・22ページをご覧ください。

デモ演奏を 聴いて みましょう

CLP-705にはデモ演奏が2曲入っています。聴いてみましょう。

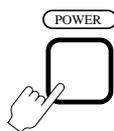
1曲目：「小さな世界」/R.Sherman兄弟

2曲目：「霧のレイクルイーズ」/倉本裕基

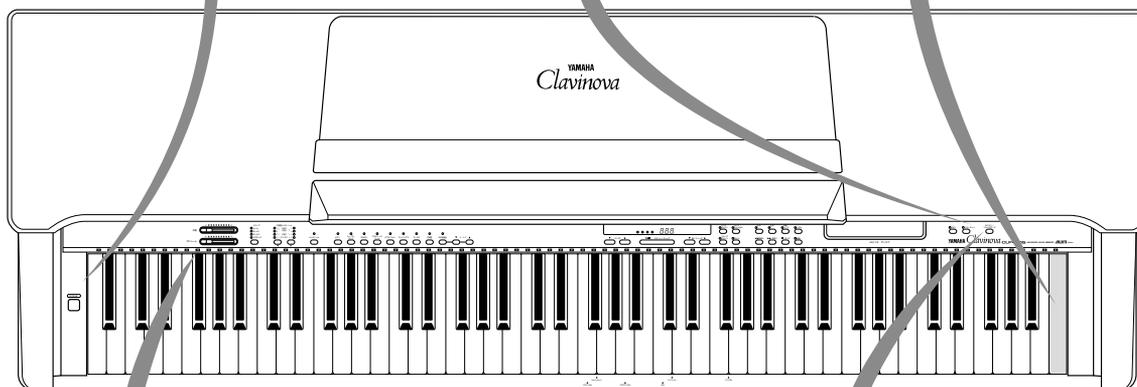
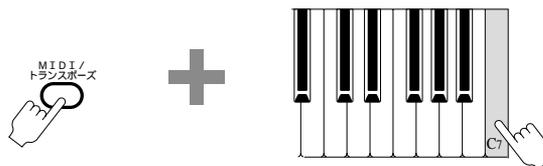
・「霧のレイクルイーズ」の原曲の楽譜は、ドレミ楽譜出版社のPiano Solo曲集「倉本裕基 / スペシャル・コレクション」および「倉本裕基 Rêverie / 夢の窓辺に」に掲載されています。

操作のまとめ

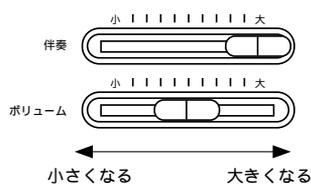
1 電源を入れる



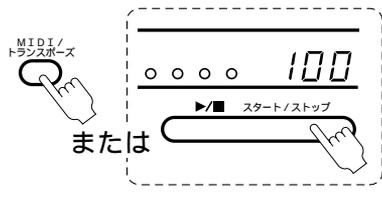
2 デモ演奏をスタートさせる



3 音量を調節する

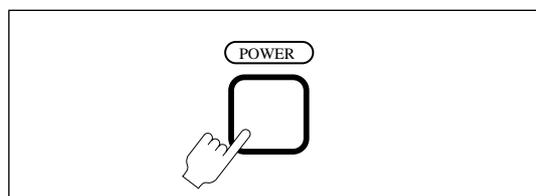


4 デモ演奏をストップさせる



1 電源を入れる

電源スイッチを押します。



2 デモ演奏をスタートさせる

「小さな世界」(1曲目)を聴く場合
[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
一番右端の鍵盤を1回押します。

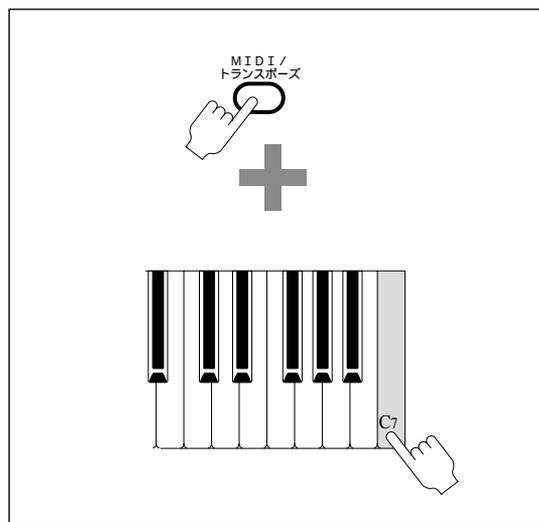
⇨曲が終わるとストップします。

「霧のレイクルイーズ」(2曲目)を聴く場合
[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
一番右端の鍵盤を2回押します。

⇨曲が終わるとストップします。

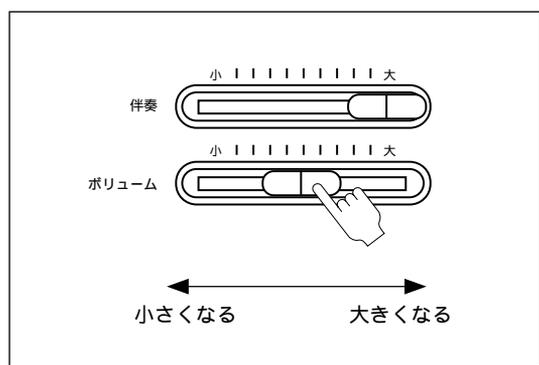
1曲目/2曲目を繰り返し聴く場合
[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
一番右端の鍵盤を3回押します。

⇨2曲目が終わると再び1曲目から繰り返し再生
されます。



3 音量を調節する

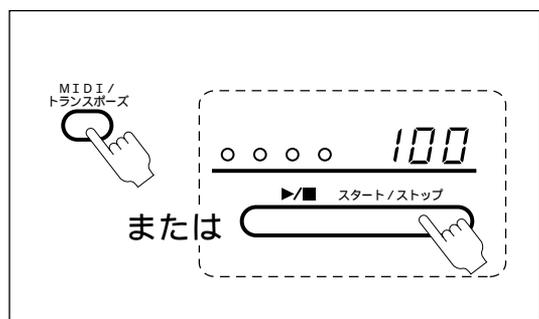
[ボリューム]スライダーで調節します。



4 デモ演奏をストップさせる

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押します。

・ [/ スタート/ストップ]ボタンでも、デモ演奏は
ストップします。



音色を選ぶ

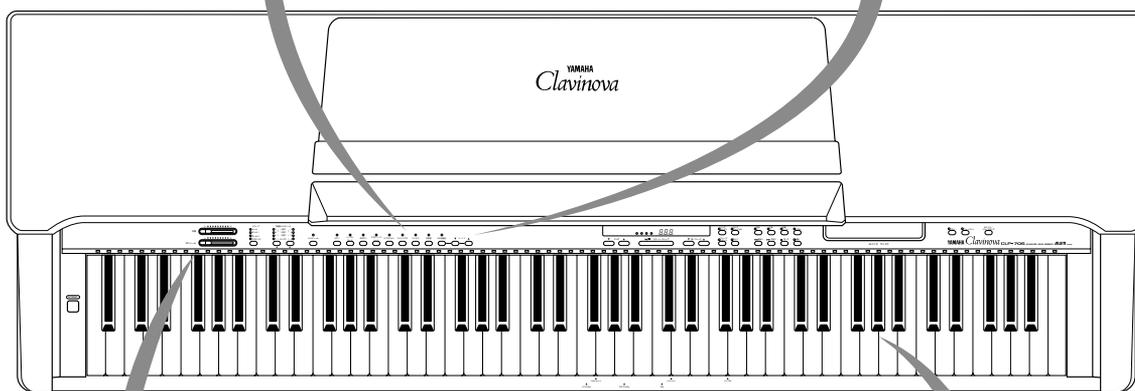
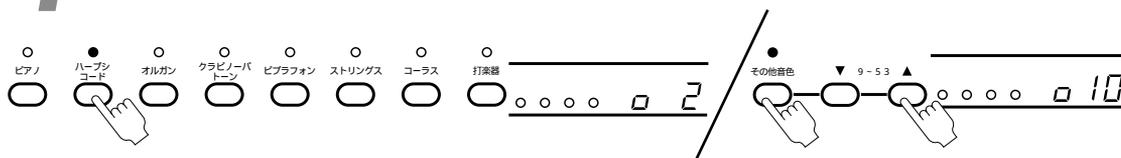
CLP-705には、パネルに表示されている8種類の音色と、その他の音色として45種類、合計53種類の音色があります。いろいろな音色を使って演奏してみましょう。

- ・ボイスリスト・ステッカーや音色一覧表をご参照ください。
 ⇨ 4、93ページ

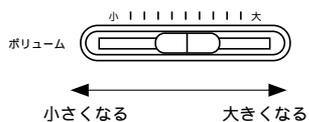
操作のまとめ



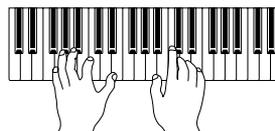
1 音色を選ぶ



2 音量を調節する



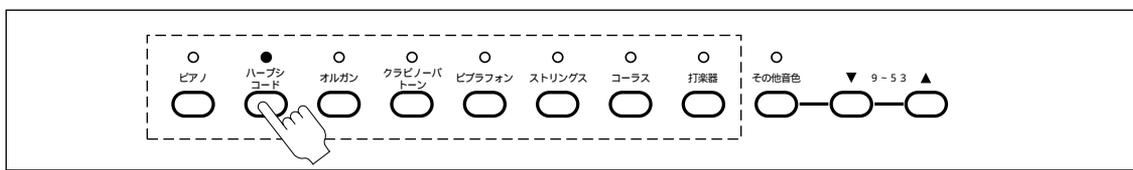
3 演奏する



1 音色を選ぶ

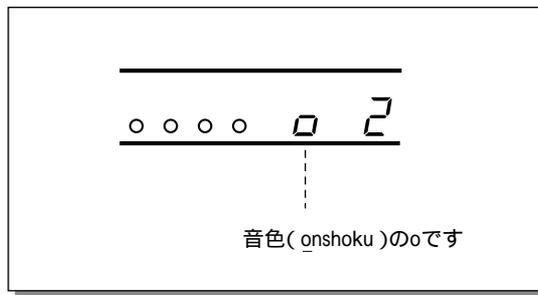
パネルに表示されている音色(1~8番)を選ぶ
 使用したい音色のボタンを押します。

⇨ランプがつかます。



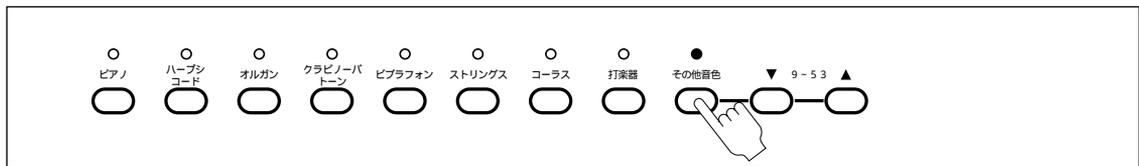
⇨操作中はディスプレイに音色番号が表示されます。(ピアノ:音色番号1~打楽器:音色番号8)

- ・打楽器音色については、12ページをご参照ください。
- ・電源を入れたときは、「ピアノ」(音色番号1)が選ばれます。

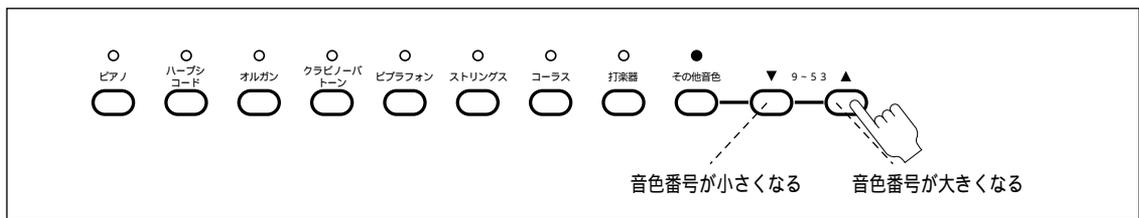


その他の音色(9~53番)を選ぶ
[その他音色]ボタンを押します。

⇨ランプがつきます。

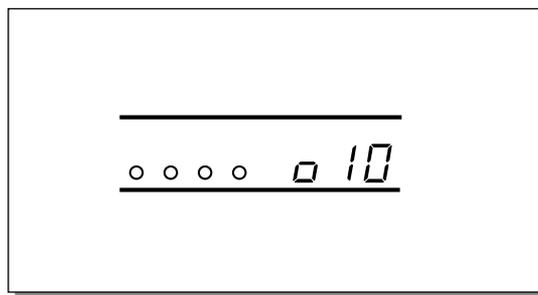


[9~53]ボタンを押して音色番号を選びます。



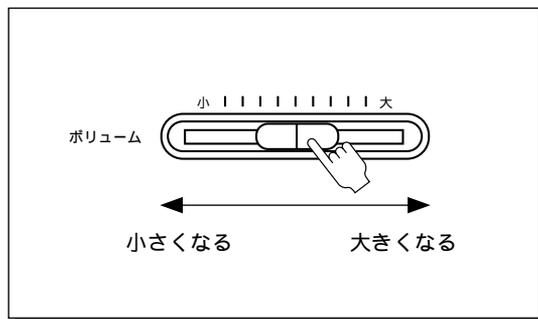
⇨操作中はディスプレイに音色番号が表示されます。

- ・その他の音色は、電源を切るまで[その他音色]ボタンに記憶されています。
- ・電源を入れたとき、[その他音色]ボタンは「ピアノブライト」(音色番号9)になっています。



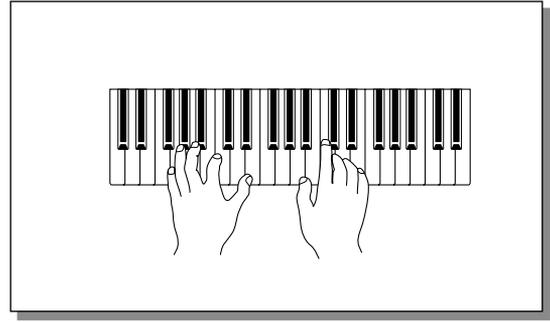
2 音量を調節する

[ボリューム]スライダーで調節します。



3 演奏する

- ・「ティンパニ」(音色番号37)は、G₂以上の鍵盤では音が出ません。
- ・「各音色の推奨音域」もご参照ください。
☞ 95～96ページ



打楽器音色で リズム演奏をする (キーボードパーカッション)

「打楽器」の音色を選ぶと、鍵盤にそれぞれ打楽器が割り当てられます。それらの鍵盤をたたいて、リズム演奏ができます。

・割り当て方には「6種類」、「44種類」の2とおりあります。

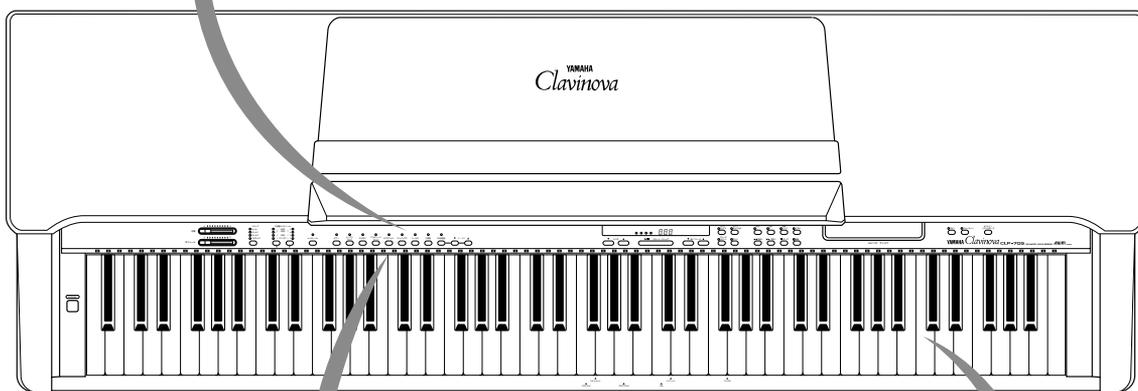
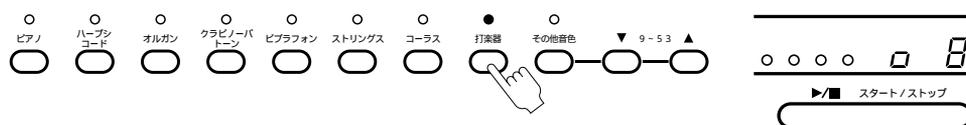
「6種類」：基本的なリズムが演奏できるように、6種類の打楽器が割り当てられます。

「44種類」：いろいろなジャンルのリズムを演奏できるように、44種類の打楽器が割り当てられます。

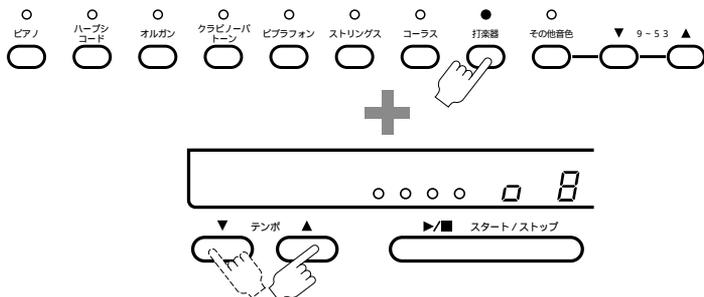
電源を入れたときは、「6種類」になっています。

操作のまとめ

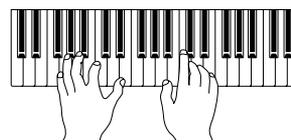
1 打楽器音色を選ぶ



2 「6種類」か「44種類」かを選ぶ



3 演奏する

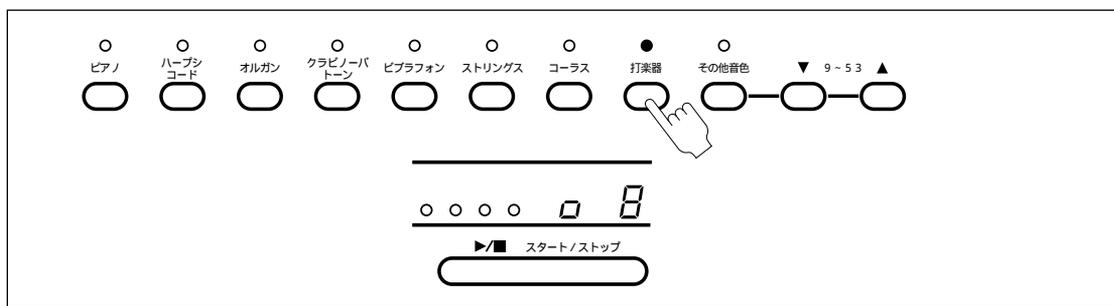


1 打楽器音色を選ぶ

[打楽器]ボタンを押します。

↳ランプが付きます。

↳操作中はディスプレイに音色番号8が表示されます。

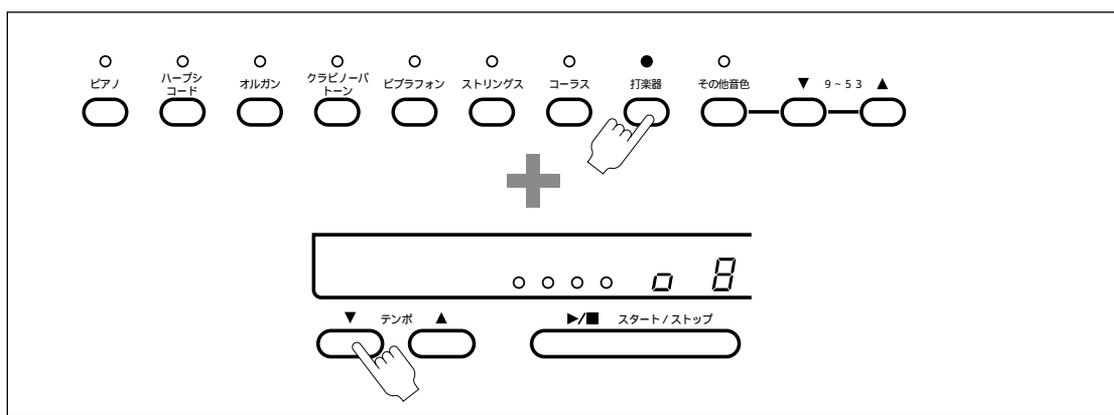


2 「6種類」か「44種類」かを選ぶ

「6種類」を選ぶ場合

[打楽器]ボタンを押しながら、

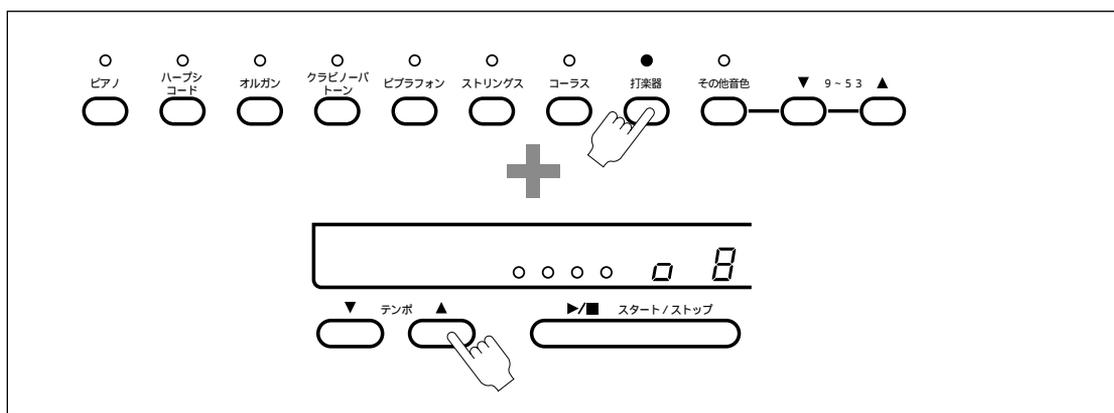
[テンポ]ボタンを押します。



「44種類」を選ぶ場合

[打楽器]ボタンを押しながら、

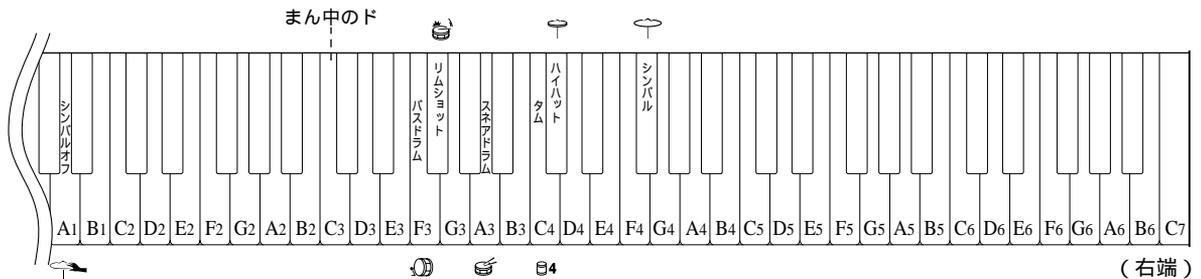
[テンポ]ボタンを押します。



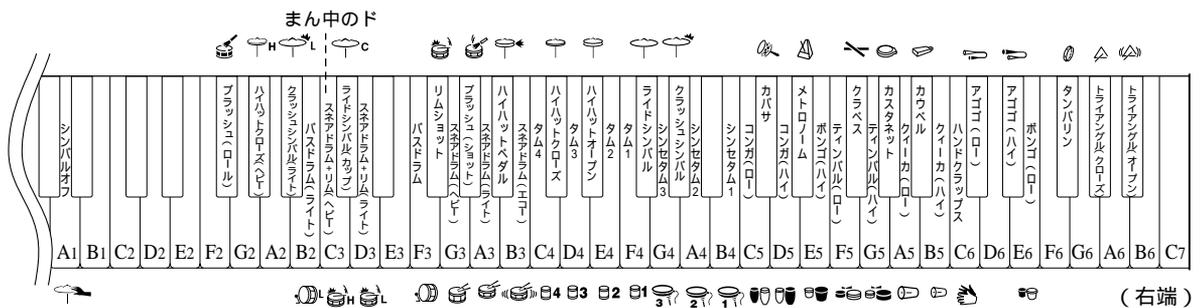
- ・電源を入れたときは、常に「6種類」になっていますので、[打楽器]ボタンを押す(手順1の操作)だけで、「6種類」になります。

3 演奏する

割り当てられている鍵盤をたたいて演奏します。(割り当てられていない鍵盤からは音が出ません。)
「6種類」の場合



「44種類」の場合



・「44種類」のときは、次の4つの鍵盤に、内部的に打楽器が割り当てられています。これらは鍵盤をたたいても音は出ませんが、録音時には記録され、再生時にも音が出ます。また、MIDI受信したときにも音が出ます。

A[#]₄ : クラッシュシンバル

F₆ : クイーカー(ロー)

G₆ : クラッシュシンバル

A₆ : ブラッシュ(ロール)

「6種類」のときも、6種類以外の打楽器音は、録音 / 再生、MIDI受信では音が出ます。



・シンバル音は、シンバルオフ  の鍵盤を押すと、音を途中で切ることができます。

シンバル音には、クラッシュシンバル(ライト)、ライドシンバル(カップ)、ライドシンバル、クラッシュシンバルの4種類があります。

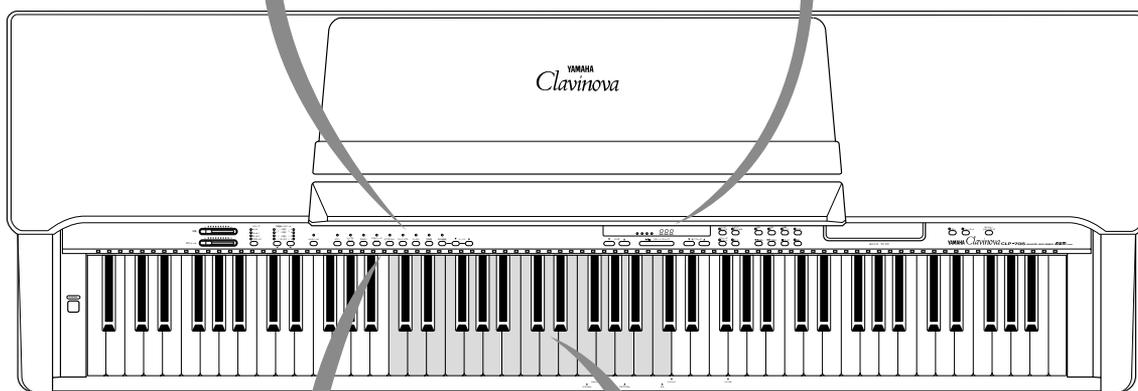
・ブラッシュ(ロール)の音も、ブラッシュ(ショット)の鍵盤を押すと、音を途中で切ることができます。

2つの音色を ミックスする (デュアル機能)

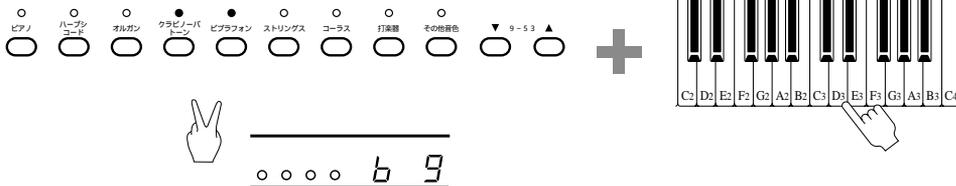
1つの音色を選んで演奏するだけでなく、2つの音色を重ねて演奏することができます。
また、2つの音色の音量バランスも変えられます。

操作のまとめ

1 組み合わせを選ぶ



2 2つの音色の音量バランスを設定する



おすすめの組み合わせ

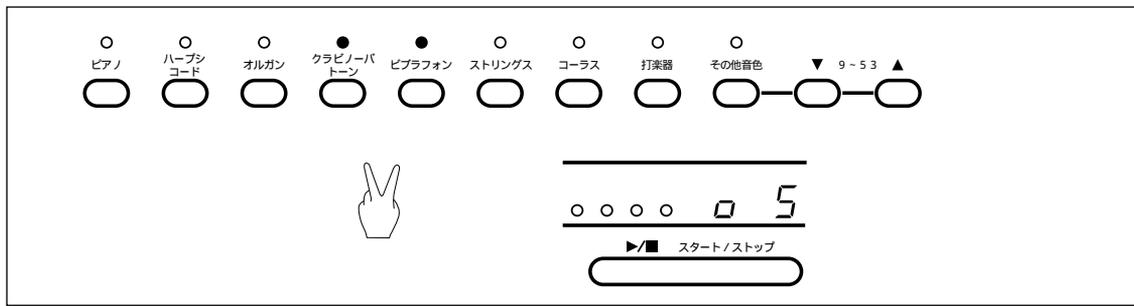
- 「1 ピアノ」と「2 ハープシコード」、
 - 「2 ハープシコード」と「3 オルガン」、
 - 「3 オルガン」と「7 コーラス(クワイア)」、
 - 「5 ビブラフォン」と「50 フルード」、
 - 「11 エレクトリックピアノ」と「6 スtringス」
- 他にも色々な組み合わせを試してみましょう。

1 組合せを選ぶ

組み合わせたい2つのボタンを同時に押します。

⇨2つのランプがつかます。

⇨操作中は、パネル上で右側にある音色の番号がディスプレイに表示されます。



・デュアルから1音色に戻すときは、使用したい音色ボタンだけを押しします。

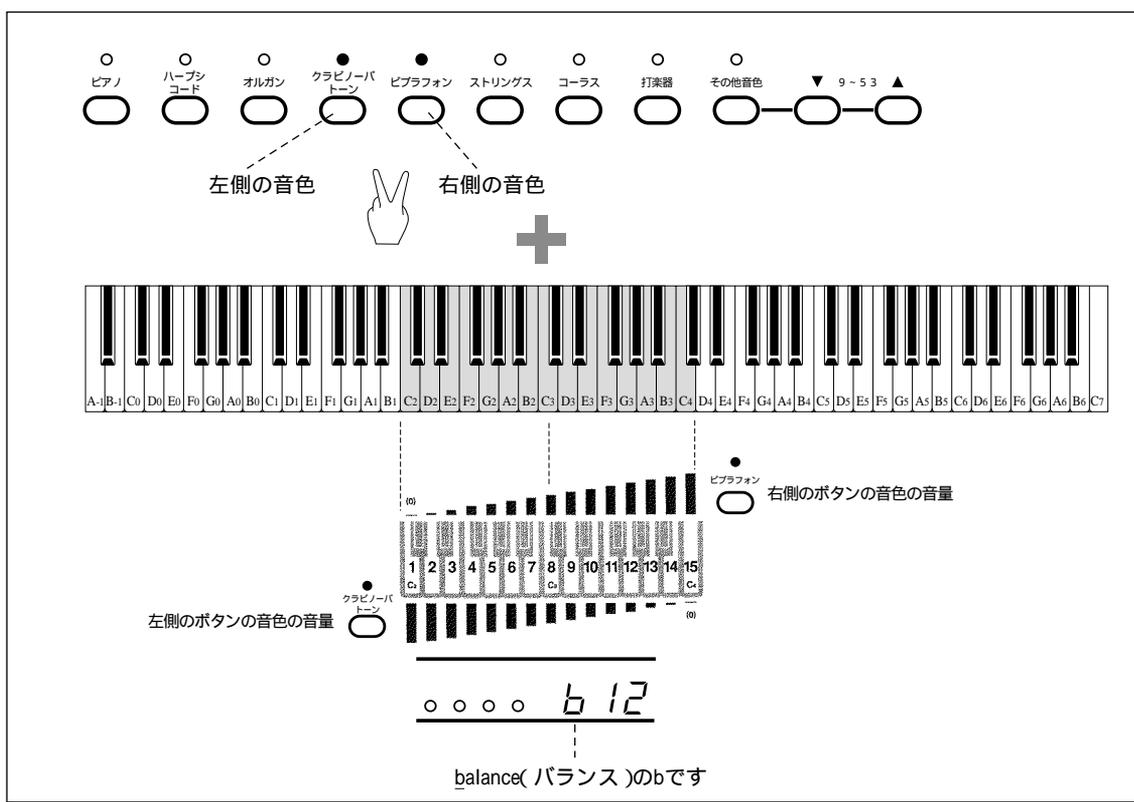


・「打楽器」とのデュアルはできません。
・「その他音色」(9~53)どうしを組み合わせることはできません。

2 2つの音色の音量バランスを設定する

2つの音色ボタンを同時に押しながら、
C₂ ~ C₄の白鍵のいずれかを押しします。(押す鍵盤により、下の図のように音量バランスが設定されます。)

⇨操作中は、ディスプレイに音量バランス(1~15)が表示されます。



・電源を入れたときは、同じ音量(表示8)になっています。



・C₂～C₄の白鍵の代わりに、[テンポ]ボタンでも調節できます。

[操作]

2つの音色ボタンを同時に押しながら、[テンポ]ボタンを押します。

2つの音色ボタン+[テンポ]ボタン

↳右側の音色：音量が小さくなる

↳左側の音色：音量が大きくなる

2つの音色ボタン+[テンポ]ボタン

↳右側の音色：音量が大きくなる

↳左側の音色：音量が小さくなる

2つの音色ボタン+[テンポ]+[テンポ]ボタン

↳同じ音量になる

リバーブ (残響効果) をかける

リバーブとは「残響」のことで、リバーブによってコンサートホールなどで演奏しているような臨場感を出すことができます。

・リバーブは鍵盤で演奏している音色以外にも、リズム(打楽器メトロノーム)(☞23ページ)や「ディスクオーケストラ・コレクション」(☞34ページ)の再生音にもかかります。

操作のまとめ

1 リバーブのタイプを選ぶ

リバーブ

- ルーム
- ホール1
- ホール2
- コズミック

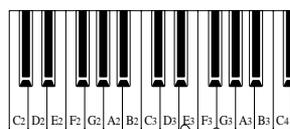


2 リバーブの深さを設定する

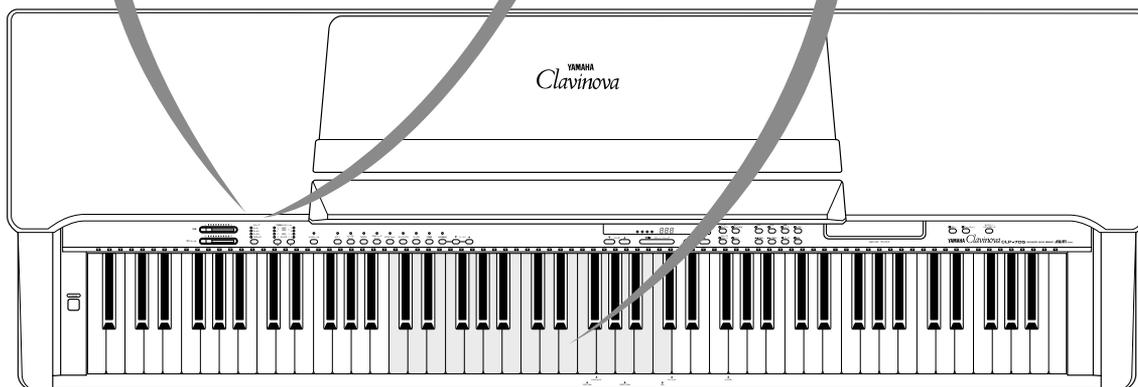
リバーブ

- ルーム
- ホール1
- ホール2
- コズミック

+



○○○○ r 10



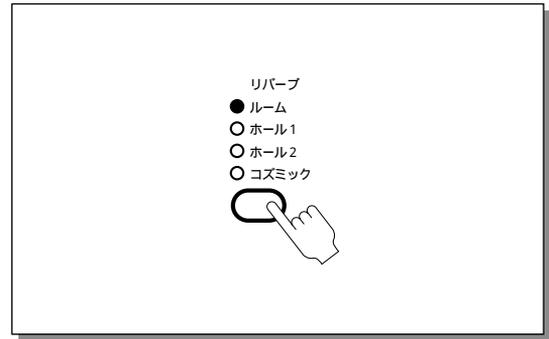
1 リバーブのタイプを選ぶ

[リバーブ]ボタンを押して、リバーブのタイプを選びます。

⇨ランプがつかます。

[リバーブ]ボタンを押すごとに、リバーブの種類が切り替わります。

- ルーム..... 部屋の中で弾いたときのような響きになります。
- ホール1..... 小さなコンサートホールで弾いたときのような響きになります。
- ホール2..... 大きなコンサートホールで弾いたときのような響きになります。
- コズミック..... こだまのような響きに加わった音になります。
- ランプ消灯..... リバーブはかかりません。



・選んだタイプのリバーブはすべての音にかかりますが、打楽器やベースは他の音色に比べて浅めにかかります。



・オプション入力端子から入力した音にはリバーブはかかりません。

2 リバーブの深さを設定する

[リバーブ]ボタンを押しながら、C₂~C₄の白鍵を押します。押す鍵盤により、下の図のように深さが設定されます。

⇨操作中は、ディスプレイに深さの値が表示されます。

C₂の鍵盤.....最小(深さ = 1)に設定されます。

C₃の鍵盤.....標準(深さ = 8)です。

C₄の鍵盤.....最大(深さ = 15)に設定されます。

・電源を入れたときは、タイプはルーム、深さは標準の8が選ばれます。



・ C₂ ~ C₄の白鍵の代わりに、[テンポ]ボタンでも設定できます。

[操作]

[リバーブ]ボタンを押しながら、[テンポ]ボタンを押します。

[リバーブ]+[テンポ]ボタン

⇨深さが浅くなる

[リバーブ]+[テンポ]ボタン

⇨深さが深くなる

[リバーブ]+[テンポ]+[テンポ]ボタン

⇨深さが標準の8になる

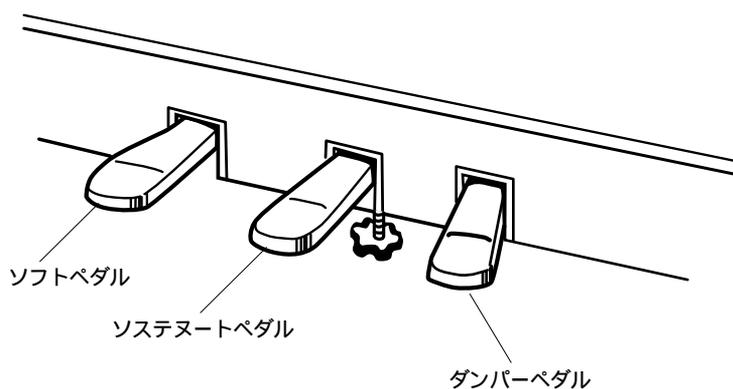
[リバーブ]ボタン + C₂ ~ C₄の白鍵による方法では設定可能範囲が1 ~ 15ですが、

[リバーブ]ボタン + [テンポ]ボタンによる方法では0 ~ 15の範囲で設定できます。

ペダルを使う

CLP-705のスタンド部分には、ピアノと同じように「ダンパー」、
「ソステヌート」、「ソフト」の3本のペダルがあります。

操作のまとめ



ダンパーペダル

ピアノを演奏するときに、最もよく使うペダルです。
ペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。
音色を「ピアノ」にして、次の楽譜の①の印でダンパーペダルを踏み、効果を確認してください。

オーラ・リー（アメリカ民謡）

① ① ① ①

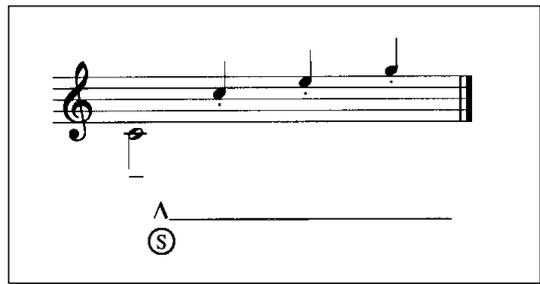
① ① ① ①

ソステヌートペダル

ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、ペダルを離すまで長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には、効果はかかりません。

低音部の音だけを響かせながら、右手でメロディを弾いたりするときなどに使うことがあります。

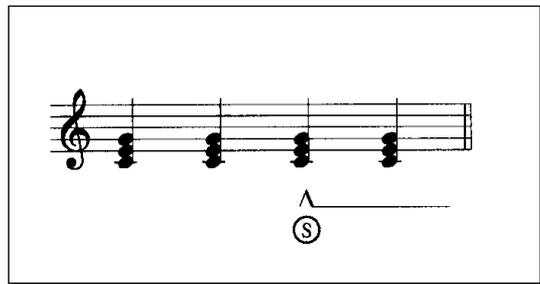
音色を「ピアノ」にして、初めの「ド」を弾いた直後にソステヌートペダルを踏み、効果を確認してください。初めの「ド」の音だけが、ペダルを踏んでいる間、長く響きます。ソステヌート効果は、ドビュッシーの「月の光」などで使われることがあります。



ソフトペダル

音量がわずかに下がり、音の響きが柔らかくなります。

音色を「ピアノ」にして、⑤のマークからソフトペダルを踏み、効果を確認してください。音の響きを柔らかくしたいところで使うと効果的です。



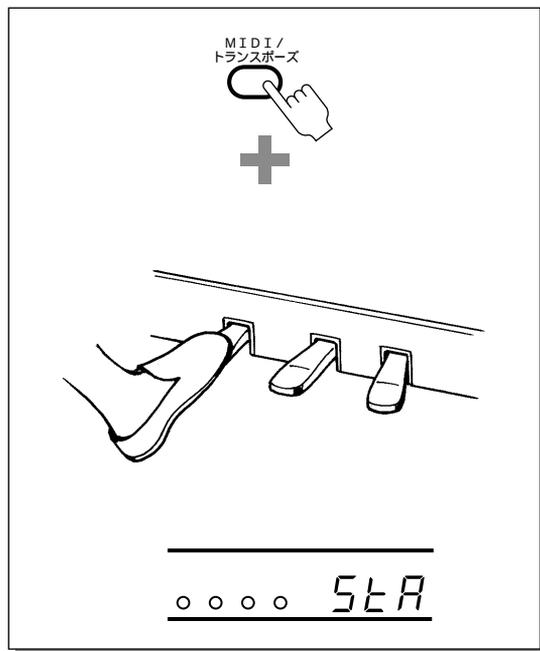
ヒント

・ソフトペダルを、リズムの「スタート/ストップ」ペダルとして使うこともできます。(このとき、ソフト効果はつきません。)

[操作]

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、ソフトペダルを踏んで、ディスプレイに「StA」(スタート/ストップ)を表示させます。(一回踏むごとに、「SoF」(ソフトペダル)、「StA」(スタート/ストップ)が交互に切り替わります。)

・電源を入れたときは、通常のソフトペダルになっています。



ノート

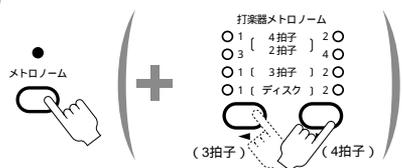
・打楽器音色には、ソフトペダルは効きますが、ダンパーペダル、ソステヌートペダルは効きません。

メトロノーム を使う

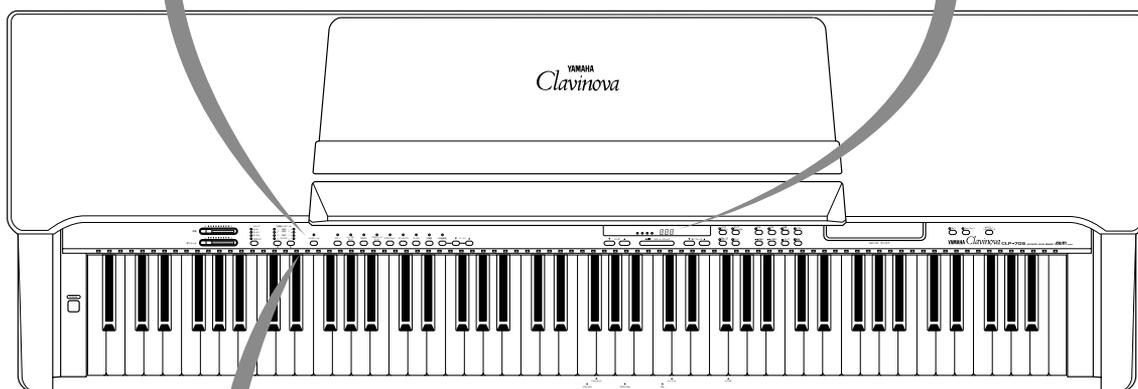
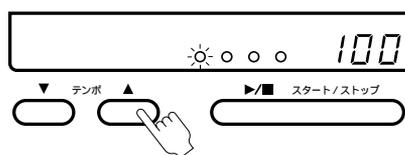
正確なテンポで演奏したいとき、CLP-705のメトロノームをお使いください。

操作のまとめ

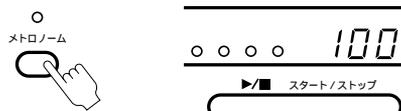
1 メトロノームをスタートさせる



2 速さ (テンポ) を設定する



3 メトロノームを止める

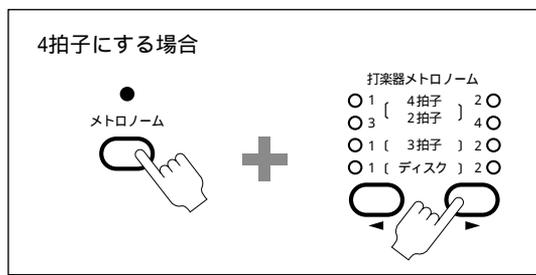
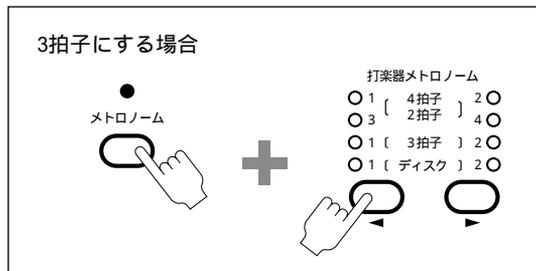
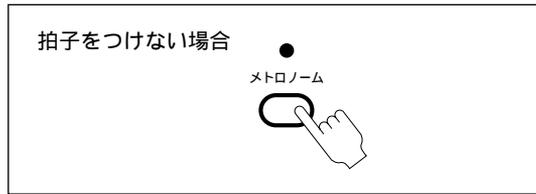


1 メトロノームをスタートさせる

拍子をつけない場合
[メトロノーム]ボタンを押します。

3拍子にする場合
[メトロノーム]ボタンを押しながら、[打楽器
メトロノーム]ボタンを押します。

4拍子にする場合
[メトロノーム]ボタンを押しながら、
[打楽器メトロノーム]ボタンを押します。



⇒ [メトロノーム]ボタンのランプがつき、
[メトロノーム]ボタンを離したときから、
メトロノームがスタートします。メトロ
ノーム音に合わせて、ディスプレイのビ
ートランプが点滅します。



・リズムの音を出したりディスクの曲を再生し
ながら、メトロノームを使うこともできます。
(ただし3拍子や4拍子は使えません。)

2 速さ(テンポ)を設定する

[テンポ]ボタンで速さ(1分間の拍数)を設定し
ます。

⇒メトロノームのテンポが、ディスプレイ
に表示されます。

- ・♩= 32 ~ 280の範囲で設定できます。
- ・テンポは、スタート前に設定することもできます。

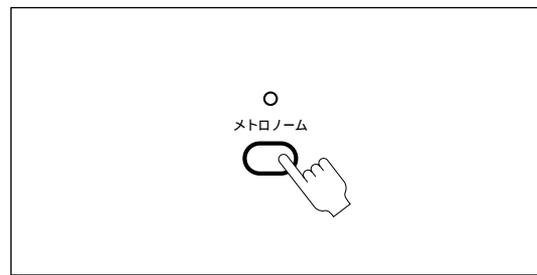
3 メトロノームを止める

[メトロノーム]ボタンを押します。

⇒ [メトロノーム]ボタンを離したときにラン
プが消え、メトロノームが止まります。



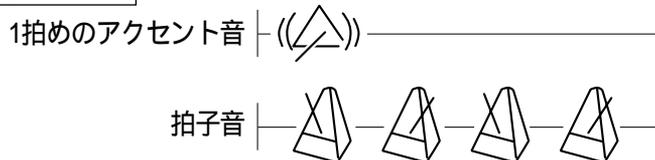
・[スタート/ストップ]ボタンを押すと、メトロ
ノームが止まらず、リズムがスタートしてし
まいますので、ご注意ください。



メトロノームの 打楽器を 変える

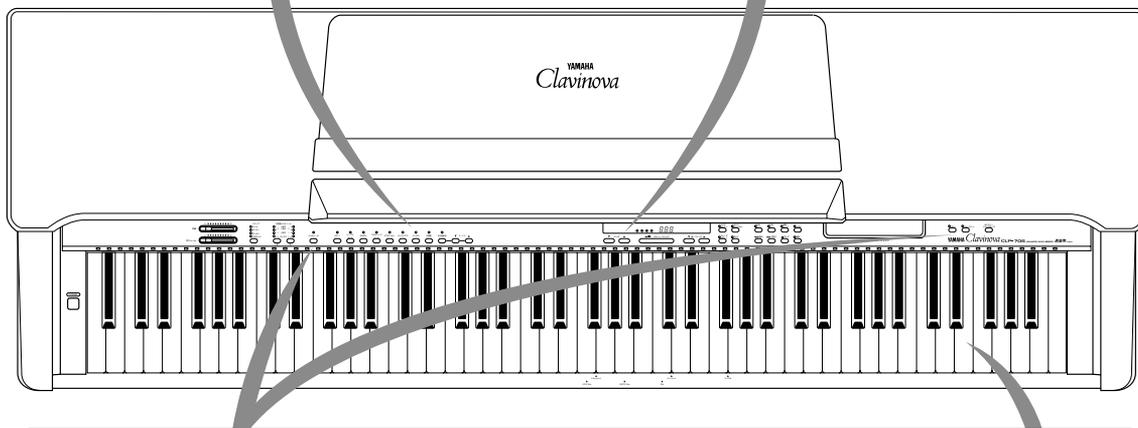
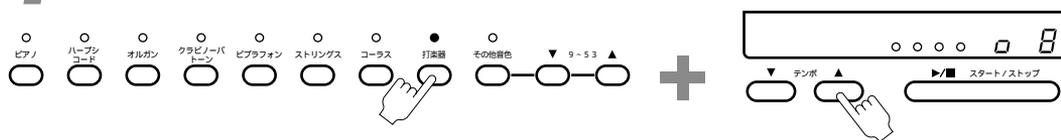
- CLP-705のメトロノーム音を、別の打楽器に変えることができます。
- ・この機能を使うと、拍子音と1拍めのアクセント音の各打楽器を変えることができます。
 - ・電源を入れたときは、拍子音はメトロノーム音、3,4拍子にしたときの1拍めのアクセント音はトライアングル(オープン)になっています。

例) 4拍子のとき

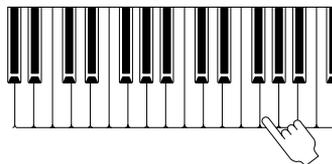
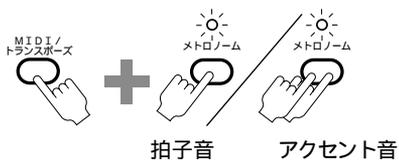


操作のまとめ

1 打楽器音色を選び、「44種類」にする



2 打楽器を変える



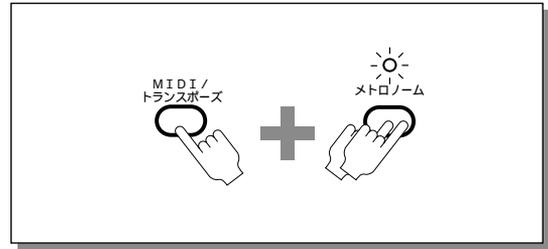
3、4拍子での1拍めのアクセント音の打楽器を変える場合

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
[メトロノーム]ボタンを2回押します。

⇒[メトロノーム]ボタンのランプが点滅します。

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを離さずに、
打楽器の鍵盤をたたきます。このとき、
たたく強さによってアクセント音の音量
が決まります。

⇒[メトロノーム]ボタンのランプが消えます。

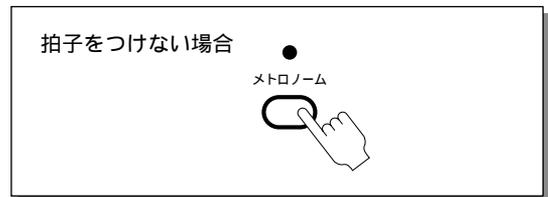


・拍子をつけない場合は、アクセント音はつきません。

・実際にメトロノームをスタートさせて、音を確認してみましょう。

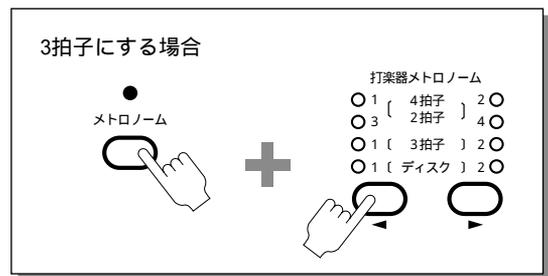
拍子をつけない場合

[メトロノーム]ボタンを押します。



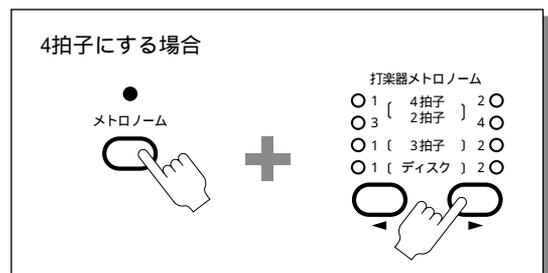
3拍子にする場合

[メトロノーム]ボタンを押しながら、[打楽器
メトロノーム]ボタンを押します。



4拍子にする場合

[メトロノーム]ボタンを押しながら、
[打楽器メトロノーム]ボタンを押します。



⇒[メトロノーム]ボタンのランプがつき、
[メトロノーム]ボタンを離したときから、
メトロノームがスタートします。メトロ
ノーム音に合わせて、ディスプレイのビ
ートランプが点滅します。

リズムに合わせて弾く

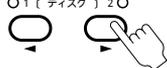
CLP-705には、パネルのリズム(打楽器メトロノーム)6種類と付属のディスクリズム40種類、合計46種類のリズムがあります。演奏する曲の拍子やジャンルに合わせてリズムを選び演奏してみましょう。

・打楽器メトロノームには、2拍子、3拍子、4拍子のシンプルリズムが入っています。

操作のまとめ

1 リズムを選ぶ

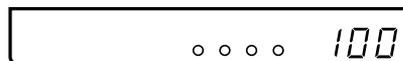
打楽器メトロノーム
○1 (4拍子) 2 ●
○3 (2拍子) 4 ○
○1 (3拍子) 2 ○
○1 (ディスク) 2 ○



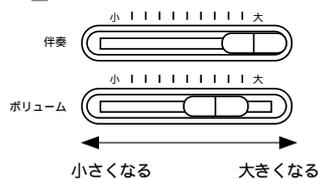
2 リズムをスタートさせる



3 テンポ(速さ)を決める



4 音量を調節する



5 リズムをストップさせる

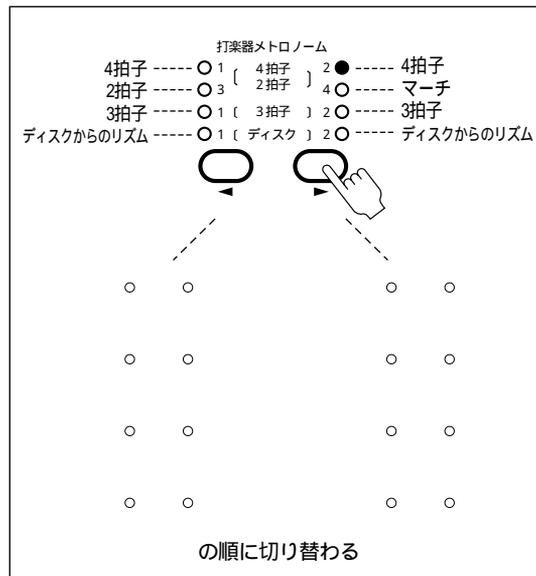


1 リズムを選ぶ

[打楽器メトロノーム] ボタンを押して、リズム(打楽器メトロノーム)を選びます。

⇒ランプがつかます。

- ・ディスクリズムを選ぶ方法については、32ページをご覧ください。
- ・「ディスク1」および「ディスク2」は、ディスクリズムを読み込む操作をしてから、選ぶことができます。



2 リズムをスタートさせる

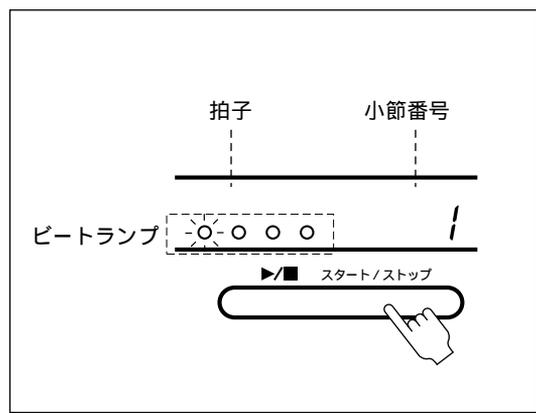
[/ スタート/ストップ] ボタンを押します。

⇒ディスプレイのテンポ表示が、小節表示に変わります。



・ソフトペダルを「スタート/ストップ」ペダルに切り換えておくと、このペダルでスタートさせることもできます。

⇒22ページ



シンクロスタート

- ・鍵盤を押すと同時に、リズムをスタートさせることもできます(シンクロスタート機能)。

[操作]

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら[曲/フレーズ]ボタンを押すと、シンクロスタート待ちになります。このあと鍵盤を弾き始めると、リズムもいっしょにスタートします。

また、シンクロスタート待ちを解除する場合は、[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら[曲/フレーズ]ボタンを押します。

カウントダウンスタート

- ・リズムを、カウント音やイントロパターンからスタートさせることもできます。

[操作]

[メトロノーム]ボタンを押しながら、[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。

- ・リズム(打楽器メトロノーム)とメトロノームを、いっしょに鳴らすこともできます。

[操作]

メトロノームを加えるときは[メトロノーム]ボタンを押し、リズムを加えるときは[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。リズム音とメトロノーム音がいっしょに鳴っているときに[/ スタート/ストップ]ボタンを押すと、リズムとメトロノームの両方が止まります。

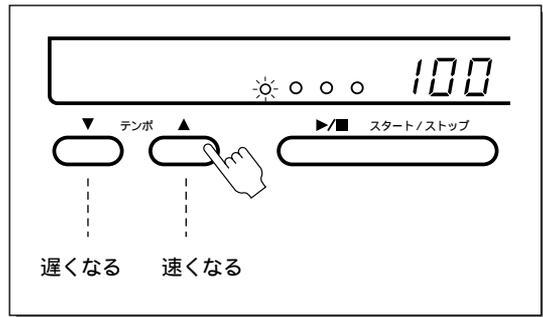
- ・メトロノームと自分で演奏する音との音量バランスは、[伴奏]スライダーで調節します。

3 テンポ(速さ)を決める

[テンポ]ボタンを押します。

⇨ 操作中はディスプレイにテンポ(1分間の拍数)が表示されます。

- ・テンポは、リズムスタート前に設定することもできます。
- ・♩ = 32 ~ 280 の範囲で設定できます。
- ・[テンポ]ボタンは、押すごとに値が1ステップずつ変わります。また、軽く押し続けるとゆっくり連続して変わり、強く押し続けるとすばやく連続して変わります。
- ・電源を入れたときは、「4拍子/2拍子の1」と、その標準テンポ♩ = 100が選ばれます。
- ・[テンポ]ボタンと[テンポ]ボタンを同時に押すと、選ばれているリズムの標準テンポに戻ります。

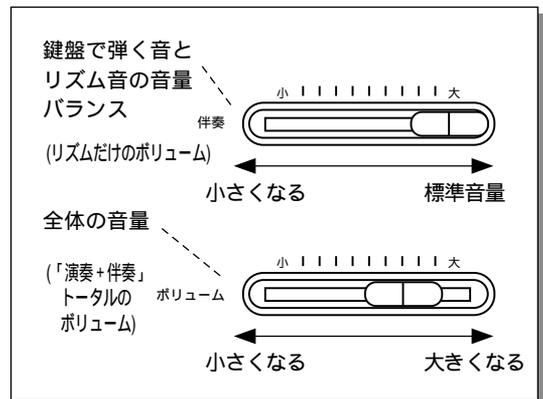


4 音量を調節する

全体の音量は[ボリューム]スライダーで調節します。鍵盤で弾く音とリズム音との音量バランスは、[伴奏]スライダーで調節します(リズム音だけ小さくなります)。実際にリズムに合わせて弾きながら調節してください。



- ・「ディスクオーケストラ・コレクション」やパフォーマンスメモリの再生の場合は、[伴奏]スライダーは、鍵盤で弾く音と、再生音全体の音量バランスの調節に使われます。



マニュアルボリューム

- ・リズムの音量に対して、鍵盤で弾く音量を小さくすることができます(マニュアルボリューム機能)。

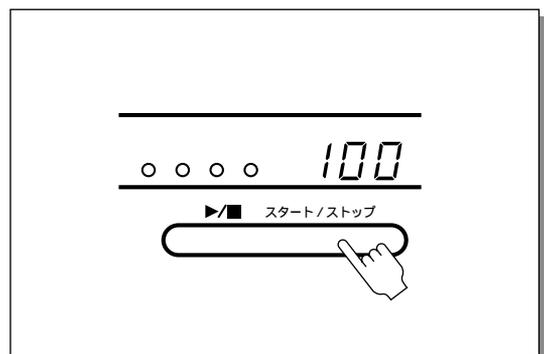
[操作]

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、[伴奏]スライダーで調節します。

- ・マニュアルボリューム機能は、「ディスクオーケストラ・コレクション」やパフォーマンスメモリーの再生のとき、再生音に対して、鍵盤で弾く音量を小さくするのにも使われます。

5 リズムをストップさせる

[/ スタート/ストップ] ボタンを押します。



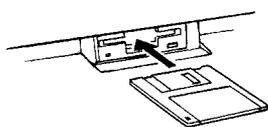
ディスク リズムを 使う

パネルのリズムの他に、付属の「ディスクリズム」には40種類のリズムが入っています。

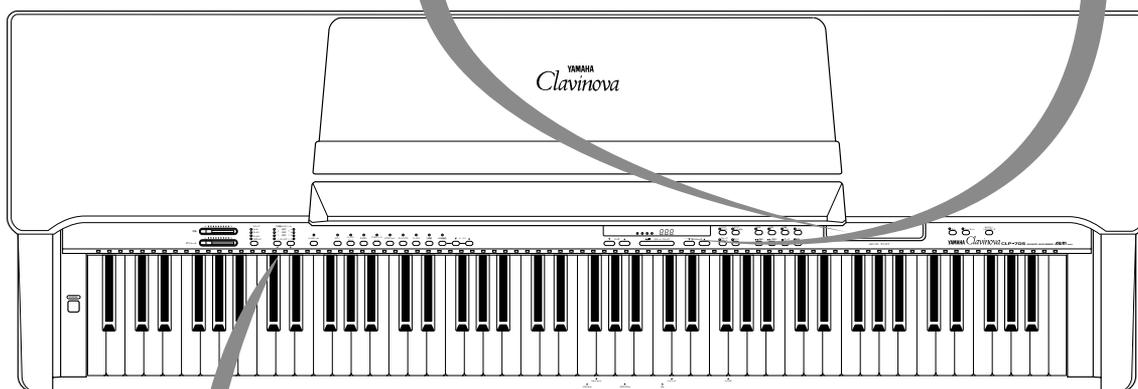
・ディスクリズムは、[打楽器メトロノーム]ボタンの[ディスク1]と[ディスク2]に記憶させて使用することができます。

操作のまとめ

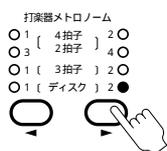
1 ディスクリズムを入れる



2 リズムを選ぶ



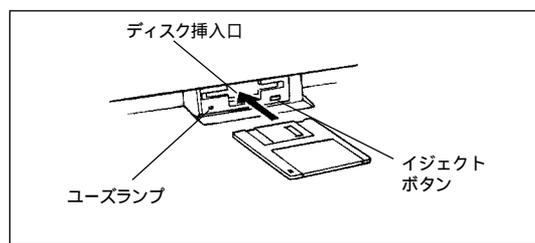
3 選んだリズムを「ディスクの1」か「ディスクの2」に記憶させる



1 ディスクリズムを入れる

ディスク挿入口に、図のとおりしっかりと入れます。

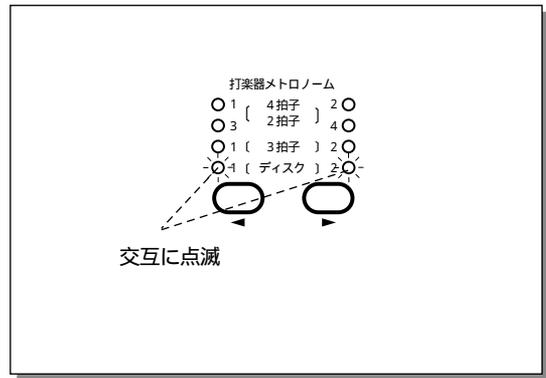
☞[ソングセレクト]ボタンのランプがつき、「ディスクの1」と「ディスクの2」のランプが交互に点滅します。



すでに「ディスクリズム」が差し込まれていて、[ソングセレクト]ボタンのランプが消えている場合は、[ソングセレクト]ボタンを押してランプをつけてください。ランプが消えていると、2の操作に進めません。



・ディスクの取り扱いについては、48ページの「フロッピーディスクについて」をよくお読みください。



2 リズムを選ぶ

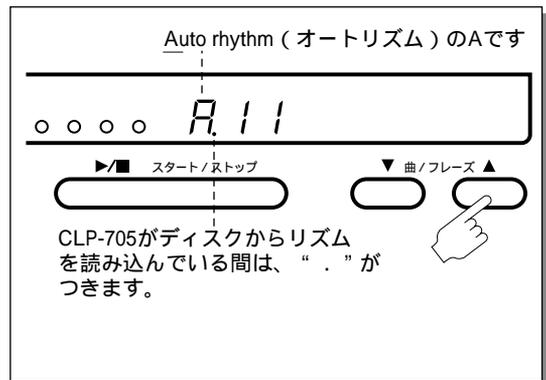
[曲/フレーズ]ボタンを押して、リズムを選びます。

⇒リズム番号が表示されます。

・選んだリズムはスタートさせることにより、聴いて確かめることができます。



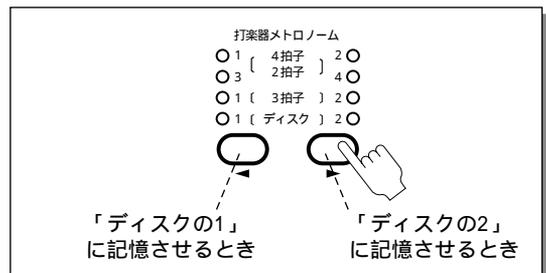
・ユーズランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。



3 選んだリズムを「ディスクの1」か「ディスクの2」に記憶させる

[打楽器メトロノーム]ボタンを押して、交互に点滅している[ディスクの1]、[ディスクの2]のどちらに記憶させるかを選びます。同時に記憶が実行されます。

⇒記憶が完了すると、選んだ方のランプがつき、[ソングセレクト]ボタンのランプは消えます。(ディスプレイは、テンポ表示にもどります。)



・「ディスクの1」または「ディスクの2」に、すでにリズムが記憶されていた場合は、記憶されていたリズムが消えて新しく選んだリズムが記憶されます。



- ・「ディスクの1」と「ディスクの2」に記憶させたリズムは、電源を切っても1週間程記憶されます。
- ・「ディスクリズム」のライトプロテクトタブを「記録可」の位置にしてリズムを読み込むと、読み込んだリズムの番号と読み込んだ場所が「ディスクリズム」上に記録されます。記録された「ディスクリズム」をディスクドライブユニットに入れて電源を入れると、「ディスクの1」、「ディスクの2」にリズムデータがない(消えてしまった)場合に、記録されたリズムが自動的に読み込まれます。
- ・ディスクリズムは、別のディスクへのコピーもできます。

⇒66ページ

- ・一番右端の鍵盤を押しながら電源を入れると、「ディスクの1」と「ディスクの2」に記憶されているリズムを消すことができます。

ディスク オーケストラを 聴く

クラピノーバには、別売の音楽ソフトとして「ディスクオーケストラ・コレクション」があります。
「ディスクオーケストラ・コレクション」を使って、ピアノトリオからピアノ協奏曲まで、いろいろなジャンルのピアノ演奏が楽しめます。
・付属の「はじめてブック専用ディスク」を使用する場合も、「ディスクオーケストラ・コレクション」と同様の操作を行ってください。

ディスクオーケストラ・コレクションを使ってできることは

聴く このページ

ディスクオーケストラといっしょにピアノパート（右手、左手、両手）を演奏する 37ページ

鍵盤ガイドランプに合わせて練習する 40ページ

フレーズマークが付いているフレーズをリピート練習する 43ページ

練習したいフレーズを自分で指定してリピート練習する 46ページ



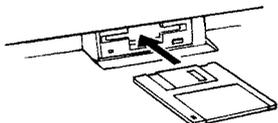
・ピアノプレーヤーのためのソフト「ピアノプレーヤーソフト」を再生させることもできます。「ピアノプレーヤーソフト」は、ピアノソロ(一部は連弾)を集めたディスクです。(一部、クラピノーバでは使えない「ピアノプレーヤーソフト」もあります。)



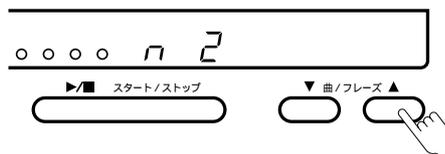
ディスクオーケストラ・コレクションを聴く

操作のまとめ

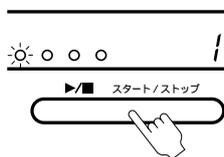
1 「ディスクオーケストラ・コレクション」のディスクを入れる



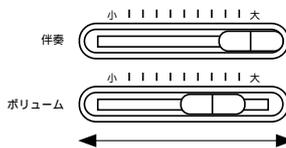
2 聴く曲の番号を選ぶ



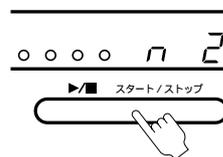
3 曲をスタートさせる



4 音量を調節する



5 曲をストップさせる

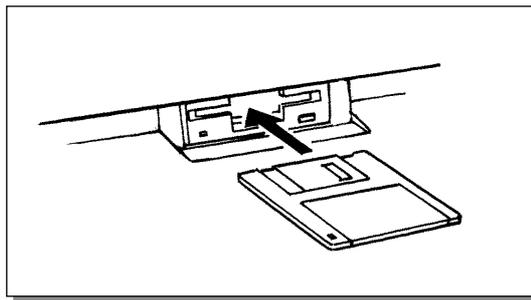


1 「ディスクオーケストラ・コレクション」のディスクを入れる

ディスク挿入口に、図のとおりはっきりと入れます。

⇨[ソングセレクト]ボタンのランプがつか
ます。

すでに「ディスクオーケストラ・コレクション」
が差し込まれていて、[ソングセレクト]ボタ
ンのランプが消えている場合は、[ソングセ
レクト]ボタンを押してランプをつけてくだ
さい。ランプが消えていると、2の操作に進
めません。



・ディスクの取り扱いについては、48ページの「フ
ロッピーディスクについて」をよくお読みく
ださい。

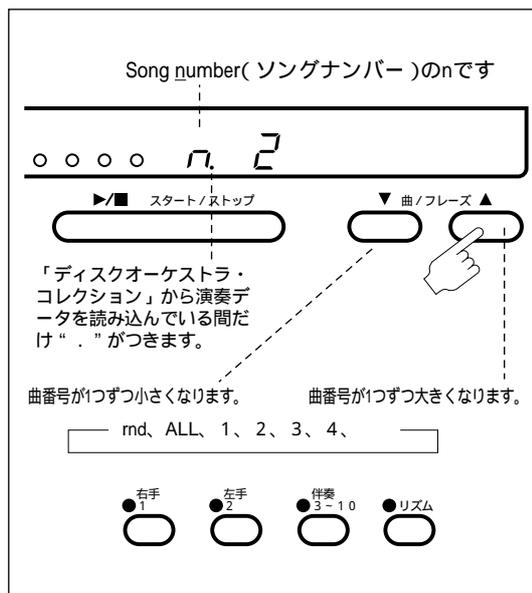
2 聴く曲の番号を選ぶ

[曲/フレーズ]ボタンを押して、曲を選びま
す。

⇨ディスプレイに曲番号が表示されます。

- ・「ALL」では、全曲を順番どおり繰り返します。
- ・「rnd」(random : ランダム)では、全曲を順不同に繰
り返します。

- ・[右手/1]、[左手/2]、[伴奏/3~10]、[リズム]ボタンのうち、
演奏データが入っているパートのランプが緑色につつま
す



3 曲をスタートさせる

[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。

⇨ディスプレイのビートランプが曲の進行に合
わせて点滅し、小節番号が表示されます。また、[右
手/1]、[左手/2]パートで弾かれている鍵盤のガ
イドランプがリアルタイムでつかます。

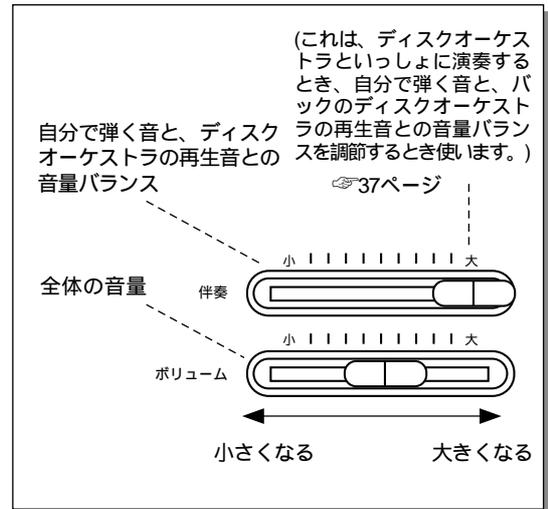


- ・今選ばれている曲から全曲を繰り返すことが
できます。[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しな
がら、[/ スタート/ストップ]ボタンを押
してください。
- ・[ランプキャンセル]ボタンを押して、鍵盤ガイ
ドランプを消すこともできます。

- ・曲によっては、小節番号が楽譜と異なって表示されるこ
とがあります(6/8拍子の曲など)。
- ・カウント音のあとにスタートする曲もあります。
- ・テンポを自由に変えることもできます。
- ・ピアノプレーヤソフトでは、ビートランプはつかません。
ディスクオーケストラ・コレクションの一部(リズムの入
っていない曲など)でも、ビートランプが点滅しないも
のがあります。その場合でも、再生中は曲の進行を示す
数字が表示されますが、この数字は小節番号とは関係あ
りません。
- ・「ALL」や「rnd」での再生中は、ディスプレイには小
節番号ではなく、再生中の曲番号が表示され、3つの「。」
がつかます。

4 音量を調節する

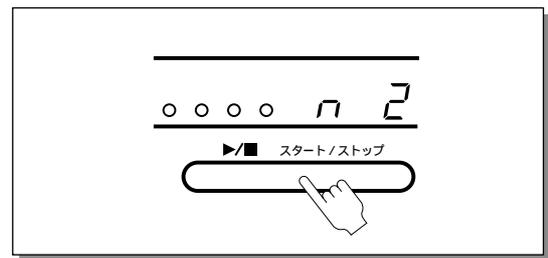
[ボリューム]スライダーで、音量を調節します。
([伴奏]スライダーは通常「大」の位置にしておいてください。)



5 曲をストップさせる

[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。

・曲の最後までくると、自動的にストップします。



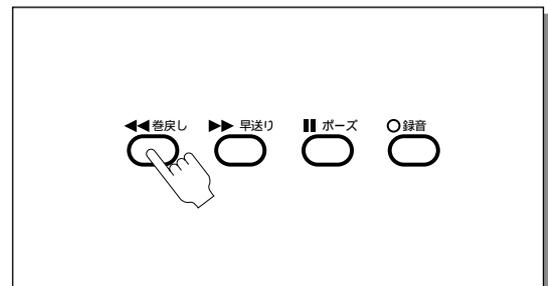
巻戻し/早送り/ポーズ(一時停止)

[操作]

小節をもどすとき：[巻戻し]ボタンを押すと、1小節前へもどります。(押し続けると連続してもどります。)

小節を進めるとき：[早送り]ボタンを押すと、1小節先へ進みます。(押し続けると連続して進みます。)

一時停止するとき：[|| ポーズ]ボタンを押します。(もう一度押すと、そこから再スタートします。)



・ディスクオーケストラを再生したとき、[右手/1]、[左手/2]のパートに限っては、別の音色に変えることができます。(このとき、[右手/1]、[左手/2]は同じ音色の設定になります。)ただし曲の途中で音色の切り換えのデータが入っていると、もとの設定音色にもどります。また、曲番号を変えた場合も、もとの設定音色にもどります。

ディスク オーケストラと いっしょに演奏する (パートオン/オフ)

「ディスクオーケストラ・コレクション」のメインパート(右手、左手、両手)をオフにして、ディスクオーケストラといっしょに演奏することができます。ピアノだけの演奏では得られないアンサンブル演奏をお楽しみください。

操作のまとめ

1 曲を選ぶ

2 演奏したいパート(右手/左手/両手)を選ぶ

3 演奏をスタートさせる

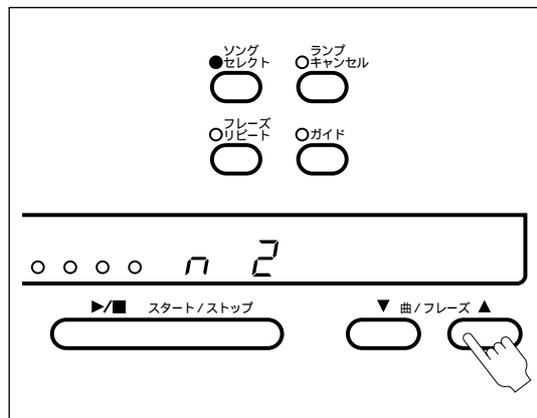
音量を調節する

4 演奏をストップさせる

1 曲を選ぶ

[ソングセレクト]ボタンのランプがついているかどうか確認します。(ついていない場合は、[ソングセレクト]ボタンを押してつけてください。)

[曲/フレーズ]ボタンで練習したい曲の番号を選びます。

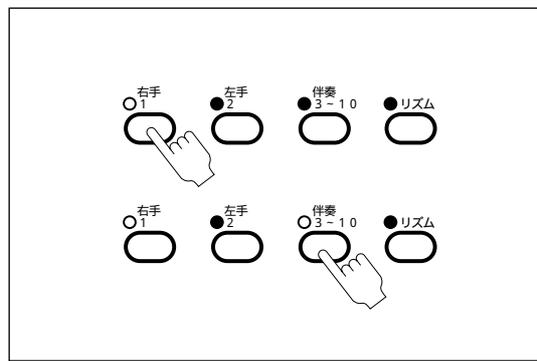


2 演奏したいパート(右手/左手/両手)を選ぶ

自分で演奏したいパート(右手/左手/両手)を選び、そのパートの再生をオフにします(ボタンのランプを消します)。



・伴奏パートやリズムパートもオフにして、演奏することもできます。

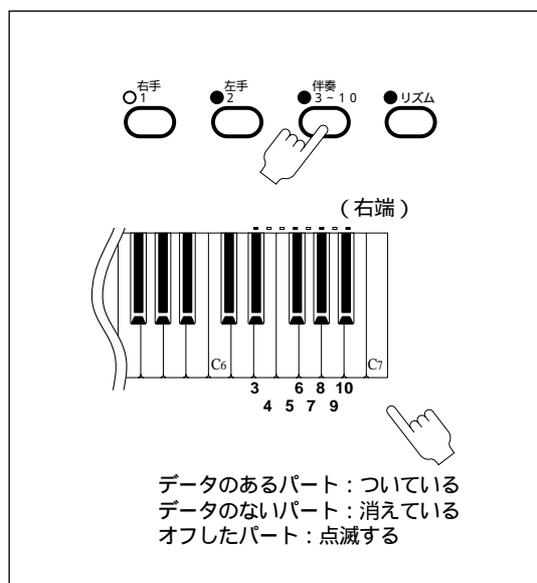


- ・メトロノームを、ディスクオーケストラといっしょに使うこともできます。
- ・伴奏パートは3~10の8つのパートで構成されており、それぞれパートごとにオン/オフすることもできます。

[操作]

[伴奏/3~10]ボタンを押すと、各パートを示す鍵盤(下図参照)のガイドランプのうち、データのあるパートのガイドランプが付きます。

[伴奏/3~10]ボタンを押したまま、消したいパートを示す鍵盤を押すと、その鍵盤のガイドランプが点滅して、そのパートがオフされます。



3 演奏をスタートする

[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。

↳曲に合わせて、オフにしたパートを演奏してください。

音量を調節する

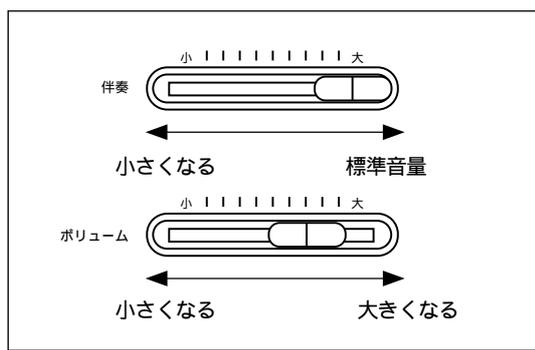
全体の音量は[ボリューム]スライダーで調節します。鍵盤で弾く音とディスクオーケストラとの音量バランスは、[伴奏]スライダーで調節します(ディスクオーケストラの音だけ小さくなります)。



- ・各パートは、再生中でもオン/オフできます。
- ・弾くべき鍵盤を、鍵盤ガイドランプが示してくれます。([ランプキャンセル]ボタンで、ガイドランプを消すこともできます。)
- ・再生音の音量に対して、鍵盤で弾く音量を小さくすることができます(マニュアルボリューム機能)。

[操作]

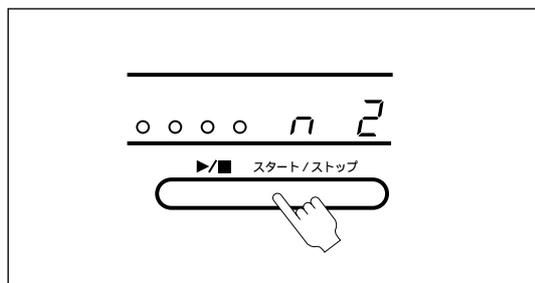
[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、[伴奏]スライダーで調節します。



4 演奏をストップさせる

演奏を曲の途中でやめるときは[/ スタート/ストップ]ボタンを押して、ディスクオーケストラもストップさせてください。

・曲の最後までくると、自動的にストップします。

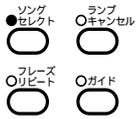


鍵盤ガイドランプ に合わせて 練習する (ガイド機能)

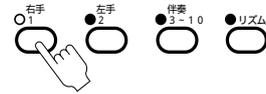
CLP-705には、練習に便利な「ガイド機能」があります。鍵盤ガイドランプが教えてくれる音を弾くまで、ディスクオーケストラがあなたを待っていてくれる、やさしい機能です。

操作のまとめ

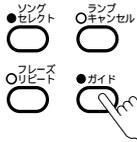
1 曲を選ぶ



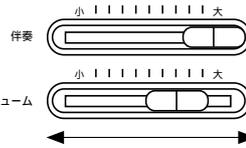
2 練習したいパート(右手/ 左手/両手)を選ぶ



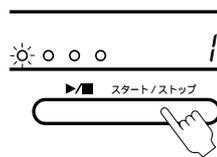
3 ガイド機能を選ぶ



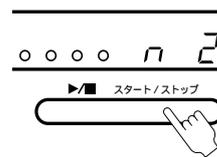
音量を調節する



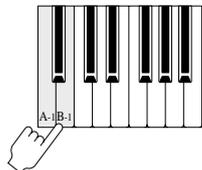
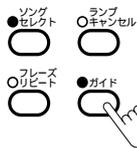
4 練習をスタートする



5 練習をストップする



ガイドの方法を選ぶ



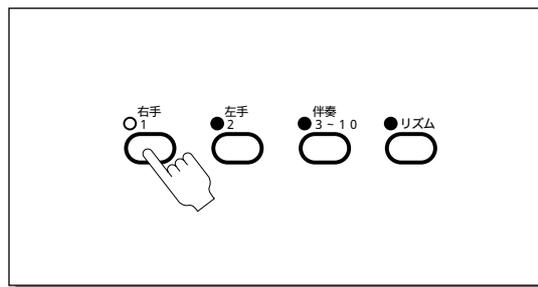
1 曲を選ぶ

[ソングセレクト]ボタンのランプがついているかどうか確認します。(ついていない場合は、[ソングセレクト]ボタンを押してつけてください。)

[曲/フレーズ]ボタンで練習したい曲の番号を選びます。

2 練習したいパート(右手/左手/両手)を選ぶ

自分で練習したいパート(右手/左手/両手)を選び、そのパートの再生をオフにします(ボタンのランプを消します)。



・伴奏パートやリズムパートをオフにして練習することもできます。

[操作]

伴奏パートをオフにするとき：

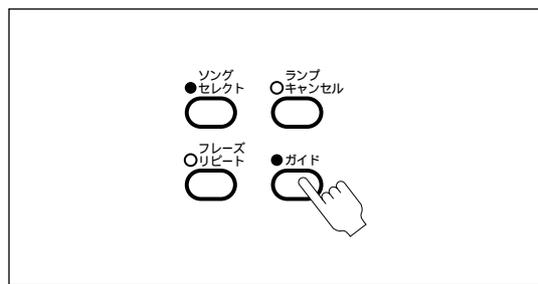
[伴奏3~10]ボタンを押してランプを消します。

リズムパートをオフにするとき：

[リズム]ボタンを押してランプを消します。

3 ガイド機能を選ぶ

[ガイド]ボタンを押して、ランプをつけます。



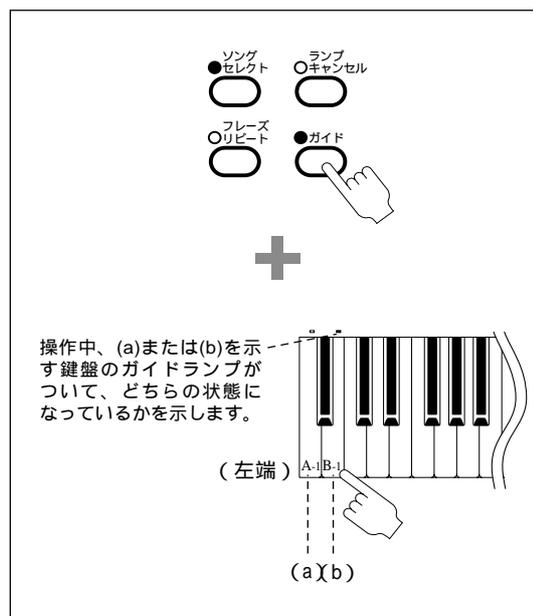
ガイドの方法を選ぶ

ガイド機能には、ディスクオーケストラが待つ方法に次の2種類があります。

- (a)楽譜の音符どおり正確に待ってくれる方法
- (b)だいたい弾ければ曲が止まらずに進んでいく方法

電源を入れたときは、(a)になっています。[ガイド]ボタンを押しながら、左端から2番めの白鍵を押すと、(b)に切り替えることができます。

- ・(a)にもどすときは、[ガイド]ボタンを押しながら、一番左端の白鍵を押します。
- ・(b)では、鍵盤ガイドランプが示している鍵盤を弾かなくても、そこから4分音符8つ分(=4/4拍子で2小節分)まではディスクオーケストラが止まらずに進みます。



4 練習をスタートする

[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。

⇒曲がスタートします。ガイドランプに合わせて練習してみましょう。。

音量の調節の操作は、39ページの説明と同じです。

5 練習をストップする

練習を曲の途中でやめるときは[/ スタート/ストップ]ボタンを押して、ディスクオーケストラもストップさせてください。

- ・曲の最後までくると、自動的にストップします。

ガイド機能を解除するときは、[ガイド]ボタンを押してランプを消します。

フレーズを リピート練習する (フレーズリピート機能)

「ディスクオーケストラ・コレクション」の曲の中の、あるフレーズだけを繰り返し練習したいとき、CLP-705のフレーズリピート機能をお使いください。

- ・「ディスクオーケストラ・コレクション」の多くの曲には、楽節や1コーラスごとに①、②、③のようにフレーズマークがついています。
- ・フレーズリピート機能は、その中の1つのフレーズを選んで、繰り返し練習できる機能です。たとえば次の楽譜で②を選べば、②の4小節だけが繰り返されます。



- ・自分でフレーズを指定してリピート練習をすることができる、A-Bリピート機能もあります。

→ 46ページ

操作のまとめ

- 1 曲を選ぶ**
 ソング
 フレーズ
 リピート
 リンク
 キャンセル
 ガイド
 The display shows a list of songs with '2' selected. The 'スタート/ストップ' button is visible.
- 2 練習したいパート(右手/左手/両手)を選ぶ**
 両手
 右手
 左手
 リズム
 The '両手' button is selected.
- 3 フレーズリピート機能を選ぶ**
 フレーズ
 リピート
 リンク
 キャンセル
 ガイド
 The 'フレーズ' button is selected. The display shows 'P. 1'.
- 4 リピート練習するフレーズを選ぶ**
 The display shows 'P. 2'. The 'スタート/ストップ' button is visible.
- 5 練習をスタートする**
 The display shows '5'. The 'スタート/ストップ' button is visible.
- 6 練習をストップする**
 The display shows 'P. 2'. The 'スタート/ストップ' button is visible.

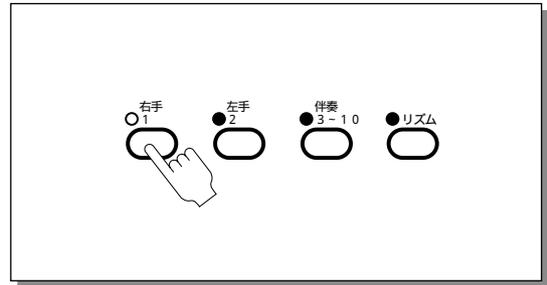
1 曲を選ぶ

[ソングセレクト]ボタンのランプがついているかどうか確認します。(ついていない場合は、[ソングセレクト]ボタンを押してつけてください。)

[曲/フレーズ]ボタンで練習したい曲の番号を選びます。

2 練習したいパート(右手/左手/両手)を選ぶ

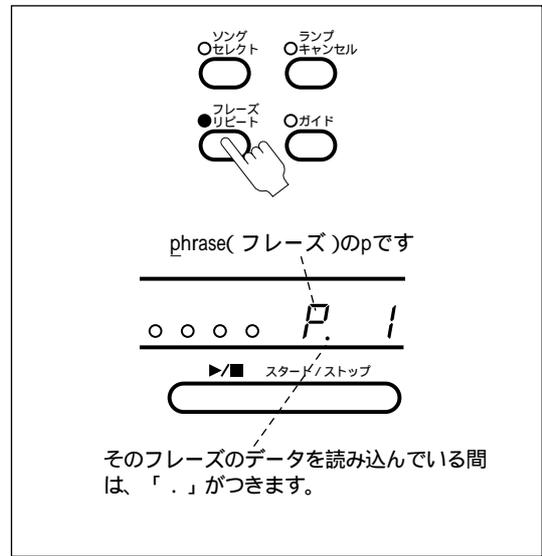
自分で練習したいパート(右手/左手/両手)を選び、そのパートの再生をオフにします(ボタンのランプを消します)。



3 フレーズリピート機能を選ぶ

[フレーズリピート]ボタンを押してランプをつけます。

⇨ディスプレイにフレーズ番号が表示されます。



4 リピート練習するフレーズを選ぶ

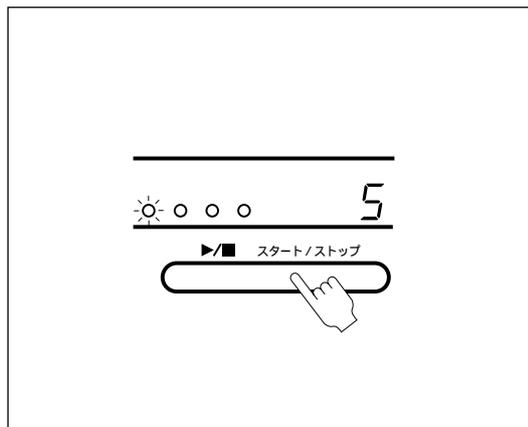
[曲/フレーズ]ボタンで、リピート練習したいフレーズ番号を選びます。

5 練習をスタートする

[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。

⇨1小節のカウント音のあとに、選んだフレーズが繰り返し再生され、リピート練習をすることができます。

- ・「ディスクオーケストラ・コレクション」の中でフレーズマークがない曲や、ピアノプレーヤソフト では、フレーズ番号は1(P1)だけがあり、フレーズリピートさせると、1曲全体のリピートになります。このときは、カウント音は出ません。



6 練習をストップする

[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。

フレーズリピート機能を解除するときは、[フレーズリピート]ボタンを押してランプを消します。

フレーズを 指定して リピート練習する (A-Bリピート機能)

「ディスクオーケストラ・コレクション」のフレーズマークとは別に、練習したいフレーズのはじまりと終わりにそれぞれA点とB点を指定して、リピート練習をすることができます。これは、ピアノプレーヤソフトや、パフォーマンスメモリーで録音した曲でもできます。
 ・たとえば次の楽譜のようにA点、B点を指定すると、A点とB点の間だけが繰り返されます。



操作のまとめ

1 A点とB点を指定する

曲を再生している間に...

MIDI/トランスポーズ + フレーズリピート (A点) | ソングセレクト / ランプ / フレーズリピート (B点) | ソングセレクト / ランプ / フレーズリピート (B点) | スタート/ストップ

再生を止める

2 練習をスタートする

右手 左手 伴奏 3=10 リズム

練習したいパートを選ぶ

ソングセレクト / ランプ / フレーズリピート (A点) | ソングセレクト / ランプ / フレーズリピート (B点) | スタート/ストップ

[フレーズリピート]ボタンを押す

スタート/ストップ

[/ スタート/ストップ]ボタンを押す

3 練習をストップする

スタート/ストップ

1 A点とB点を指定する

曲の再生中に、[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、A点で[フレーズリピート]ボタンを押します。

↳[フレーズリピート]ボタンのランプが点滅します。

点滅している[フレーズリピート]ボタンを、B点で押します。

↳[フレーズリピート]ボタンのランプは消えます。

[/ スタート/ストップ]ボタンを押して、再生を止めます。

2 練習をスタートする

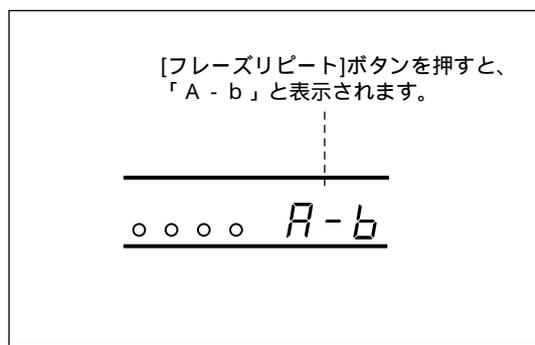
練習したいパート(右手/左手/両手)を選び、そのパートの再生をオフにします。

[フレーズリピート]ボタンを押します。

↳[フレーズリピート]ボタンのランプがつかます。

[/ スタート/ストップ]ボタンを押して、再生します。

↳A点とB点間のフレーズが繰り返し再生され、リピート練習をすることができます。



・A-Bリピートでは、カウント音はできません。

・パフォーマンスメモリーで録音した曲も、A点、B点を指定すると、A Bリピート練習することができます。

3 練習をストップする

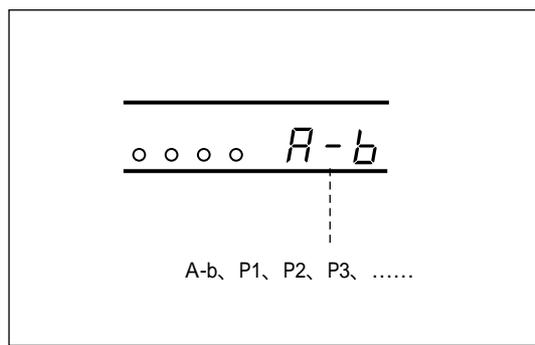
[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。

A-Bリピート機能を解除するときは、[フレーズリピート]ボタンを押してランプを消します。

一度A点、B点を指定すると、A点とB点は曲番号を変えるまで記憶されていますので、何度でもフレーズリピート機能の操作に従って、A-Bリピート練習をすることができます。(フレーズ番号を選ぶとき[44ページ]、「A-b」も表示されますので、フレーズ番号と同じように「A-b」を選んでください。)



・曲番号を変えると、指定したA点とB点は解除されます。



フロッピーディスクについて

「ディスクリズム」や「ディスクオーケストラ・コレクション」のディスクには、すでにデータが書き込まれています。これから説明する「パフォーマンスメモリー」では、データが入っていないディスク(ブランクディスク)を使用します。(CLP-705には、ブランクディスクが1枚ついてきます。)

CLP-705には、市販の「3.5インチ2DDフロッピーディスク」をご使用ください。

演奏データなど大切なデータの入ったフロッピーディスクを誤ってこわさないように、以下の点にご注意ください。

■フロッピーディスクの取り扱い

- ・テレビやスピーカーなど、磁気の強い物に近づけないでください。
- ・物をのせたり、折り曲げたりしないでください。
- ・直射日光の当たる場所や、高温または低温の場所に置かないでください。
- ・濡らしたり、湿ったところに置かないでください。
- ・シャッターを開けて内部のディスク表面に手を触れないでください。
- ・ほこりの多い場所に置かないでください。
- ・使用後はケースに入れて保管してください。

■絶対にしてはいけないこと

ディスク挿入口の左下にあるユーズランプがついているときは、絶対に電源を切ったり、ディスクを取り出さないでください。CLP-705の故障の原因となるばかりでなく、ディスクに録音されている演奏情報をこわしてしまいます。(ユーズランプがついている間は、CLP-705とフロッピーディスクの間でデータがやりとりされています。)

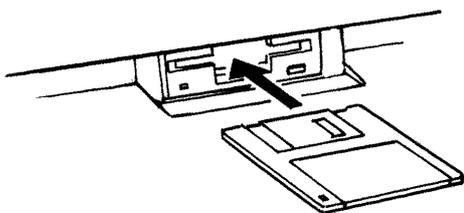
■フロッピーディスク以外のものを入れないで……
ディスク挿入口にフロッピーディスク以外のものを入れないようにご注意ください。ディスクがこわれたり、CLP-705の故障の原因になります。

■ヘッドクリーニングについて

CLP-705のディスクドライブユニットのヘッドは、使っていくうちに汚れが付き、データのエラーが起る場合があります。このような場合は、市販の3.5インチ用ヘッドクリーニングディスクで、ヘッドクリーニングをしてください。

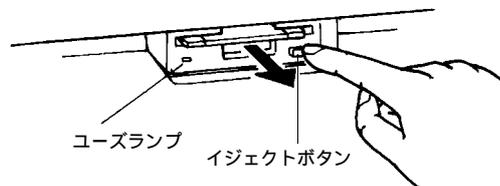
■フロッピーディスクの入れかた

ディスク挿入口へ、図のようにディスクの表を上にして、ていねいに差し込んでください。



■フロッピーディスクの取り出しかた

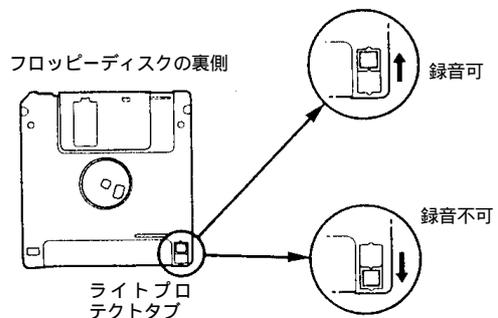
ユーズランプが消えていることを確認した上で、イジェクトボタンをしっかりと押します。



- ・フロッピーディスクが完全に出了ことを確認し、取り出してください。
- ・イジェクトボタンをしっかりと押さない場合や急いで押した場合は、フロッピーディスクが途中でひっかかり、取り出せなくなる場合があります。この場合は、もう一度イジェクトボタンをしっかりと押しなおすか、またはフロッピーディスクを再度ディスク挿入口に完全に差し込んで、イジェクトボタンをしっかりと押しなおして、取り出してください。(無理にフロッピーディスクを取り出そうとすると、ディスクがこわれたり、CLP-705の故障の原因になります。)

■ライトプロテクトタブについて

フロッピーディスクには、データをディスクに書き込めないようにする「ライトプロテクトタブ」がついています。大切なデータの入ったディスクは、誤って消したり、書き換えてしまうことのないように、このタブの位置を録音不可の側にセットしてください。



■データのバックアップについて

録音した大切な曲は、バックアップのために別のディスクにコピーしておくことをおすすめします(☞66ページ)。トラブルによりディスクが使えなくなったり、誤って曲を消してしまっても、バックアップがあれば安心です。

フォーマット (初期化) する

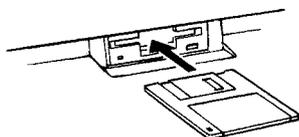
フロッピーディスクをCLP-705で使うためには、「フォーマット(初期化)」という操作が必要です。



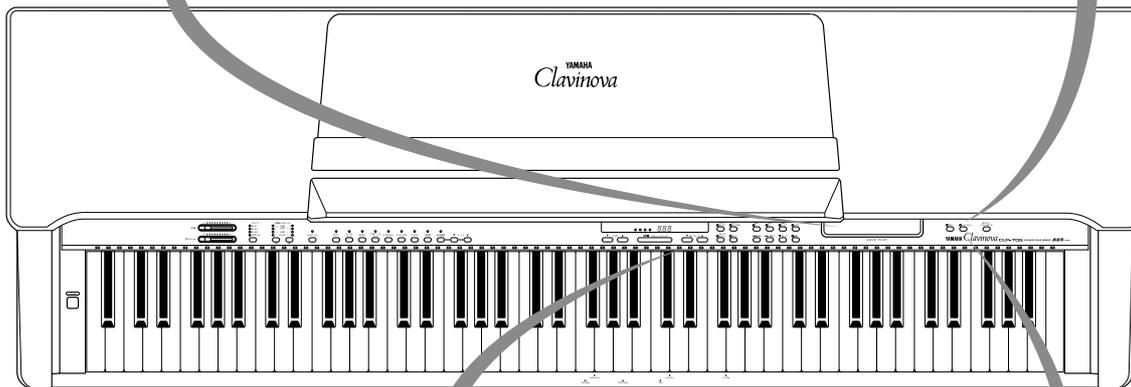
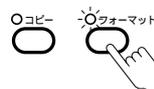
- ・データの入っているディスクをフォーマットすると、ディスクのデータはすべて消えてしまいますのでご注意ください。
- ・「ディスクオーケストラ・コレクション」、「ピアノプレーヤソフト」のディスクは、大切なデータを消してしまわないようにするため、フォーマットできないようになっています。

操作のまとめ

1 ディスクを入れる



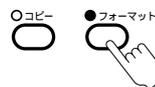
2 [フォーマット]ボタンを押す



3 イエスまたはノーを選ぶ



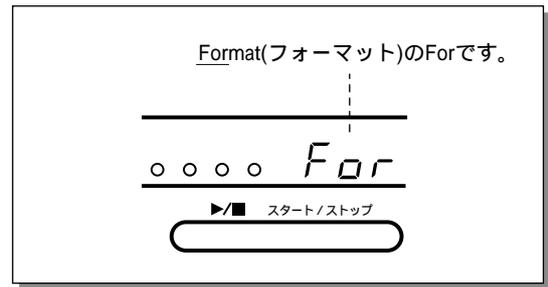
4 フォーマットを実行する



1 ディスクを入れる

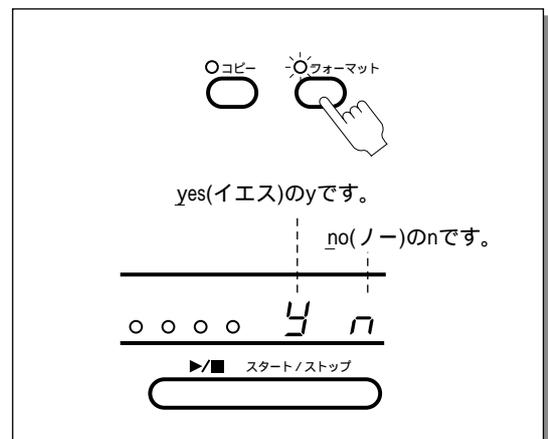
ディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

⇒フォーマットされていないディスクを差し込んだ場合、ディスプレイに「For」が表示されます。



2 [フォーマット]ボタンを押す

⇒ランプが点滅をはじめ、ディスプレイに「Y n」の確認表示が出ます。



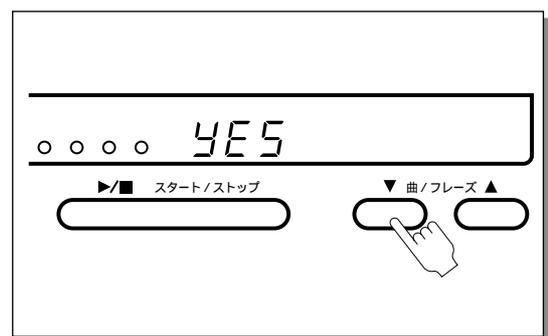
3 イエスかノーを選ぶ

フォーマットを実行したい場合は、[曲/フリーズ]ボタンを押します。

⇒「YES」の表示に変わります。

・中止したい場合は、[曲/フリーズ]ボタンを押して「no」にします。

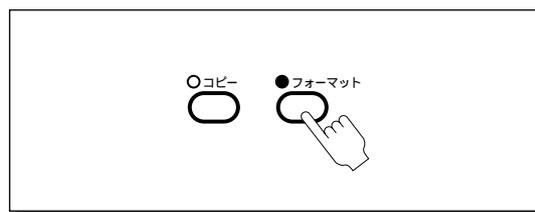
⇒[フォーマット]ボタンのランプが消えます。



4 フォーマットを実行する

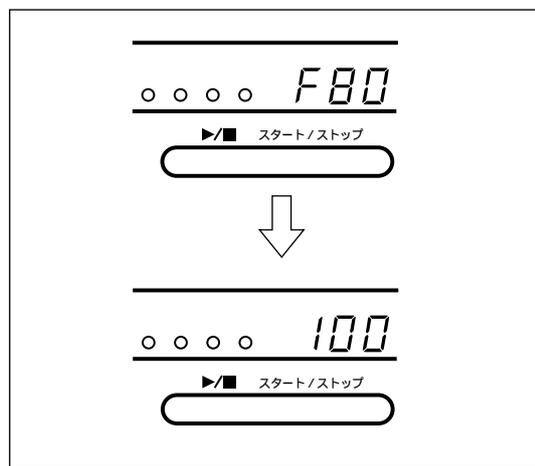
[フォーマット]ボタンを押します。

⇒ランプが点灯に変わり、フォーマットがはじ
まります。



⇒しばらく時間がかかりますが、「F80」の
表示がテンポ表示にもどるまでお待ちくだ
さい。

・ディスプレイの値が「F80」から1つずつ小さくなっ
ていきます。フォーマットが終了すると、[フォーマット]
ボタンのランプが消えて、ディスプレイはテンポ表示に
もどります。



パフォーマンス メモリーに ついて

CLP-705には、フロッピーディスクに自分の演奏を録音し、再生することができるパフォーマンスメモリー機能があります。

録音した演奏を再生して練習に役立てたり、完成した演奏を録音して保存しておくこともできます。

さらにパフォーマンスメモリーには、録音トラックが10個とリズムトラックがあり、最大10回まで、録音を重ねて1つの曲を作ることができます(多重録音)。これを使って、通常の演奏では表現できないアンサンブルサウンドを作り出すことができます。

次の図は、パフォーマンスメモリーで録音して作ることができる曲(ソング)の構成例を示しています。



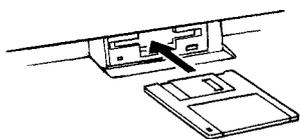
- ・トラックごとに何のパートを入れるかは、自由に決めることができます。
- ・リズムは、15トラックに固定です。
- ・このような曲(ソング)を、1つのディスクの中に最大60曲まで入れることができます。(1曲の演奏時間が長かったり、たくさんの機能を使うと、60曲まで入らないこともあります。)

演奏を録音・再生する

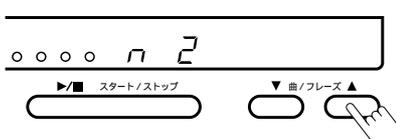
はじめに1トラックだけの録音・再生をしてみましょう。

操作のまとめ

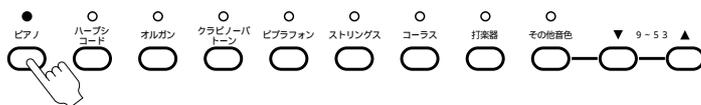
1 録音用のディスクを入れる



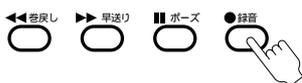
2 録音する曲の番号を指定する



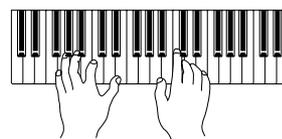
3 録音する音色を選ぶ



3 [録音]ボタンを押す



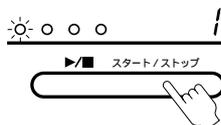
3 録音を始める



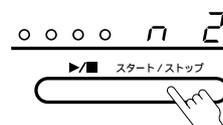
4 録音を終る



5 再生する



6 再生を止める



1 録音用のディスクを入れる

フォーマット済みのフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

⇨[ソングセレクト]ボタンのランプがつか
ます。



・まだフォーマットしていないディスクを差し込んだ場合、「For」の表示になります。まずフォーマットをしてください。

⇨49ページ

・すでにディスクが差し込まれていて、[ソングセレクト]ボタンのランプが消えている場合は、[ソングセレクト]ボタンを押してランプをつけてください。

2 録音する曲の番号を指定する

[曲/フレーズ]ボタンを押して、曲番号を指定します。

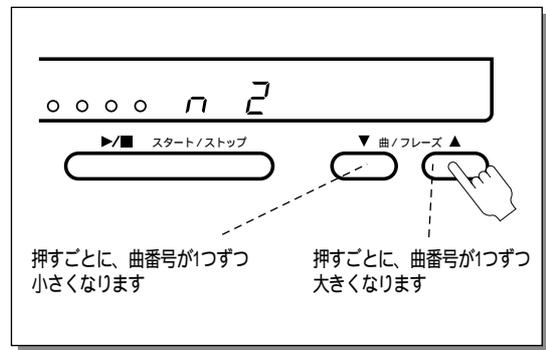
⇨ディスプレイに曲番号が表示されます。



・曲番号を選んだとき、[右手/1]、[左手/2]、[伴奏/3~10]、[リズム]ボタンのどれかのランプが緑色についた場合は、すでにその曲番号は録音済みであることを示します。

・録音済みの曲番号に再録音する場合は、消去(デリート)の操作で、その曲番号の内容を消してから録音することをおすすめします。

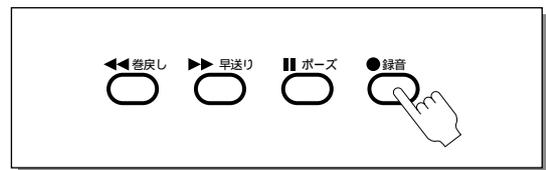
⇨70ページ



3 録音する

音色ボタンで、録音する音色を選びます。
[録音]ボタンを押します。

⇨ランプがつかます。



・[右手/1]のランプが赤色について録音待機状態になります。

・[録音]ボタンを離すと、そのディスクの記憶残容量がディスプレイにk(キロ)バイト表示されます。記憶残容量は、何も録音していないディスクの場合で、約700kバイトです。録音後は、次に[録音]ボタンを押して離れた時点で、残りのバイト数が表示されます。また、記憶残容量がなくなると、「FUL」の表示になります。

707 ~ FUL
707kバイト (Full:ディスクの残容量がなくなったという意味)

録音を始めます。
演奏を始めると、録音が始まります。

4 録音を終る

[/ スタート/ストップ]ボタン、[録音]ボタンのどちらかを押して録音を終わります。



- ・録音が終わった後も、ディスクにデータが書き込まれている間は、[r E c](recording: 録音中の意味)が表示されます。この間はディスクを抜かないでください。書き込みが終わると、録音したパートのボタンが緑色について再生待機状態となります。
- ・録音した内容は、自動的にフロッピーディスクに記録されます。

5 再生する

[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。



- ・再生音といっしょに演奏することもできます。(演奏する音色は自由に選ぶことができます。)
- ・リズムやテンポなどを変えて再生させることもできます。
- ・一時停止(⇐36ページ)や、巻戻し(⇐36ページ)、早送り(⇒36ページ)などもできます。

6 再生を止める

[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。

- ・曲の最後までくると、自動的に止まります。



- ・ディスクを入れなくても短い曲ならCLP-705本体に録音できますが(最大約500音符までですが、リズムやペダルを使うとさらに減ります)、電源を切ったり別の曲が読み込まれた時点で消えてしまいます 下記[注意]参照。その曲を保存しておきたい場合は、他の操作へ移る前に次の操作でディスクにコピーしてください。

[コピー]ボタンを押します。

⇨コピーボタンのランプが点滅を始め、ディスプレイは「c 0」の表示になります。

ディスクを差し込みます。

コピー先の曲番号を、[曲/フレーズ /]ボタンで指定します。

[コピー]ボタンを押します。

⇨コピー先の曲番号に何もデータがないときは、[コピー]ボタンのランプがつき、コピーが始まります。コピー中はディスプレイが「c p y」の表示になります。

- ・コピー先の曲番号にすでにデータがあるときは、コピーによりそのデータを書き換えてよいかどうかの確認のため、ディスプレイに「Y n」(イエスまたはノー)の表示が出ます。書き換えていい場合は、[曲/フレーズ /]ボタンを押して、「Yes」を選びます。

⇨コピーが開始されます。

書き換えたくない場合は、[曲/フレーズ /]ボタンを押して「No」を選びます。

⇨コピーが中止されます。

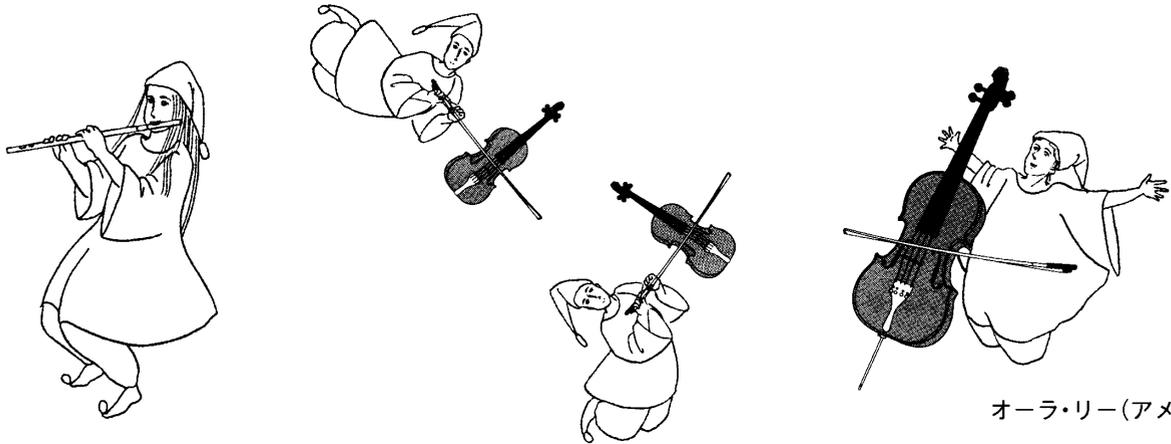
[注意]

ディスクを入れずに録音したあと、ディスクオーケストラ・コレクションやピアノプレーヤソフトのディスク、ディスクリズムをディスクドライブに入れると、CLP-705本体にディスクのデータが読み込まれ、録音した曲は消えてしまいます。ただし、パフォーマンスメモリーの場合は、本体にディスクを入れずに録音した曲があると、ディスクのデータが読み込まれず、[曲/フレーズ]ボタンで曲番号を選ぶこともできません。その場合、次のどちらかの操作をしてください。

- ・ディスクを入れずに録音した曲を消してよい場合：[ソングセレクト]ボタンを押し直してランプをつける。
- ・ディスクを入れずに録音した曲を保存したい場合：上記のコピーの操作をする。

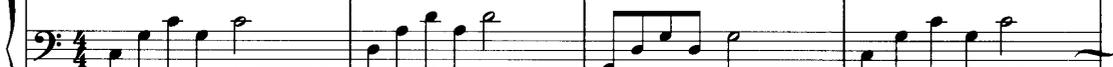
多重録音を する

3つのトラックとリズムを使って「オーラ・リー」を多重録音してみましょう。



オーラ・リー(アメリカ民謡)

トラック1  

トラック2  

トラック3  



リズム

「4拍子/2拍子の2」

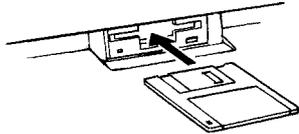


.....

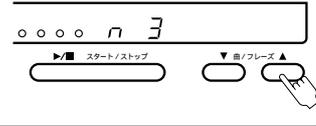


操作のまとめ

1 録音用ディスクを入れる



2 録音する曲の番号を指定する



3 録音する トラック1とリズムを録音する

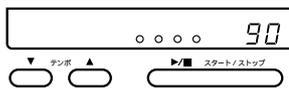
「50 フルート」の音色を選ぶ



「4拍子/2拍子の2」を選ぶ



速さを ♩ = 90 くらいにする



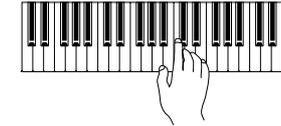
[録音]ボタンを押す



[右手/1]と[リズム]ボタンを押す



録音を始める



録音を終える



トラック2を録音する

「ピアノ」の音色を選ぶ

[録音]ボタンを押す

[左手/2]ボタンを押す



録音を始める



録音を終える

トラック3を録音する

「ストリングス」の音色を選ぶ

[録音]ボタンを押す

[伴奏/3~10]ボタンを押す



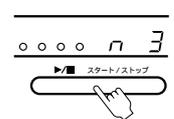
録音を始める

録音を終える

4 再生する



5 再生を止める



1 録音用のディスクを入れる

フォーマット済みのフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。



・フォーマットしていないディスクを差し込んだ場合、「For」の表示になります。まずフォーマットをしてください。

☞ 49ページ

・すでにディスクが差し込まれていて、[ソングセレクト]ボタンのランプが消えている場合は、[ソングセレクト]ボタンを押してランプをつけてください。

2 録音する曲の番号を指定する

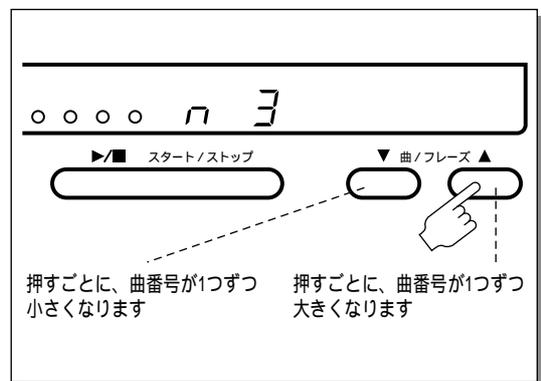
[曲/フレーズ]ボタンを押して、曲番号を指定します。

☞ディスプレイに曲番号が表示されます。



・録音済みの曲番号に再録音する場合は、消去(デリート)の操作をして、その曲番号の内容を消してから録音してください。

☞ 70ページ



押すごとに、曲番号が1つずつ小さくなります

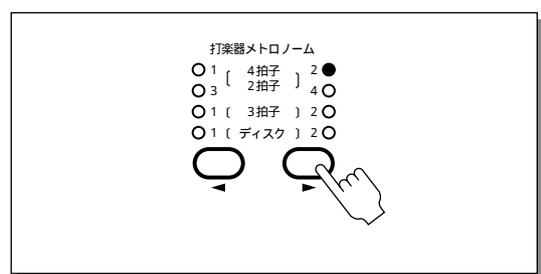
押すごとに、曲番号が1つずつ大きくなります

3 録音する

<トラック1とリズムを録音する>

音色ボタンで、「フルート」(音色番号50)を選びます。

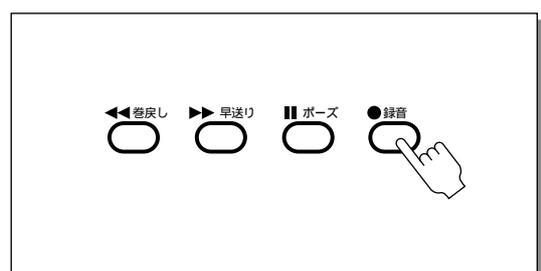
[打楽器メトロノーム]ボタンを押して、「4拍子/2拍子の2」を選びます。



[テンポ]ボタンで、曲の速さを♩=90くらいにします。

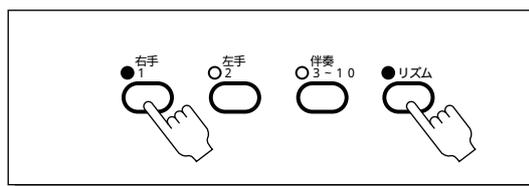
[録音]ボタンを押します。

☞ランプがつかます。

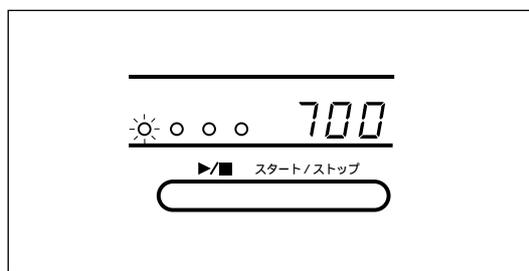


[右手/1]と[リズム]ボタンを押します。

⇒[右手/1]と[リズム]のランプが赤くついて、トラック1とリズムトラックが録音待機状態になります。



⇒カウント音が鳴りビートランプの1拍目が点滅します。



録音を始めます。
演奏を始めるとリズムがスタートし、録音が始まります。



録音を終わめます。[/ スタート/ストップ]ボタン、[録音]ボタンのどちらかを押して録音を終わめます。

⇒[録音]ボタンのランプが消え、録音したパートのボタンが緑色について再生待機状態となります。録音をやり直したいときは、操作 からやり直してください。

<トラック2を録音する>

トラック1のときと同じ方法で、トラック2を録音します。

「ピアノ」の音色を選びます。

[録音]ボタンを押します。

[左手/2]ボタンを押して、ランプを赤く点灯させます。

⇒[右手/1]と[リズム]は再生待機状態になり、ランプが緑色になります。
録音を始めます。



・[右手/1]と[リズム]の再生音を聴きながら録音できます。

[/ スタート/ストップ]ボタン、[録音]ボタンのどちらかを押して録音を終わめます。

<トラック3を録音する>

トラック1,2のときと同じ方法で、トラック3を録音します。

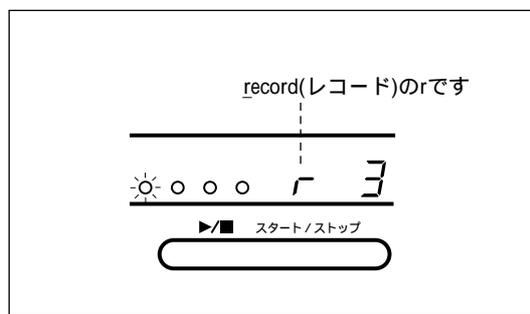
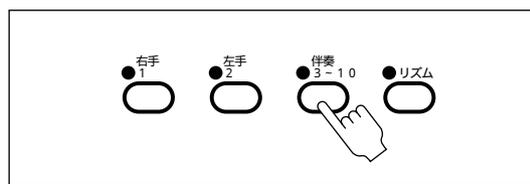
「ストリングス」の音色を選びます。

[録音]ボタンを押します。

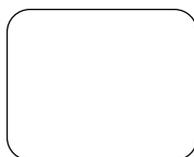
[伴奏/3~10]ボタンを押して、トラック3を選びます。(ボタンを押している間ディスプレイに「r 3」が表示されます。)

・表示が「r 3」以外になったときは、[伴奏/3~10]ボタンを押しながら、[曲/フレーズ]ボタンを押して「r 3」を表示させてください。

☞[右手/1]、[左手/2]、[リズム]は再生待機状態になり、ランプが緑色になります。



録音を始めます。



[/ スタート/ストップ]ボタン、[録音]ボタンのどちらかを押して録音を終わめます。

4 再生する

[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。

5 再生を止める

[/ スタート/ストップ]ボタンを押します。

・最後までくると、自動的に止まります。

録音 / 再生の ヒント

CLP-705のパフォーマンスメモリーを使いこなすためのヒントについて説明します。

録音のヒント

■録音トラックの選び方

録音を始めたあと、[録音]ボタンを押すと、最後に選んだ録音トラックが自動的に選ばれます。トラックのボタンで、次に録音したいトラックを選んでください。トラック3~10は、[伴奏/3~10]ボタンを押しながら、[曲/フレーズ]ボタンを押して選びます。(操作中は、ディスプレイに「r 5」のように、選んだトラックが表示されます。)

■メトロノームを使った録音

CLP-705のメトロノームに合わせて録音することもできます。このとき、メトロノーム音は録音されません。

■カウントスタート録音

[メトロノーム]ボタンを押しながら、[▶/■スタート/ストップ]ボタンを押して録音スタートすると、カウントスタートで録音できます。

■パンチインレコーディング(曲の途中からの再録音)

CLP-705のパンチレコーディング機能を使って、曲の途中から録音をやり直すことができます。

[操作]

再生をスタートさせ、録音のやり直しをする少し手前のところで[■ポーズ]ボタンを押して、一時停止させます。

[録音]ボタンを押します。

トラックを選びます。

[▶/■スタート/ストップ]ボタンで再生を再開させ、録音のやり直しをしたいところからタイミングを合わせて演奏を始め最後まで演奏してください。

☞演奏をはじめたところから録音されていきます。

[▶/■スタート/ストップ]ボタン、[録音]ボタンのどちらかを押しして録音を終わります。

・操作 でトラックボタンを押しながら[▶/■スタート/ストップ]ボタンを押すと、その位置から録音が始まります。演奏をしないで録音をストップさせると、その位置以降のデータを消すことができます。

■初期値の変更

録音済みの曲の初期値(トラックごとの音量やテンポなど、曲の先頭のデータ 右記「記録内容について」をご参照ください)は、次の方法で変更できます。

[操作]

[録音]ボタンを押します。

変更するトラックのボタンを押して、そのトラックを録音待機状態にします。

変更の操作を行います。(このとき鍵盤を弾いたり、[▶/■スタート/ストップ]ボタンを押すと、そのトラックの演奏

が消えてしまいますので、ご注意ください。)

[録音]ボタンを押して録音待機状態を解除します。

☞録音済みの曲の初期値が変更されます。

■トラックごとの音量調節

トラックごとの音量初期値を、次の方法で設定できます。トラックごとに別々に設定できますので、トラック間の音量バランスを調節することができます。左記「初期値の変更」の操作 で、次の操作をしてください。

[操作]

リズムトラックの音量設定:[伴奏]スライダーで設定します。1~10の各トラックの音量設定:[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、[伴奏]スライダーで設定します。



ノート

・曲の再生のときには、通常どおり[伴奏]スライダーは再生音全体の音量調節に、[MIDI/トランスポーズ]ボタン+[伴奏]スライダーは鍵盤演奏音の音量調節に使われます。



ヒント

・[伴奏]スライダーを0にして録音スタート、録音ストップすると、リズムトラックのデータを消すことができます。

■記録内容について

初期値および録音中に記録されるもの

- ・音色の種類
- ・パン 80ページ
- ・リバーブのタイプと深さ
- ・リズムの種類
- ・テンポ
- ・トラックごとの音量(1~10、リズムトラック)
- ・デュアルボイス(デュアルのとき)
- ・デュアル音量バランス(デュアルのとき)
- ・ダンパーペダル、ソフトペダル

録音中のみ記録されるもの

- ・鍵盤の演奏情報(音符)
- ・ソステヌートペダル

MIDI録音の場合だけ記録されるもの

(初期値および録音中)

- ・モジュレーション
- ・エクスプレッション
- ・ピッチベンド

再生のヒント

■トラック3～10の個別再生オン/オフ、ガイド機能、A-Bリピート機能

パフォーマンスメモリーの演奏データでも、3～10トラックの個別の再生オン/オフ機能(☞38ページ)やガイド機能(☞40ページ)、A-Bリピート機能(☞46ページ)が使えます。ガイド機能は、トラック1と2に有効です。

MIDI マルチトラック録音について

シーケンサーやミュージックコンピューターで多重録音したデータを、CLP-705に入れてあるフロッピーディスクに録音できます。



・チャンネル1で録音されているパートはトラック1に、チャンネル2で録音されているパートはトラック2に、……、チャンネル15で録音されているパートはリズムトラックに同時に録音(MIDIマルチトラック録音)されます。チャンネルNo.1～10および15以外のチャンネルのデータは録音されません。

・MIDIマルチトラック録音をすると、シーケンサー側に記録されていた各チャンネルのプログラムチェンジNo.が、CLP-705の各トラックにそのまま録音されます。CLP-705の音色No.に合うように、あらかじめシーケンサー側でプログラムチェンジNo.を変更してください。

・MIDIマルチトラック録音をすると、シーケンサー側に記録されていたチャンネル15の各ノートNo.が、CLP-705のリズムトラックにそのまま録音されます。CLP-705のキーボードパーカッションのノートNo.に合うように、あらかじめシーケンサー側で1音ずつノートNo.を変更してください。

1 MIDI接続する

2 MIDIマルチティンバーモードにする

☞86ページ

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
[クラビノーバトーン]ボタンを押します。

☞[クラビノーバトーン]ボタンのランプが付きます。

3 外部クロックにする

☞88ページ

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
[打楽器]ボタンを押して、[打楽器]のランプをつけます。

4 曲番号を指定する

[曲/フレーズ]ボタンを押して、曲を選びます。

☞ディスプレイに曲番号が表示されます。

5 ビートランプの拍子パターンを決める

録音する曲により、[打楽器メトロノーム]ボタンで2または4拍子1～4、か、3拍子1または2を選び、ビートランプを4拍子パターンでつけるか、3拍子パターンでつけるか決めます。

6 CLP-705のテンポを録音する曲のテンポに合わせる

7 MIDIマルチトラック録音をスタンバイする

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
[録音]ボタンを押します。

☞MIDIマルチトラック録音が可能になります。

8 録音を始める

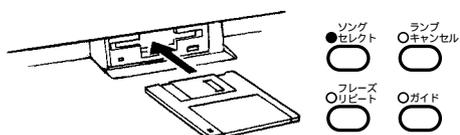
外部機器側で再生をスタートさせ、録音を開始します。

同じディスク 内でコピー する

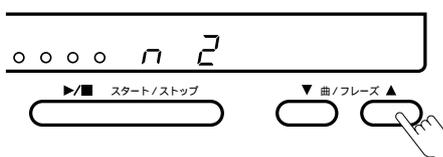
曲の一部を変更したいときや、曲のバックアップをとっておきたいときにご利用ください。CLP-705では、パフォーマンスメモリーで録音した曲を、曲番号ごとにコピーすることができます。

操作のまとめ

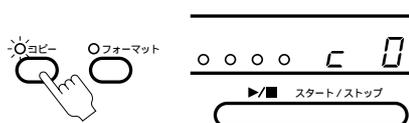
1 コピーするディスクを入れる



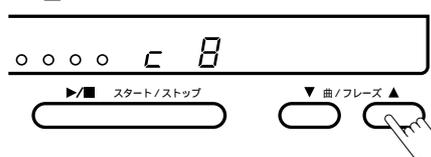
2 コピー元の曲を指定する



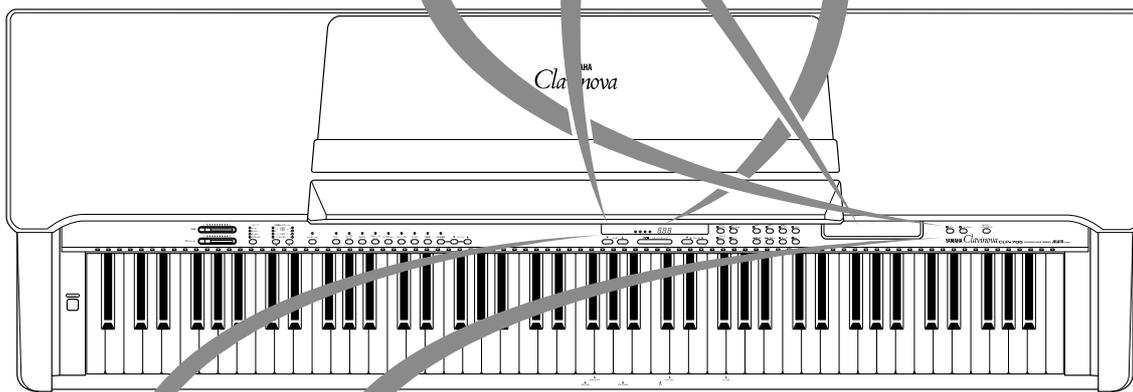
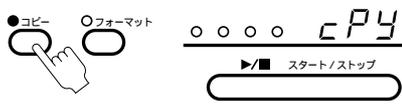
3 [コピー]ボタンを押す



4 コピー先の曲番号を指定する



5 コピーを実行する



1 コピーするディスクを入れる

コピーするディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

2 コピー元の曲を指定する

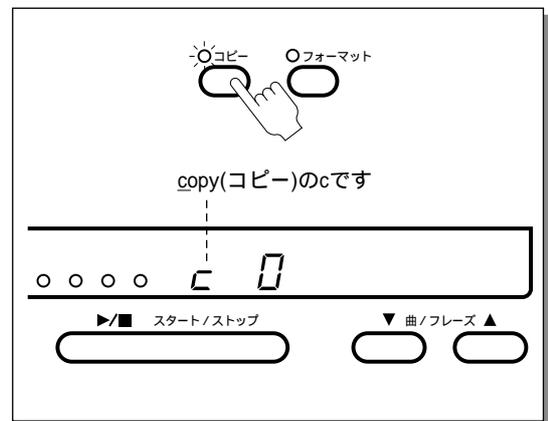
[曲/フレーズ]ボタンで、コピー元の曲番号を指定します。

3 [コピー]ボタンを押す

ランプが点滅を始め、ディスプレイは「c 0」の表示になります。



- ・選んだコピー元の曲番号にデータがない場合は、[コピー]ボタンを押してもランプは消えたままで、コピー操作をすることはできません。

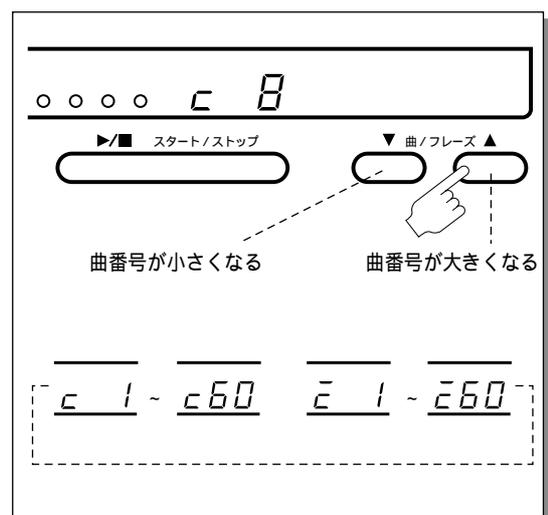


4 コピー先の曲番号を指定する

[曲/フレーズ]ボタンで、コピー先の曲番号を「c1」～「c60」の中から選びます。



- ・「c1」～「c60」(cの上に“-”が付いた番号)の曲番号は、別ディスクへコピーするときの番号です。(☞66ページ)
- ・この段階でコピーを中止したいときは、[スタート/ストップ]ボタンを押してください。



5 コピーを実行する

[コピー]ボタンを押します。

- ⇒コピー先の曲番号に何もデータがないときは、[コピー]ボタンのランプがつき、コピーが始まります。コピー中はディスプレイが「c P Y」の表示になります。

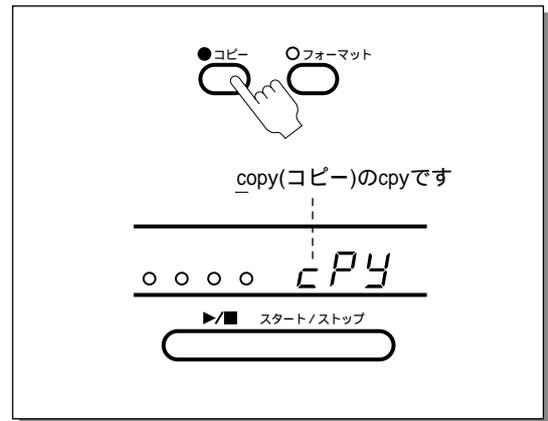
・コピー先の曲番号にすでにデータがあるときは、コピーによりそのデータを書き換えてよいかどうかの確認のため、ディスプレイに「Y n」（イエスまたはノー）の表示が出ます。

書き換えていい場合は、[曲/フレーズ]ボタンを押して、「Yes」を選びます。

- ⇒コピーが開始されます。

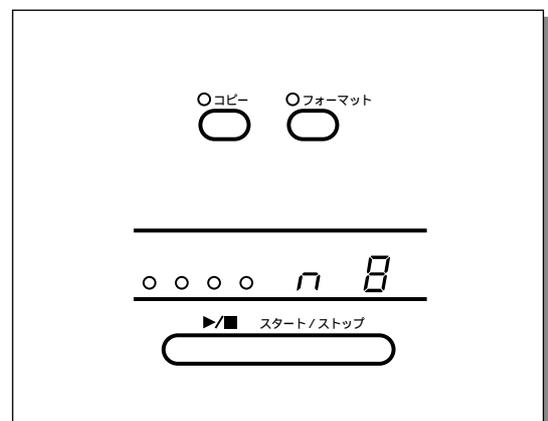
書き換えたくない場合は、[曲/フレーズ]ボタンを押して「No」を選びます。

- ⇒コピーが中止されます。



コピーが終了すると

- ⇒[コピー]ボタンのランプが消えて、ディスプレイはコピー先の曲番号表示になります。([ソングセレクト] ボタンのランプもつきます。)



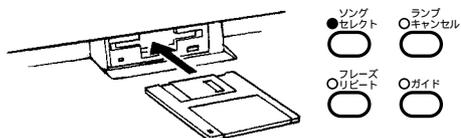
別のディスク へコピーする

パフォーマンスメモリーで録音した曲を、別のディスクに曲番号単位でコピーすることができます。

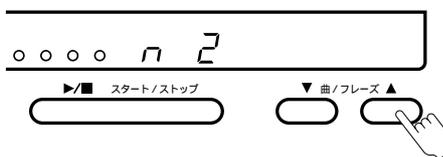
- ・「ディスクオーケストラ・コレクション」のオーケストラパートとリズムパート、およびディスクリズムも、別のディスクへコピーすることができます。詳しくは、69ページのヒントをご覧ください。

操作のまとめ

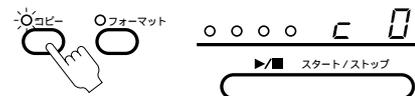
1 コピー元のディスクを入れる



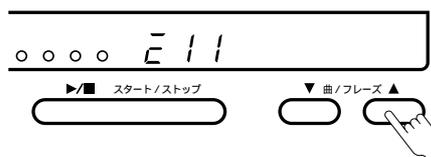
2 コピー元の曲番号を指定する



3 [コピー]ボタンを押す



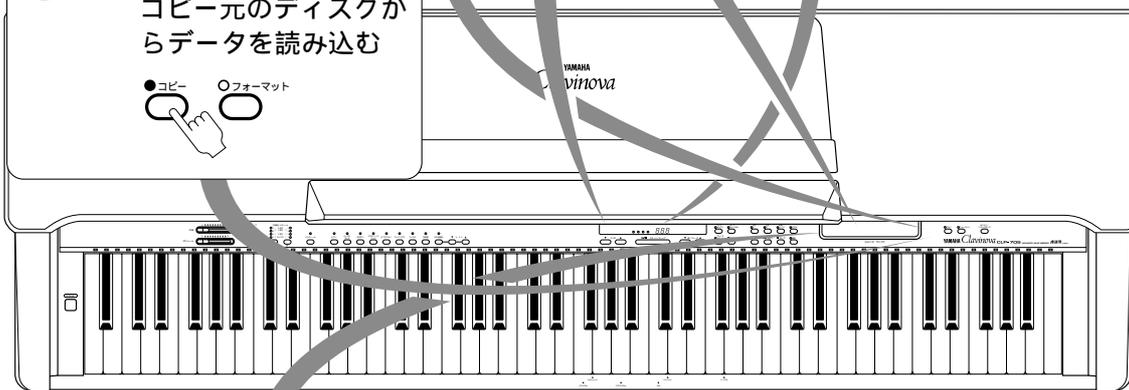
4 コピー先の曲番号を指定する



5 コピーを実行する コピー元のディスクから データを読み込む



5 コピー先のディスクに 書き込む 交互に入れかえる



1 コピー元のディスクを入れる

コピー元の曲が入っているディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

2 コピー元の曲番号を指定する

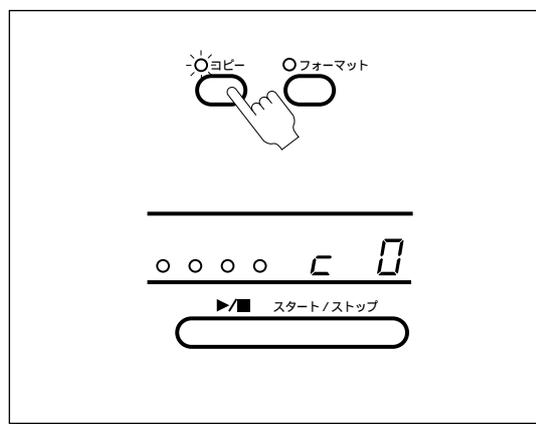
[曲/フレーズ]ボタンで、コピー元の曲番号を指定します。

3 [コピー]ボタンを押す

☞ランプが点滅を始め、ディスプレイは「c 0」の表示になります。



- ・選んだコピー元の曲番号にデータがない場合は、[コピー]ボタンを押してもランプは消えたままで、コピー操作をすることはできません。

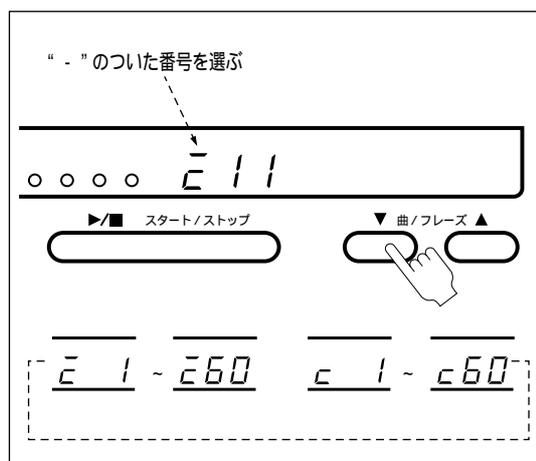


4 コピー先の曲番号を指定する

[曲/フレーズ]ボタンで、コピー先の曲番号を「c 1」～「c60」(cの上に“-”が付いた番号)の中から選びます。



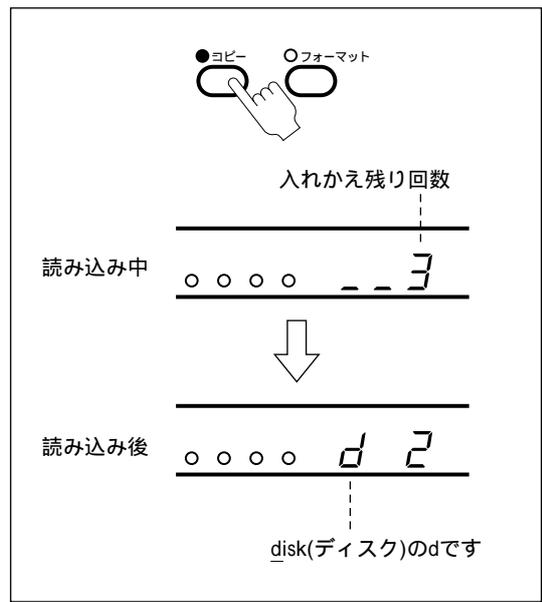
- ・「c 1」～「c60」(“-”のついていない番号)の曲番号は、同じディスク内でコピーするときの番号です。
- ・この段階でコピーを中止したいときは、[スタート/ストップ]ボタンを押してください



5 コピーを実行する

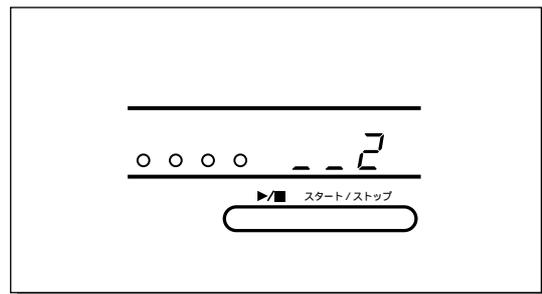
コピー元のディスクからデータを読み込む
もう一度[コピー]ボタンを押します。

- ⇒ランプが点灯に変わり、元ディスクからデータが読み込まれます。読み込み中は、ディスプレイに次の操作以降でのディスクの入れかえ必要回数が表示されます。読み込みが終了、ディスプレイが「d 2」の表示になります。



コピー先のディスクに書き込む
元ディスクを取り出し、コピー先のディスクを差し込みます。

- ⇒コピー先の曲番号に何もデータがないときは、[コピー]ボタンのランプがつき、コピーが始まります。コピー中はディスプレイが入れ換え残り回数の表示になります。(入れ換え残り回数が0の場合は、「cPY」の表示になります。)



- ・コピー先の曲番号にすでにデータがあるときは、コピーによりそのデータを書き換えてよいかどうかの確認のため、ディスプレイに「Y n」(イエスまたはノー)の表示が出ます。書き換えていい場合は、[曲/フレーズ]ボタンを押して、「Yes」を選びます。
 - ⇒コピーが開始されます。
- 書き換えたくない場合は、[曲/フレーズ]ボタンを押して「No」を選びます。
 - ⇒コピーが中止されます。

コピー元のディスクとコピー先のディスクを
交互に入れかえる

1回でコピーが終わらない場合は、ディスプレイに「d 1」や「d 2」が表示されます。その場合は、次の操作をしてください。

「d 1」が表示されたら コピー元のディスクを入れる。

「d 2」が表示されたら コピー先のディスクを入れる。

コピーが終了すると.....

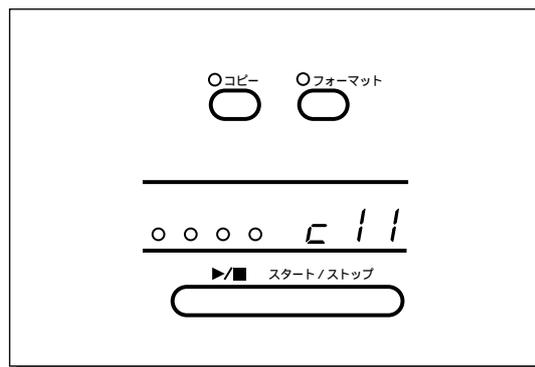
⇒[コピー]ボタンのランプが消えて、ディスプレイはコピー先の曲番号表示になります。
([ソングセレクト]ボタンのランプもつきます。)



ディスクリズムのコピー

ディスクリズムも、別のディスクへコピーすることができます。

ただし、パフォーマンスメモリーのディスクやディスクオーケストラ・コレクションをコピーしたディスクにはコピーできません。また逆に、パフォーマンスメモリーのデータや「ディスクオーケストラ・コレクション」は、リズムデータの入っているディスクにはコピーできません。



「ディスクオーケストラ・コレクション」を使った「マイレパートリー」づくり

「ディスクオーケストラ・コレクション」(コピープロテクトディスク)をほかのディスクにコピーすることはできませんが、オーケストラ(伴奏)パートとリズムパートは、コピーすることができます。

オーケストラ(伴奏)パートとリズムパートをコピーして、その演奏に合わせて右手パートと左手パートをあなた自身で演奏(ディスクに録音)してください。

「ディスクオーケストラ・コレクション」の本格的な演奏をバックに、あなただけのすばらしいレパートリーができあがります。

ただし、このディスクをさらに別のディスクにコピーすることはできません。

データを消去 (デリート) する

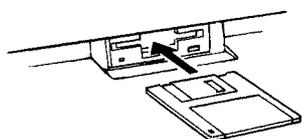
曲番号ごとに、データを消すこと(デリート)ができます。



一度消すと、データを復活させることはできません。誤って大切なデータを消さないようにご注意ください。

操作のまとめ

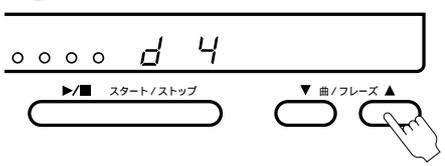
1 ディスクを入れる



2 [MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
[コピー]ボタンを押す



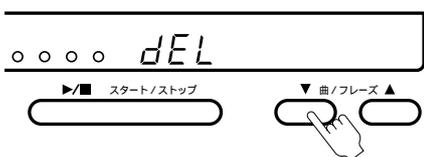
3 消したい曲の番号を指定する



4 [コピー]ボタンを押す



4 消去を実行するとき...

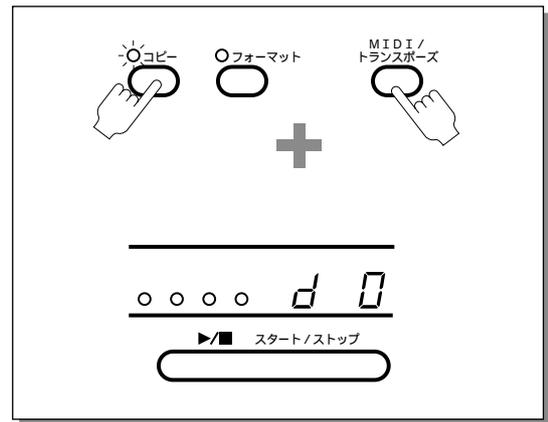


1 消したい曲が入ったディスクを入れる

消したい曲が入ったディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

2 [MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、[コピー]ボタンを押す

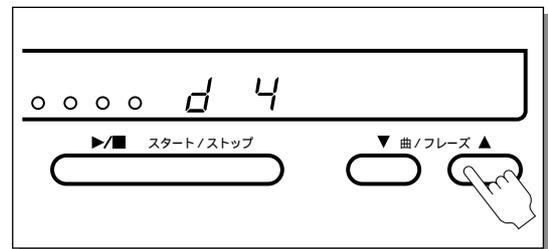
⇒[コピー]ボタンのランプが点滅を始め、ディスプレイは「d 0」の表示になります。



3 消したい曲の番号を指定する

[曲/フレーズ]ボタンで、消したい曲の番号を指定します。

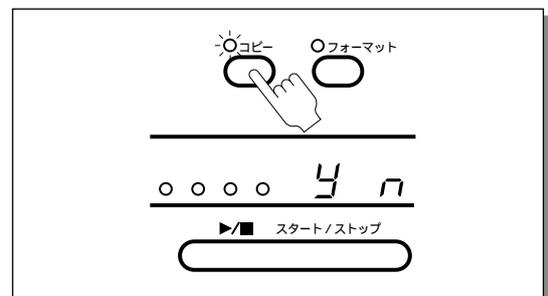
・この段階で消去を中止したいときは、[/] スタート/ストップ]ボタンを押してください。



4 消去を実行する

[コピー]ボタンを押します。

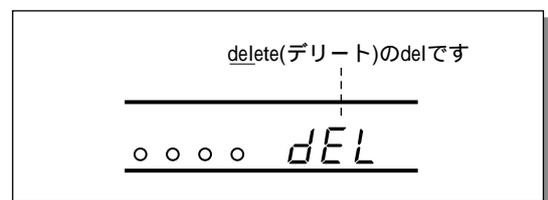
⇒ディスプレイに、「Y n」の確認表示が出ます。



[曲/フレーズ]ボタンで「Yes」を選ぶと、消去が実行されます。

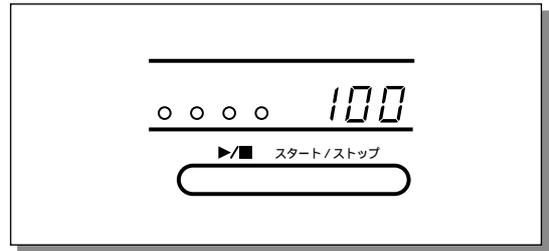
⇒消去の実行中は、[コピー]ボタンのランプが点灯に変わり、ディスプレイに「dEL」と表示されます。

[曲/フレーズ]ボタンで「No」を選ぶと、消去が中止されます。



消去が終了すると.....

⇒[コピー]ボタンのランプが消えて、ディスプレイはテンゴ表示にもどります。



クラビノーバ 共通音色に 変換する

CLP-705で録音した曲をクラビノーバ共通音色に変換すると、クラビノーバ CVP-50/70やディスクオーケストラモジュールDOM-30で再生させることができます。

クラビノーバ共通音色とは：

クラビノーバのいくつかのモデルの中で、そのモデル固有のものとは別に、共通して持っている音色番号の配列です。CVP-50/70やDOM-30、CLP-705のそれぞれが持っている音色番号の配列は同じではないため、CLP-705で録音したディスクを、そのままCVP-50/70、DOM-30で再生させても、CLP-705で録音したものと全く違う音色で再生されてしまいます。クラビノーバ共通音色に変換してからCVP-50/70やDOM-30で再生すれば、CLP-705で録音したものに近い共通音色で再生されます。



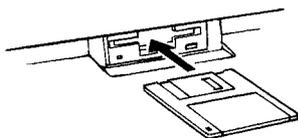
CLP-705でつくったデータをCVP-55 / 65 / 75で再生する場合は、この操作は不要です。



・変換後の曲は、オリジナルの音色にもどすことができませんので、変換する前にあらかじめコピーをとり、オリジナルを残しておくことをおすすめします。

操作のまとめ

1 ディスクを入れる



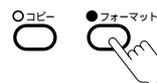
2 [MIDI/トランスポーズ]ボタンを押し ながら、[フォーマット]ボタンを押す



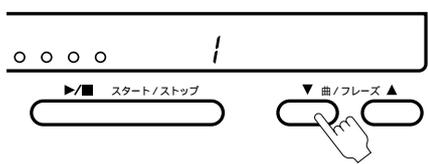
3 変換したい曲の番号を指定する



4 [フォーマット]ボタンを押す



4 変換を実行するとき.....

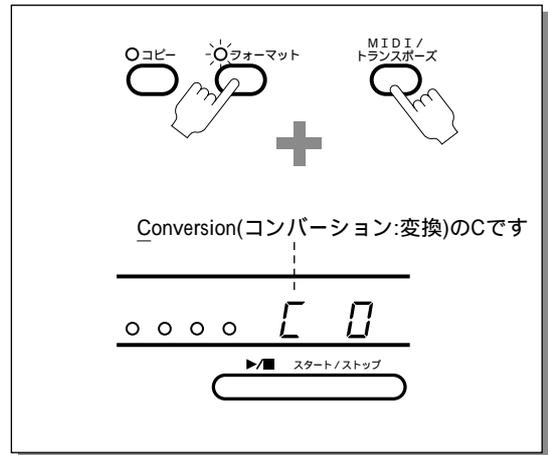


1 変換したい曲が入ったディスクを入れる

変換する曲が入ったディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

2 [MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、[フォーマット]ボタンを押す

⇒[フォーマット]ボタンのランプが点滅を始め、ディスプレイは「C 0」の表示になります。



3 変換したい曲の番号を指定する

[曲/フレーズ]ボタンで、変換する曲の番号を指定します。

・この段階で変換を中止したいときは、[/ スタート/ストップ]ボタンを押してください。

4 変換を実行する

[フォーマット]ボタンを押します。

⇒ディスプレイに、「Y n」の確認表示が出ます。

[曲/フレーズ]ボタンで「Y e s」を選ぶと、変換が実行されます。

⇒変換の実行中は、[フォーマット]ボタンのランプが点灯に変わり、ディスプレイに、変換中の小節番号が表示されます。(変換中は、他の操作はできません。)

[曲/フレーズ]ボタンで「N o」を選ぶと、変換が中止されます。

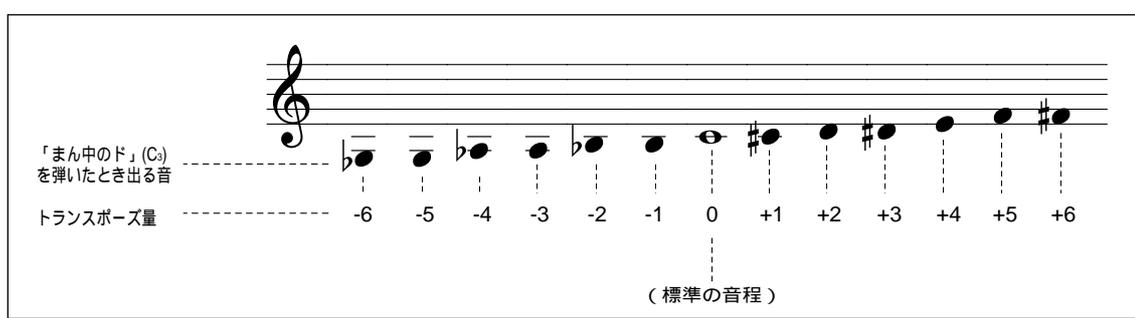
変換が終了すると……

⇒[フォーマット]ボタンのランプが消えて、ディスプレイは共通音色に変換された曲の番号が表示されます。([ソングセレクト]ボタンのランプもつきます。)

音程を変える (トランスポーズ)

CLP-705のトランスポーズ機能で、弾く鍵盤を変えずに、歌う人の声の高さに合わせたり、弾いている曲を移調することができます。

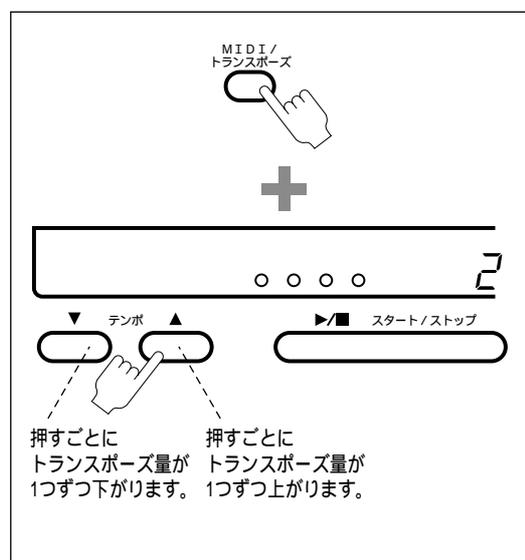
- ・ -6半音～+6半音の範囲でトランスポーズ量を設定できます。たとえば、「まん中のド」の鍵盤を弾いたときに出る音は次のように変わります。



トランスポーズ量を設定する

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、[テンポ]、[テンポ]ボタンを押して設定します。

- ↳ [MIDI/トランスポーズ]ボタンを押している間、ディスプレイにトランスポーズ量が表示されます。



- ・ 電源を入れたときは、標準の音程になっています。
- ・ [MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、[テンポ]ボタンと[テンポ]ボタンを同時に押すと、標準の音程(トランスポーズ量 0)に戻ります。

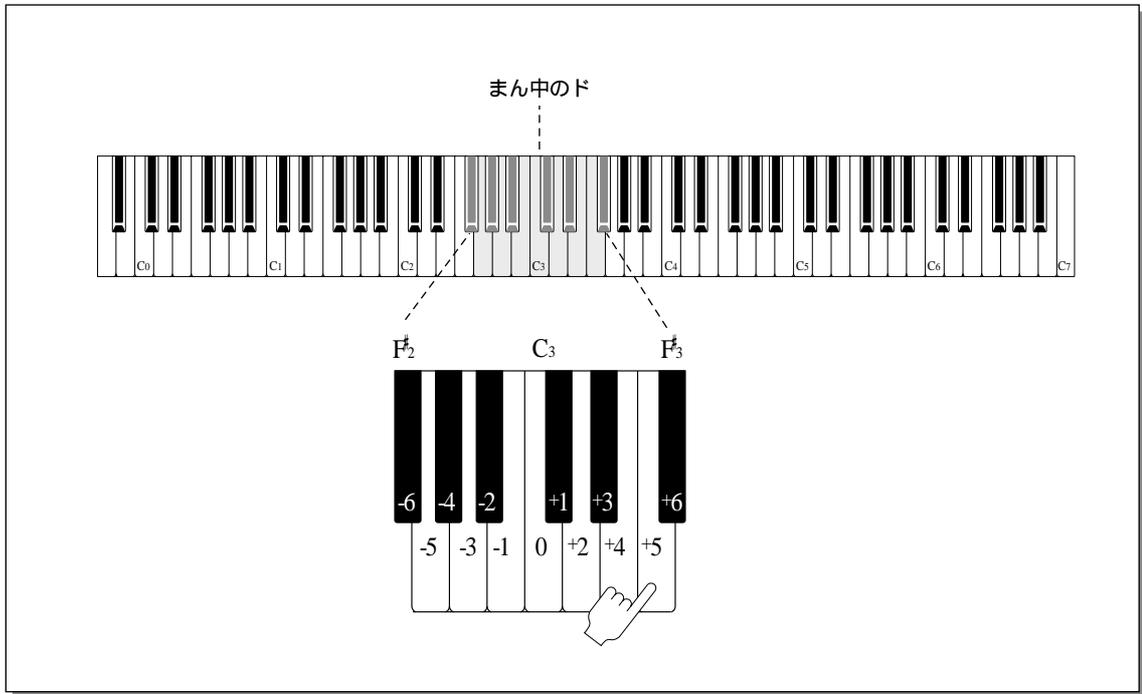




・移調量を、 F_2^{\sharp} ~ F_3^{\sharp} の鍵盤を使って設定することもできます。

[操作]

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、設定したい移調量に対応する鍵盤を押します。



・トランスポーズ量によって、もとの88鍵の最高音より高い音は1オクターブ下の音で、もとの88鍵の最低音より低い音は1オクターブ上の音で出ます。

・打楽器音色には、トランスポーズはかかりません。



他の楽器と 音程を 合わせる (ピッチコントロール)

CLP-705のピッチコントロール機能で、音程(ピッチ)を微調整することができます。合奏のときなどに、ほかの楽器と音程を正確に合わせることができます。

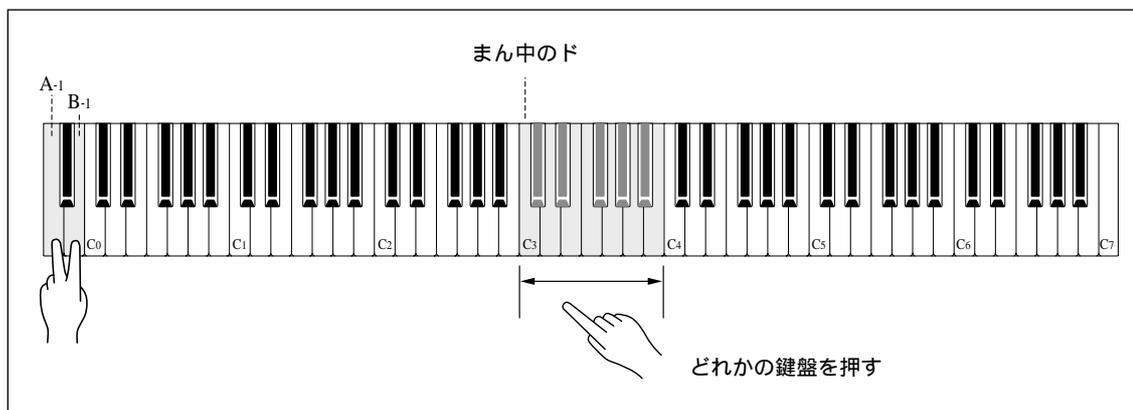
- 音程は、±約50セントの範囲を約1.2セントきざみで設定できます(100セント=半音)。設定中は、ディスプレイに「ラ(A₃)」の音の周波数(Hz : ヘルツ)が表示されます。



- 電源を入れたときは、標準(A₃ = 440Hz)になっています。

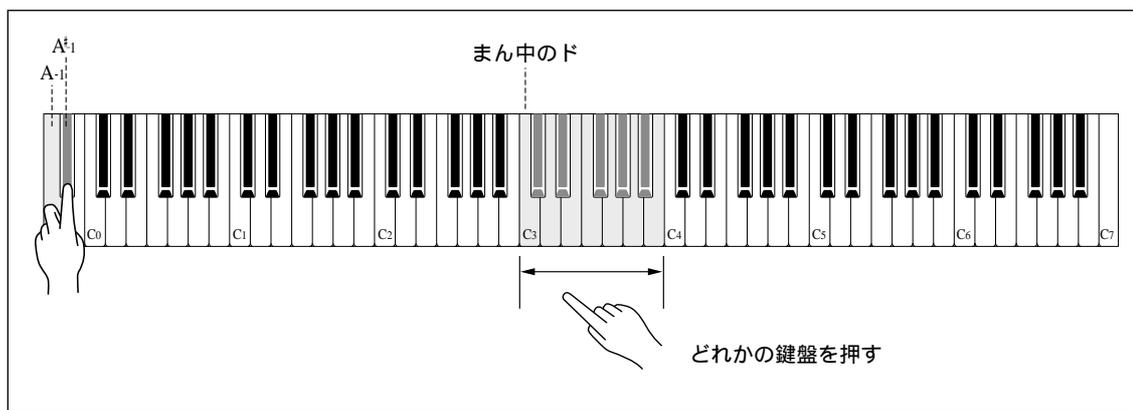
音程を上げるとき

一番左端の白鍵2つを同時に押しながら、C₃ ~ B₃のどれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が上がります。音を聴きながらこきざみに音程を上げて、他の楽器と合わせてください。



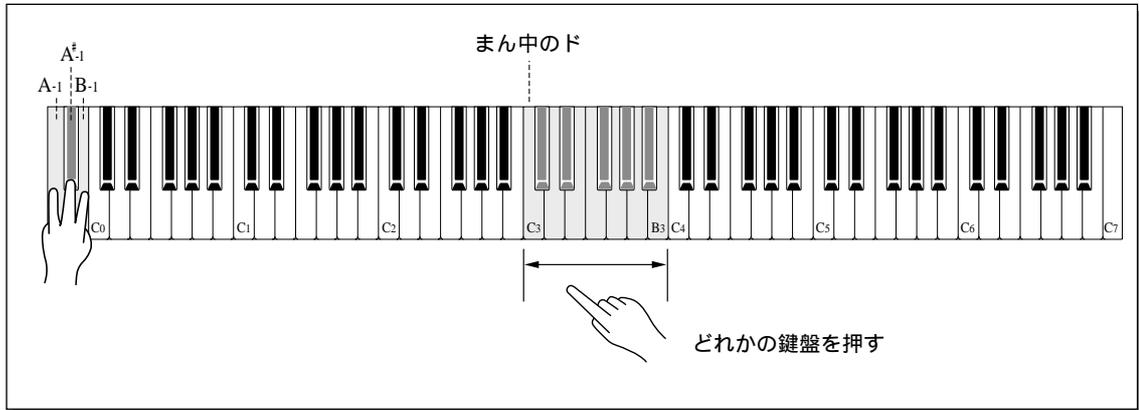
音程を下げるとき

一番左端の白鍵と黒鍵を同時に押しながら、C₃ ~ B₃のどれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が下がります。音を聴きながらこきざみに音程を下げて、他の楽器と合わせてください。



標準に戻すとき

一番左端の白鍵2つと黒鍵1つを同時に押しながら、C₃ ~ B₃のどれかの鍵盤を押します。
標準のA₃ = 440Hzに戻ります。



ヒント

・周波数の小数点以下の値は、次のように4分割されて点で表示されます。

4 4 0 (なし)	: 0.00 ~ 0.24Hz
4.4 0	: 0.25 ~ 0.49Hz
4 4.0	: 0.50 ~ 0.74Hz
4 4 0.	: 0.75 ~ 0.99Hz

・打楽器音色には、ピッチコントロールは効きません。

鍵盤のタッチ感度を変える

CLP-705では、弾く強さに対する音の出方(タッチ感度)を、3種類の中から選ぶことができます。演奏する曲により、使い分けてください。

鍵盤のタッチ感度を変える

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
[リバーブ]ボタンを押して、タッチ感度を選びます。

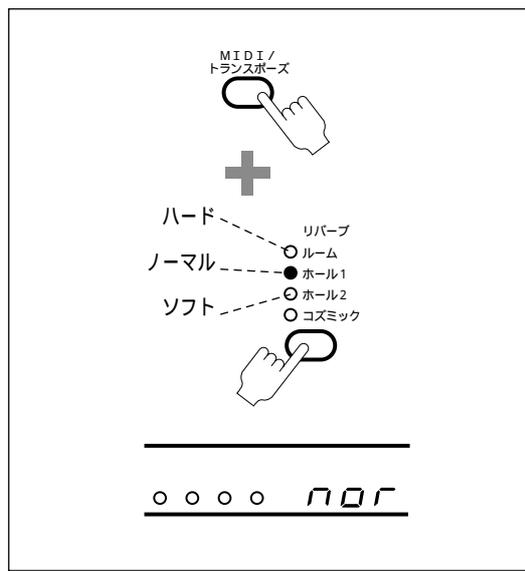
⇨ 操作中は、ディスプレイにタッチの感度の種類(HAr: ハード、nor: ノーマル、SoF: ソフト)が表示されます。

ハード..... ピアニッシモからフォルティッシモまでダイナミックな演奏ができるタッチです。

ノーマル... 標準的なピアノタッチです。

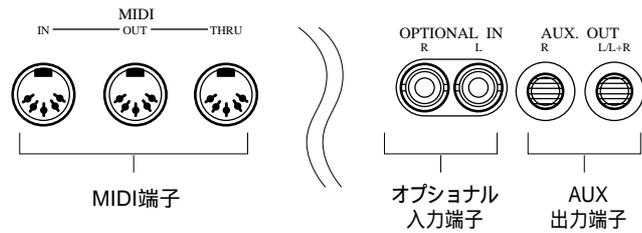
ソフト..... 比較的音のつづがそろいやすいタッチです。

- ・音色によっては、はじめからタッチによる変化の度合いが少なく設定されており、タッチ感度を変えても違いが少ないものもあります。
- ・電源を入れたときは、ノーマルになっています。



ほかの機器と 接続する

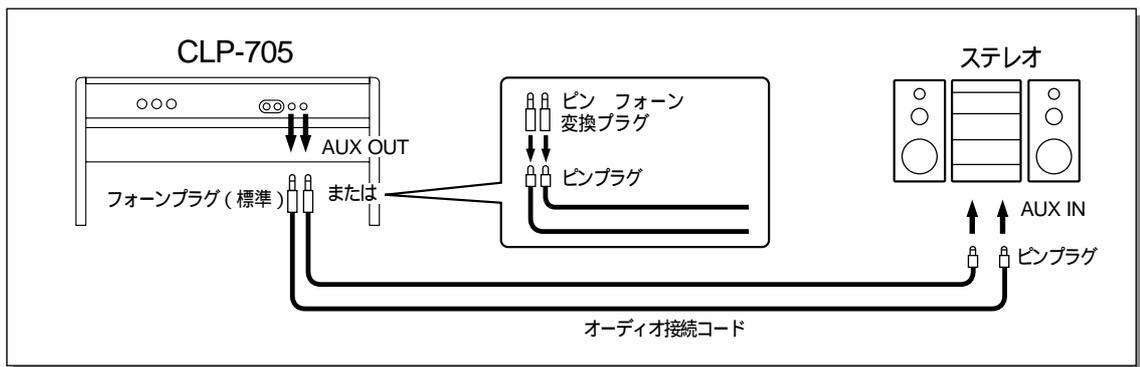
リアパネルの付属端子を使ったほかの機器との接続方法を説明します。



AUX出力端子

ステレオなどに接続して、より大きな音を出したり、演奏を録音することができます。ステレオに接続したときはCLP-705の[ボリューム]スライダーを半分くらいにして、ステレオのボリュームで音量を調節してください。

・端子はフォーンジャック(標準)です。



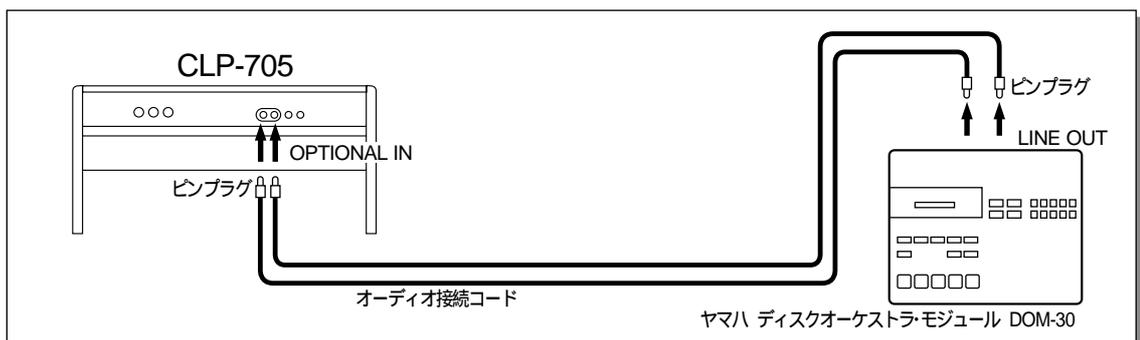
オプション入力端子

他の楽器や機器の音を、CLP-705のスピーカーから出すことができます。

・端子はピンジャックです。

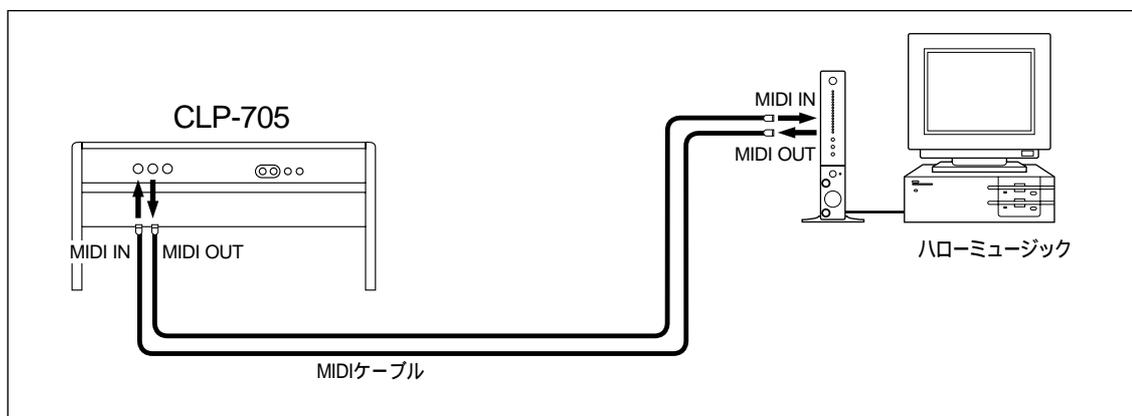


・オプション入力端子から入力した外部機器の音も、CLP-705の音と一緒にAUX出力端子から出力されますが、CLP-705からの音量コントロールやリバーブは効きません。



MIDI (IN,OUT,THRU) 端子

ヤマハ ハローミュージック、DOM-30などのMIDI機器を接続します。



MIDIについての説明は、83～92ページをご覧ください。

MIDIについて

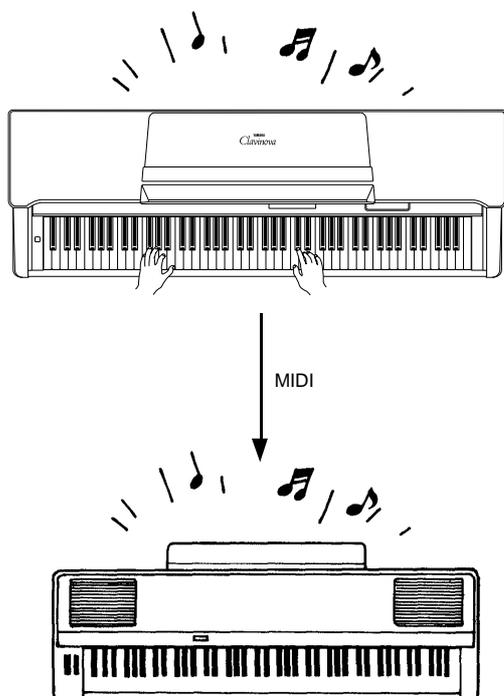
ここでは、MIDIの基礎知識の一端をご紹介します。

MIDI：MIDI(ミディ)という言葉は、「Musical Instrument Digital Interface」の略で、「楽器間のデジタル通信」という意味です。

MIDIとは2台以上の楽器をつなぎ、演奏に関するさまざまなコントロール情報を送ったり、受けたりする目的で考え出された世界共通の規格です。

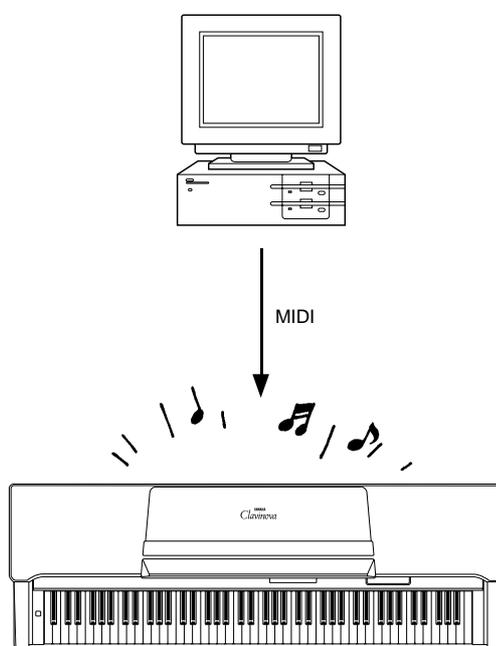
1 MIDIでできること

1台のキーボードを演奏することによって、他のキーボードからも同時に音を出すことができます。また、音色の切り換えや、ダンパーペダルのオン/オフなど、さまざまな演奏情報もコントロールすることができます。



コンピューターやシーケンサーに演奏内容をMIDIで記録しておく、MIDI楽器に自動演奏をさせることができます。

(演奏情報をMIDIで記録する機器を、一般にシーケンサーと呼んでいます。)



!!
パート

- 機種によりMIDI機能の内容は異なります。接続する機種と共通するMIDI機能についてだけ、互いにコントロールすることができます。
- MIDIインプリメンテーションチャートを使って、共通するMIDI機能を確認することができます。CLP-705のMIDIインプリメンテーションチャートは、92ページに載っています。

これらの例のほかにも、いろいろな使い方があります。

MIDI

2 MIDIの基礎知識

(目) MIDIによるコントロールとは？

2台の楽器を専用のMIDIケーブルでつなぎ、ケーブルを通じて楽器から楽器へコントロール情報を送ることができます。コントロールを受けた楽器は、情報に従って動きます。

たとえば、Aの楽器で「ド」の音を弾いたとき、「ド」の音を弾いたという情報が、リアルタイムにMIDIデータというかたちで、MIDIケーブルを通過してBの楽器へ送られます。すると、Bの楽器でも、その情報に従って同じタイミングで「ド」の音が出ます。

(月) MIDI端子

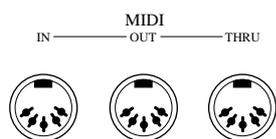
MIDI楽器には、MIDIケーブルをつなぐためのMIDI端子がついています。

MIDI端子には3つの種類があります。

イン(IN)端子 MIDI情報を受け取る端子です。

アウト(OUT)端子 MIDI情報を出す端子です。

スルー(THRU)端子 INから入ってきたMIDI情報を、そのまま出す端子です。MIDI情報を他の楽器にも伝達することができます。



MIDIケーブルは、情報を送り出す機器のアウト端子(またはスルー端子)と、情報を受ける機器のイン端子を接続します。

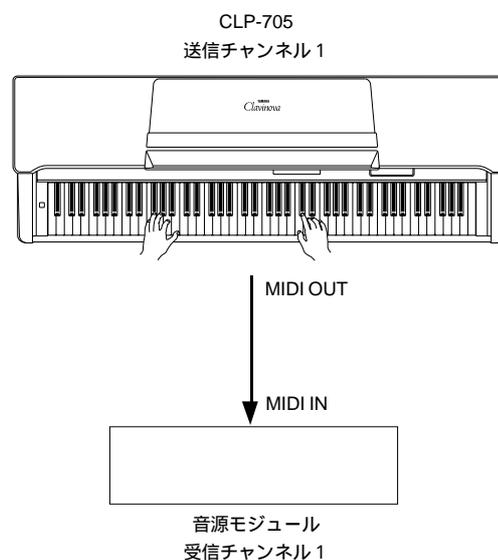
(火) MIDIのチャンネル

テレビの放送にチャンネルがあるように、MIDIにもチャンネルがあります。

MIDI情報のやり取りをするには、送る側と受ける側のMIDIチャンネルを合わせる必要があります。MIDI情報の中には、一部チャンネルに関係のないものもありますが、ほとんどのMIDI情報は指定されたチャンネルで送られてくるため、チャンネルが合っていない場合、情報を送っても、受け手側で受け取ることができません。

MIDIのチャンネルには、1～16までの16種類があり、送る側のチャンネルを「送信チャンネル」、受ける側のチャンネルを「受信チャンネル」と呼んでいます。

たとえば、下の図のようにCLP-705を演奏して音源モジュールの音を出した場合、CLP-705の送信チャンネルと音源モジュールの受信チャンネルを合わせなければいけません。MIDIケーブルが正しく接続されていても、このチャンネルが合っていないと、送り手側からのMIDI情報に受け手側は反応しない仕組みになっています。



受信チャンネルには、1～16チャンネルのほかに、すべてのチャンネルの情報を受けるオムニモードという設定があります。

- CLP-705では、電源を入れたとき送信チャンネルは1、受信チャンネルは1でオムニモードがオンになっています。
- MIDIに関する、より詳しいことは、いろいろな音楽雑誌や本などでご覧いただけます。

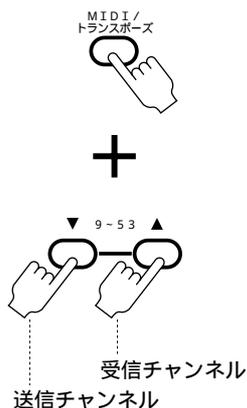
MIDIチャンネルの設定

MIDIの送信チャンネル、受信チャンネルの設定方法を紹介します。

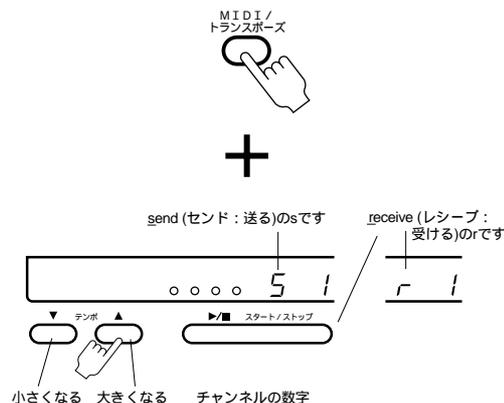
1 送信／受信チャンネルの設定

送信チャンネル：[MIDI/トランスポート]ボタンを押しながら[9~53▼]ボタンを押します。

受信チャンネル：[MIDI/トランスポート]ボタンを押しながら[9~53▲]ボタンを押します。



[MIDI/トランスポート]ボタンを押したまま、[テンポ]ボタンで送信チャンネル(1~16) / 受信チャンネル(1~16、ALL)を設定します。



- ・ 受信チャンネルのALLとは、オムニモード・オン/チャンネル1の設定です。すべてのチャンネルのデータを受信しますが、モードメッセージ(コントロールチェンジの121~125のデータ[89 ページ])は、チャンネル1のデータだけ受信します。
- ・ 電源を入れたときには、送信チャンネルはチャンネル1に、受信チャンネルはALL(オムニモード・オン/チャンネル1)になっています。

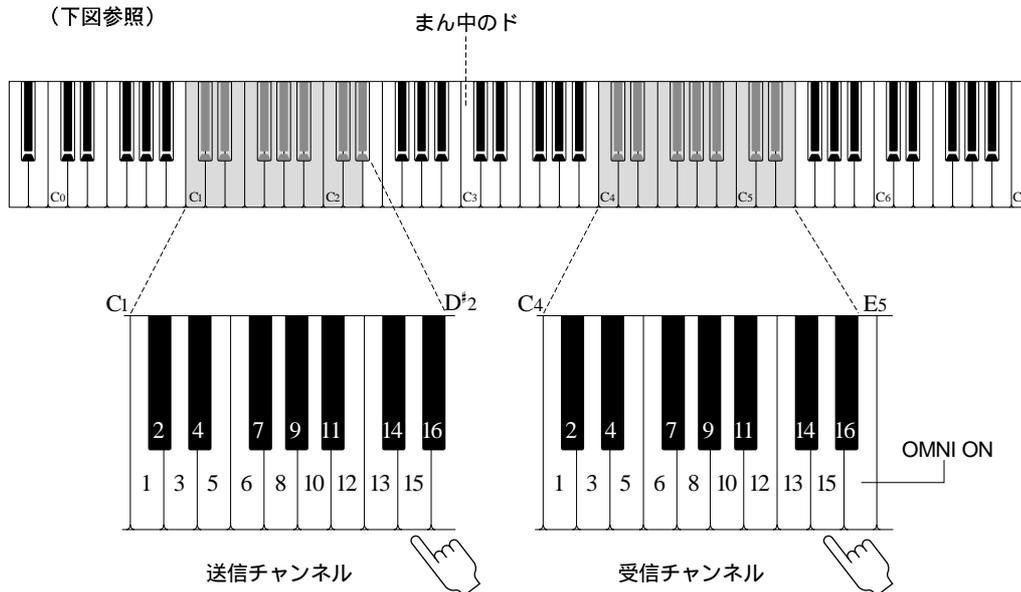


- ・ 送信／受信チャンネルを、鍵盤を使って設定することもできます。

[操作]

[MIDI/トランスポート]ボタンを押しながら、各チャンネルに対応する鍵盤を押します。

(下図参照)



各種のMIDI設定

[MIDI/トランスポート]ボタンを押しながら、下記の音色ボタンを押すと、それぞれの設定ができます。

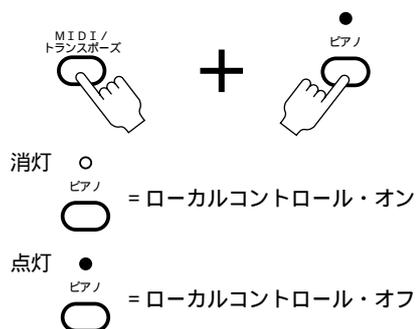
- [ピアノ] ローカルコントロール
オン/オフ
- [ハーブシコード] プログラムチェンジ・
オン/オフ
- [オルガン] コントロールチェンジ・
オン/オフ
- [クラビノーバトーン] マルチティンバーモード・
オン/オフ
- [ビブラフォン] MIDIスプリット
& レフトローカル・オフ
- [ストリングス] MIDIスプリット
& ライトローカル・オフ
- [コーラス] パネルデータの送信
- [打楽器] MIDIクロック内部/外部
の切り替え
- [その他音色] クラビノーバ共通音色
マルチティンバーモード・オン/オフ

1 ローカルコントロール・オン/オフ

CLP-705の内部で、鍵盤部分と音源部分を電氣的に切り離すかどうかの設定です。

ローカルコントロールをオフにすると、鍵盤と音源が切り離されるため、鍵盤を弾いても音が出なくなります。CLP-705自身から音を出さずに、コントロールしている相手側の音源の音だけ出したい場合にローカルコントロール・オフにします。

[MIDI/トランスポート]ボタンを押しながら、
[ピアノ]ボタンを押します。

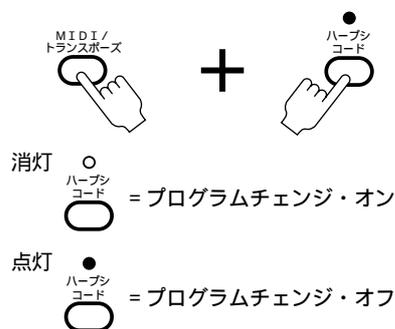


押すごとに、オン/オフが切り替わります。
・電源を入れたときは、オンになっています。

2 プログラムチェンジ・オン/オフ

音色番号の切り換えのデータを送受信するかしないかの設定です。プログラムチェンジをオフにすると、音色番号の切り換えのデータを送信しません。また、相手側から音色切り換えのデータが来ても無視します。

[MIDI/トランスポート]ボタンを押しながら、
[ハーブシコード]ボタンを押します。
押すごとに、オン/オフが切り替わります。

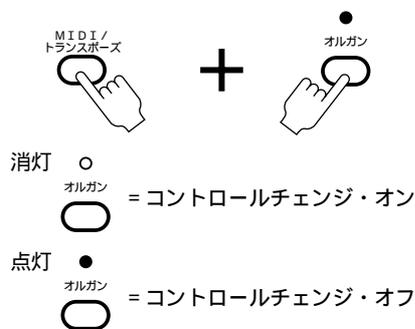


・電源を入れたときは、オンになっています。

3 コントロールチェンジ・オン/オフ

ダンパーペダル、ソステヌートペダル、ソフトペダルのオン/オフなど、コントロールチェンジ・データを送受信するかしないかの設定です。コントロールチェンジをオフにすると、ペダル操作などのコントロールチェンジのデータを、送信も受信もしくなくなります。

[MIDI/トランスポート]ボタンを押しながら、
[オルガン]ボタンを押します。
押すごとに、オン/オフが切り替わります。



・電源を入れたときは、オンになっています。

4 マルチティンバーモード・オン/オフ

CLP-705をマルチティンバーモード・オンにするかどうかの設定です。

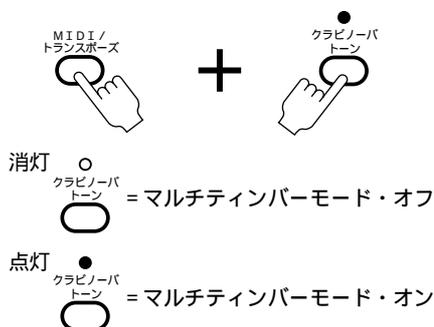
MIDIデータの受信方法には3つあります。

1つは、受信チャンネルを1つだけ指定して、そのチャンネルのデータだけを受ける方法です。

2つめは、全てのチャンネルのデータを受ける方法で「ALL(オムニモード・オン)」を指定すると、これができます。

3つめは、複数の受信チャンネルでチャンネルごとにデータを受ける方法で、マルチティンバーモード・オンにするとこれができます。

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
[クラビノーバトーン]ボタンを押します。
押すごとに、オン/オフが切り替わります。



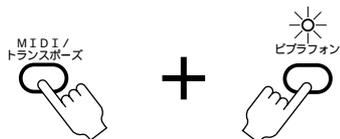
・電源を入れたときは、オフになっています。

5 MIDIスプリット&レフトローカル・オフ

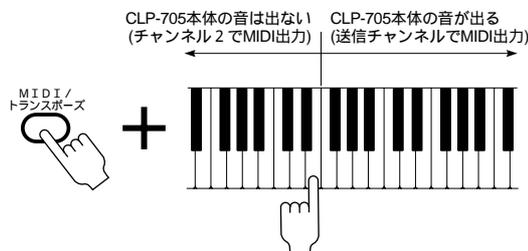
ある鍵盤を境にして、低音側の鍵盤の音がCLP-705本体で出ないようにする機能です。低音側の鍵盤で音源モジュールをコントロールし、高音側の鍵盤でCLP-705本体の音を出すことができます。

また、境になる鍵盤(スプリットポイント)も、設定することができます。

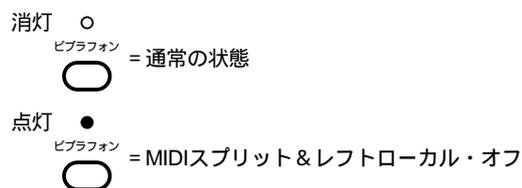
[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
[ピブラフォン]ボタンを押します。
◦ [ピブラフォン]のランプが点滅を始め、スプリットポイントの鍵盤ガイドランプが点灯します。



スプリットポイントを変えたいときだけ、[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。
◦ 新しいスプリットポイントの鍵盤ガイドランプが点灯します。



[MIDI/トランスポーズ]ボタンを離します。
◦ MIDIスプリット&レフトローカル・オフになります。

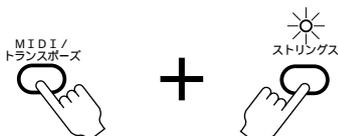


- ・通常の状態に戻すときは、もう一度[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、[ピブラフォン]ボタンを押します。(電源を入れたときは、常に通常の状態になっています。)
- ・MIDIスプリット&レフトローカル・オフのとき、低音側の鍵盤演奏情報はチャンネル2で出力され、高音側の鍵盤演奏情報は設定されている送信チャンネルで出力されます。
- ・スプリットポイントの鍵盤は、低音側に含まれません。
- ・電源を入れたときは、スプリットポイントはF[♯]2になっています。

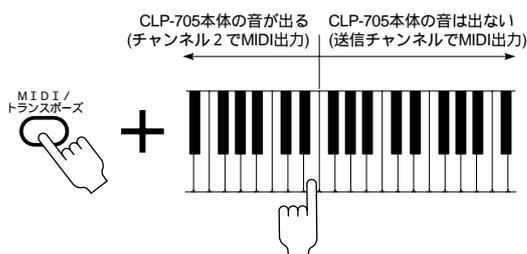
6 MIDIスプリット&ライトローカル・オフ

前項のMIDIスプリット&レフトローカル・オフは低音側の鍵盤の音がCLP-705本体で出ないようにする機能でしたが、この機能は高音側の鍵盤の音が出ないようにする機能です。

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
[ストリングス]ボタンを押します。
◇ [ストリングス]のランプが点滅を始め、スプリットポイントの鍵盤ガイドランプが点灯します。



スプリットポイントを変えたいときだけ、[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。



[MIDI/トランスポーズ]ボタンを離します。
◇ MIDIスプリット&ライトローカル・オフになります。

消灯 ○
ストリングス = 通常の状態
点灯 ●
ストリングス = MIDIスプリット&ライトローカル・オフ

- ・ 通常の状態に戻すときは、もう一度[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、[ストリングス]ボタンを押します。(電源を入れたときは、常に通常の状態になっています。)
- ・ MIDIスプリット&ライトローカル・オフのとき、低音側の鍵盤演奏情報はチャンネル2で出力され、高音側の鍵盤演奏情報は設定されている送信チャンネルで出力されます。
- ・ スプリットポイントの鍵盤は、低音側に含まれます。
- ・ 電源を入れたときは、スプリットポイントはF^A2になっています。

7 パネルデータの送信

CLP-705のパネルデータ(選ばれている音色やリバーブの設定など)をMIDIアウト端子から送信します。これにより、パネル上の設定状態を他のCLP-705に送ったり、シーケンサーやMIDIデータファイラーMDF2などに保存することができます。

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、
[コーラス]ボタンを押します。



- ・ パネルデータの送信では、パネル上の設定状態を一括して送信します。
- ・ 送信されるパネルデータ内容の詳細は、91ページをご覧ください。

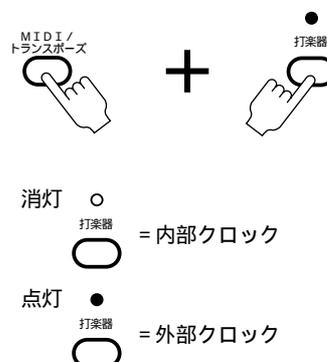
8 MIDIクロック内部/外部の切り替え

CLP-705のリズムをコントロールするクロックの設定です。

内部クロックでは、CLP-705のテンポがCLP-705自身によってコントロールされますが、外部クロックにすると、CLP-705のテンポがシーケンサーなどの外部機器によってコントロールされます。外部クロックの場合は、通常スタート/ストップも外部機器で行います。

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
[打楽器]ボタンを押します。

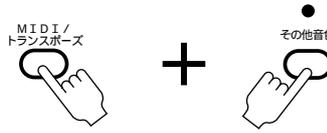
押すごとに、内部/外部クロックが切り替わります。
・ 電源を入れたときは、内部クロックになっています。



9 クラビノーバ共通音色マルチティンバーモード・オン/オフ

クラビノーバ共通音色マルチティンバーモード・オンにすると、CLP-705の演奏の音色番号を、クラビノーバ共通音色に変換して送信し、受信時はすべてのチャンネルの音色番号を、クラビノーバ共通音色に変換して受信します。

[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら、
[その他音色]ボタンを押します。
押すごとに、オン/オフが切り替わります。



消灯 ○
○ = クラビノーバ共通音色
マルチティンバーモード・オフ

点灯 ●
○ = クラビノーバ共通音色
マルチティンバーモード・オン

・電源を入れたときは、オフになっています。

MIDIデータフォーマット

1 ノートオン/オフ

データフォーマット : [9nH] [kk] [vw]

9nH = ノートオン/オフ情報(n = チャンネルNo.)
kk = ノートNo.(21 ~ 108 = A₁ ~ C₇)
vw = ペロシティ(キー・オン = 1 ~ 127、キー・オフ = 0)

データフォーマット : [8nH] [kk] [vw]

8nH = ノートオフ情報(n = チャンネルNo.)
kk = ノートNo.(21 ~ 108 = A₁ ~ C₇)
vw = ペロシティ(キー・オフ = 0 ~ 127、ただしペロシティのコントロールは行いません)受信だけです。

2 コントロールチェンジ

データフォーマット : [BnH] [cc] [vw]

BnH = コントロール情報(n = チャンネルNo.)
cc = コントロールNo.
vw = コントロール値

cc	コントロール	値(vv)
1 (01H)	モジュレーション*1 (受信だけ)	0 ~ 127 : 8段階 (00H ~ 7FH)
7 (07H)	ボリューム*2	0(00H) : - 111(6FH) : -3dB 127(7FH) : ±0dB
10 (0AH)	パン*3	0 ~ 31 : 左3 (00H ~ 1FH) 32 ~ 47 : 左2 (20H ~ 2FH) 48 ~ 63 : 左1 (30H ~ 3FH) 64 ~ 71 : 中央 (40H ~ 47H) 72 ~ 79 : デフォルト (48H ~ 4FH) 80 ~ 95 : 右1 (50H ~ 5FH) 96 ~ 111 : 右2 (60H ~ 6FH) 112 ~ 127 : 右3 (70H ~ 7FH)

11 (0BH)	エクスプレッション (受信だけ)	0(00H) : - 111(6FH) : -3dB 127(7FH) : ±0dB
64 (40H)	ダンパーペダル*4	0 ~ 63 : オフ (00H ~ 3FH) 64 ~ 127 : オン (40H ~ 7FH)
66 (42H)	ソステヌートペダル*4	0 ~ 63 : オフ (00H ~ 3FH) 64 ~ 127 : オン (40H ~ 7FH)
67 (42H)	ソフトペダル*4	0 ~ 63 : オフ (00H ~ 3FH) 64 ~ 127 : オン (40H ~ 7FH)
91 (5BH)	リバーブの深さ*5	0 ~ 127 : 8段階 (00H ~ 7FH)
121 (79H)	リセットオールコントローラー (受信だけ)*6	0(00H)
122 (7AH)	ローカルコントロール (受信だけ)*6	0(00H) : オフ 127(7FH) : オン
123 (7BH)	オールノート・オフ (受信だけ)*6	0(00H)
124 (7CH)	オムニ・オフ/オールノート・オフ (受信だけ)*6	0(00H)
125 (7DH)	オムニ・オン/オールノート・オフ (受信だけ)*6	0(00H)

*1 モジュレーション : LFOスピードは音色ごとに固定です。

*2 ボリューム : 送信時は、[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら[伴奏]スライダーでコントロールします。

*3 パン : 送信時は、[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら[打楽器メトロノーム]ボタンを押し、[伴奏]スライダーでコントロールします。

*4 ペダル : 送信時は、オフを0(00H)で、オンを127(7FH)で出します。

*5 リバーブの深さ : 送信時は、[リバーブ]ボタンを押しながらC₂ ~ C₄の白鍵、または、[リバーブ]ボタンを押しながら[テンポ]でコントロールします。

*6 121以降は、モードメッセージと呼ばれています。

3 プログラムチェンジ

データフォーマット : [CnH] [pp]

CnH = プログラム情報(n = チャンネルNo.)

pp = プログラムNo.

音色番号	音色名	a)	b)	c)
1	ピアノ	0	0	12
2	ハーブシコード	3	1	14
3	オルガン	7	2	76
4	クラビノーバトーン	1	3	68
5	ピブラフォン	4	4	16
6	ストリングス	6	5	8
7	コーラス	8	6	42
8	打楽器	11	7	126
9	ピアノブライト	33	8	51
10	ピアノソフト	34	9	48
11	エレクトリックピアノ1	2	10	50
12	エレクトリックピアノ2	35	11	13
13	チェレスタ	37	12	15
14	マリンバ	38	13	17
15	フルオルガン	27	14	10
16	ジャズオルガン	28	15	11
17	アコーディオン	22	16	7
18	ハーモニカ	23	17	41
19	ギター	5	18	24
20	フォークギター	39	19	53
21	ジャズギター1	40	20	25
22	ジャズギター2	41	21	72
23	ロックギター1	42	22	26
24	ロックギター2	43	23	69
25	ミュートギター	44	24	70
26	バンジョー	45	25	55
27	アップライトベース	9	26	28
28	アップライトベースソフト	48	27	71
29	エレクトリックベース	10	28	30
30	エレクトリックベースソフト	49	29	29
31	エレクトリックベースヘビー	50	30	78
32	シンセベース	51	31	31
33	バイオリン	25	32	9
34	バイオリンハード	26	33	75
35	ピチカート	46	34	56
36	ハーブ	47	35	57
37	ティンパニ	52	36	23
38	ストリングスソフト	24	37	74
39	シンセストリングス	31	38	45
40	トランペット	14	39	1
41	ミュートトランペット	15	40	40
42	ホルン	16	41	2
43	ブラス	12	42	0
44	ポップブラス	13	43	73
45	シンセブラス	29	44	20
46	サクソ	17	45	3
47	サクソソフト	18	46	77
48	オーボエ	20	47	5
49	クラリネット	19	48	4
50	フルート	21	49	6
51	シンセコーラス	32	50	46
52	シンセウッド	30	51	44
53	シンセクリスタル	36	52	22

CLP-705は音色番号として、以下の3種類を持ちます。

a)CVP互換音色番号

b)パネル音色番号

c)クラビノーバ共通音色番号

どの番号を用いるかは、本体のモードで決まります。

・クラビノーバ共通音色マルチティンバーモードのとき :

c)クラビノーバ共通音色番号

・それ以外のとき :

パネル音色番号モードならb)パネル音色番号

CVP互換音色番号モードならa)CVP互換音色番号

パネル音色番号モードとCVP互換音色番号モードとの切り替えは、本体でのみ行えます。(MIDIの送受信は行いません。)

パネル音色番号モード[ピアノ]ボタンを押しなが
ら、[MIDI/トランスポーズ]ボ
タンを押します。

CVP互換音色番号モード[ピアノ]ボタンを押しなが
ら、[MIDI/トランスポーズ]ボ
タンを2回押します。

電源を入れたときは、a)CVP互換音色番号モードになります。

パフォーマンスメモリーとしてディスクに記録するときは、

a)CVP互換音色番号が使われます。

パフォーマンスメモリーとしてディスクに記録した曲をクラ
ビノーバ共通音色に変換すると、c)クラビノーバ共通音色番
号になります。

4 ピッチベンダー

データフォーマット : [EnH] [cc] [dd]

EnH = ピッチベンダー情報(n = チャンネルNo.)

cc = 下位バイト

dd = 上位バイト

受信だけで、下位バイトは無視、ピッチベンドレンジは±3半音
固定です。

5 システムリアルタイムメッセージ

データフォーマット : [rr]

rr コントロール

F8H タイミングクロック*1

FAH スタート

FCH ストップ

FEH アクティブセンシング*2

*1 タイミングクロック : 送信時は96分ごとに1回。外部クロッ
ク時の受信は96分のタイミングとし
て受信します。

*2 アクティブセンシング : 送信時は約200msecごとに1回。
400msec以上受信しないと発音が停
止します。

6 システムエクスクルーシブメッセージ

ヤマハMIDIフォーマット

データフォーマット: [F0H] [43H] [Xn] [ff] [F7H]

43H : ヤマハID

Xn : サブステータス + チャンネルNo.

ff : フォーマットNo.

X ff 機能

2 7CH パネルデータ・バルクダンプリクエスト

2 7DH モデルIDコード・バルクダンプリクエスト

クラビノーバMIDIフォーマット

データフォーマット: [F0H] [43H] [73H] [2BH] [yy]
[F7H]

43H : ヤマハID

73H : クラビノーバID

2BH : CLP-705 ID

yy : サブステータス

yy 機能

02H : 内部クロック

03H : 外部クロック

13H : マルチティンバー・オフ

14H : 共通音色マルチティンバー・オン

15H : マルチティンバー・オン

16H : 録音キャンセル

7nH : オールノート・オフ、受信チャンネル = n+1、オム
ニ・オフ

特殊コントロール

データフォーマット: [F0H] [43H] [73H]
[2BH] [11H] [0nH]
[cc] [vv] [F7H]

43H : ヤマハID

73H : クラビノーバID

2BH : CLP-705 ID

11H : クラビノーバ特殊コントロール

0nH : コントロールMIDIチェンジ + チャンネルNo.

cc : コントロールNo.

vv : 値

cc コントロール 値(vvH)

08H デュアルバランス 00H ~ 7FH : 16段階

13H イントロモード 00H : オフ

01H : オン

15H リズムNo. vvH : リズムNo.

19H 伴奏ボリューム vvH : ボリューム値

1BH メトロノームオン/オフ 00H : オフ

01H : オン

26H タッチセンシティブィティ 00H : ミディアム

01H : ソフト

02H : ハード

59H リバーブタイプ 00H : オフ

01H : ルーム

02H : ホール1

03H : ホール2

04H : コズミック

5AH デュアルオン/オフ 00H : デュアル・オフ

01H : デュアル・オン

5CH デュアルボイス vv : デュアルボイス音色

5DH ペダルファンクション 00H : ソフトペダル

02H : スタート/ストップ

パネルデータ送信フォーマット

F0H, 43H, 0nH, 7CH, 00H, 22H (n = チャンネルNo.)

53H, 4BH, 20H, 20H (SK)

43H, 4CH, 50H, 37H, 30H, 35H (CLP-705)

3xH, 3yH (x,y = バージョンNo.)

[パネルデータ]

[チェックサム(1バイト)] = 0 - (53H + 4BH + 20H + + データ
エンド)

F7H

パネルデータ項目

音色番号

鍵盤演奏手弾き音量

リズム番号

テンポ(絶対値 上位バイト)

テンポ(絶対値 下位バイト)

伴奏音量

デュアルオン/オフ

デュアル音色番号

デュアル音量バランス

リバーブ

リバーブの深さ

ペダルファンクション

メトロノームオン/オフ

パン

モデルIDコード送信フォーマット

F0H, 43H, 0nH, 7DH, 00H, 10H (n = チャンネルNo.)

53H, 4BH, 20H, 20H (SK)

43H, 4CH, 50H, 37H, 30H, 35H (CLP-705)

3xH, 3yH, 20H, 20H, 20H, 20H (x,y = バージョンNo.)

[チェックサム(1バイト)] = 0 - (53H + 4BH + 20H + + 20H)

F7H

マルチティンバーモード/クラビノーバ共通音色マルチティンバーモード

MIDIチャンネル

チャンネルパート

1 右手/トラック1

2 左手/トラック2

3 伴奏/トラック3

{ }

10 伴奏/トラック10

15*1 リズム/トラック15

16 コントロールデータ

15*1 : チャンネル15に含まれるプログラムチェンジは、リズム
番号の切り換え情報として解釈されます。

音色一覧表

パネル表示音色

番号	音色名	解説
1	ピアノ	標準的なグランドピアノの音です。豊かな響きと表現力でクラシック、ポップスなどあらゆるジャンルの音楽に使えます。
2	ハーブシコード	バロック時代に活躍した、ピアノの前身で弦を弾いた華やかな響きのする楽器の音です。チェンバロ、クラヴサンとも言います。
3	オルガン	柔らかめのパイプオルガンの音です。厚みのあるふくよかな響きの音で、賛美歌やバロック音楽をどうぞ。
4	クラビノーバトーン	ストリングス風の温かい音とハーブ風の固めの音が、タッチによって見え隠れします。ドビッシェなど、夢のあるムーディーな曲にお勧めです。
5	ピブラフォン	美しいピブラートのかかった鉄琴のサウンドで、ジャズのメロディなどいかがでしょうか。
6	ストリングス	大編成のストリングスアンサンブルの音です。タッチによって柔らかいバックグラウンドの音色から、弦を強く擦る勢いのよい音まで出すことができます。
7	コーラス	優しい、さわやかな響きのするコーラスの音です。男声から女声まで、和音で弾けば大合唱となります。
8	打楽器(6種類)	ベーシックなドラムセットの音です。ドラマーの気分で演奏できます。
	打楽器(全打楽器)	ラテンパーカッション系の楽器まで含めたセットです。多彩な楽器を揃え、どんなジャンルの音楽でもこなします。

その他音色（番号による呼び出し）

ピアノ／有鍵打楽器系

番号	音色名	解説
9	ピアノブライト	明るめの響きのするグランドピアノの音です。クラシックでも硬めの音が欲しいときや、ポップス、ラグタイムピアノなどいかがでしょうか。
10	ピアノソフト	落ちついた響きのするグランドピアノの音です。しっとりしたクラシックの曲や、ムーディーなジャズピアノにどうぞ。
11	エレクトリックピアノ1	柔らかく包み込む様な、それでいて強いタッチで弾くと芯のあるエレクトリックピアノの音です。
12	エレクトリックピアノ2	頭に硬いアタックのあるエレクトリックピアノの音です。潤いのあるサウンドは、ポピュラー音楽全般で使えます。
13	チェレスタ	19世紀に作られた鉄琴を鍵盤で弾く楽器です。こんぺい糖の踊りの曲に使われているのが有名です。(1オクターブ高い音が出ます。)
14	マリンバ	木の板を並べた鍵盤打楽器、マリンバ(高域はシロフォン)の音です。あらゆるジャンルで効果的に使われます。

オルガン／リード楽器

番号	音色名	解説
15	フルオルガン	荘厳な響きのするチャーチオルガンの音です。ウエディングマーチやバッハ、ヘンデルの宗教曲などをどうぞ。
16	ジャズオルガン	歯切れのよいジャズ、ロックに使うオルガンサウンドです。グリッサンドのフレーズなどをちょっと試してみると、楽しみが増えます。
17	アコーディオン	おなじみのアコーディオンの音です。のど自慢には欠かせない楽器ですが、タンゴやシャンソンなどにもよく使われ、世界中で愛されています。
18	ハーモニカ	昔懐かしいハーモニカの音です。カントリーやジャズにも使われます。

ギター系

番号	音色名	解説
19	ギター	ガットギターの音です。柔らかいアコースティックな響きを、様々なジャンルの音楽でお楽しみください。
20	フォークギター	スチール弦のなまめかしい音がするフォークギターです。懐かしのフォークソングをどうぞ。
21	ジャズギター1	アコースティックに近い、柔らかい響きのエレキギターの音です。リズムのカットングに使われます。
22	ジャズギター2	少し硬めで歯切れのよいジャズギターの音です。
23	ロックギター1	セミアコースティックギターの音です。ポップス、ロック系の音楽に欠かせないサウンドです。リズム、メロディのいずれにも使えます。
24	ロックギター2	歯切れのよいソリッドギターの音です。深みのあるサウンドは、音楽ジャンルを広げます。
25	ミュートギター	エレキギターで弦をミュートして出る音です。フレーズの中で時々使うと、音楽が生き生きとします。
26	バンジョー	カントリーミュージックに欠かすことのできないバンジョーの音です。歯切れのよい軽快な音楽に合います。



ベース系

番号	音色名	解説
27	アップライトベース	ウッドベース、ダブルベースとも呼ばれる基本的なベースの音です。アコースティックな響きとタッチによる豊かな表現力で、ジャズやラテン音楽など、幅広いジャンルの音楽をお楽しみください。
28	アップライトベースソフト	少し柔らかめで、温かい響きの音にするウッドベースの音です。スローでムーディーなジャズナンバーにどうぞ。
29	エレクトリックベース	幅広いジャンルに使えるエレクトリックベースの音です。強いタッチで弾くと、チョッパー奏法の激しい音色が出ます。
30	エレクトリックベースソフト	29のエレクトリックベースでチョッパー音が必要のないときにお使いください。
31	エレクトリックベースヘビー	ずっしりと重みのあるエレクトリックベースの音です。ヘビーなサウンドは、音楽にパワーとノリを与えます。
32	シンセベース	パンチの効いたノリのいいシンセベースの音です。流行の音楽もこれがあれば大丈夫です。

弦楽器／オーケストラ

番号	音色名	解説
33	バイオリン	ビブラートが美しいソロバイオリンの音です。メロディをリードするのにぴったりの、豊かな響きと表現力を持った音色です。低域は、チェロとアップライトベースの音でつなげてあります。
34	バイオリンハード	発音の鋭い、輪郭のはっきりしたソロバイオリンの音です。カントリーやポップスなどの速いフレーズに合います。
35	ピチカート	弦を指ではじいて音を出すバイオリン、ピオラ、チェロ、アップライトベースの音です。クラシックはもちろん、ポップスなどでも多く使われます。
36	ハーブ	竖琴の別名を持つハーブです。たくさんのはじいて出すその華麗な音は、ムーディーな曲にぴったりです。鍵盤でグリッサンドを試みましょう。
37	ティンパニ	オーケストラで重要な打楽器、ティンパニの音です。
38	ストリングスソフト	アンサンブル用として、豊かで厚みのあるストリングスサウンドです。心地よい響きの流れは、どのジャンルの音楽にもマッチします。
39	シンセストリングス	アンサンブルを支える、バックグラウンド用の音として喜ばしい響きのサウンドです。潤い豊かで温かみのあるこの音は、多くの音楽シーンで重宝されること間違いありません。

金管楽器

番号	音色名	解説
40	トランペット	クラシカルで温かみのあるトランペットの音です。おなじみのファンファーレやマーチのメロディを奏でてみてはいかかでしょうか。低音部はトロンボーン、チューバの音でつながっています。
41	ミュートトランペット	カップタイプのミュート(弱音器)を付けたトランペットの音です。ムーディーなジャズの曲によく使われます。
42	ホルン	狩で使った角笛がオリジナルのフレンチホルンの音です。中音域での柔らかくクラシカルな和音の響きが魅力的です。
43	ブラス	ビックバンド風の厚みのあるブラスセクションの音です。広いジャンルで、落ちついたアンサンブルが楽しめます。
44	ポップブラス	ブライต์感あふれる、パワフルなブラスの音です。迫力ある響きと切れの良さが、とても魅力的です。
45	シンセブラス	ロック、ポップスでおなじみ、迫力満点のシンセブラスサウンドです。多彩な音色の変化が特徴です。

木管楽器／サクソ

番号	音色名	解説
46	サクソ	リード楽器の中でも特に人気のあるサクソフォンの音です。
47	サクソソフト	他の楽器とのアンサンブルによくとけ込む音色のサクソフォンです。もちろん、しっとりとしたクラシカルなソロの曲にもぴったりです。
48	オーボエ	二枚リードの代表的な木管楽器です。有名な白鳥の湖のメロディなど、どこことなく哀愁を帯びた音です。
49	クラリネット	吹奏楽やオーケストラでおなじみの一枚リードの木管楽器です。軽快なメロディの曲が得意です。
50	フルート	最もポピュラーな木管楽器です。リアルな息の音は、フルーティストになった気分です。クラシック、ポップスなど、幅広いジャンルの曲に使えます。

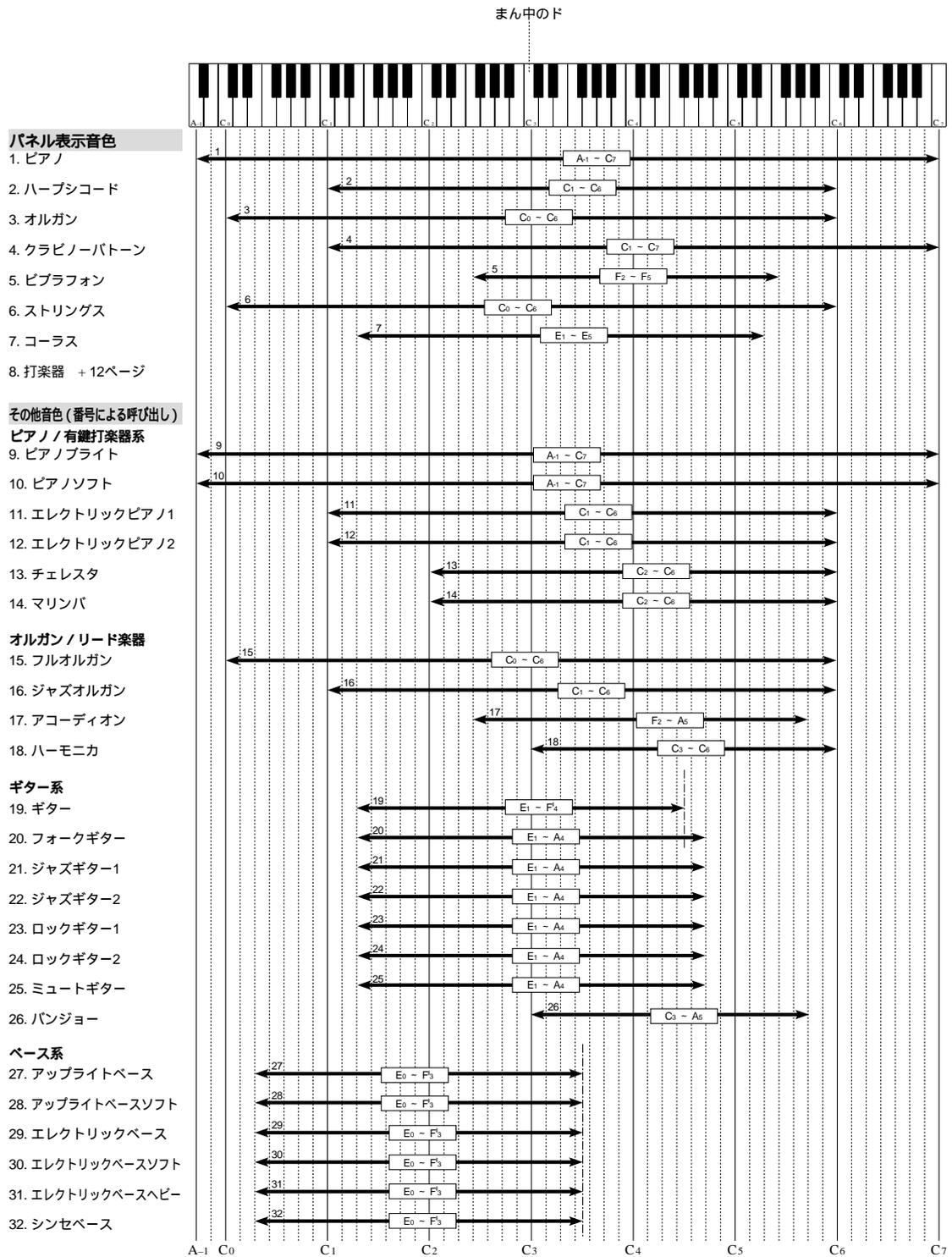
シンセサイザー系

番号	音色名	解説
51	シンセコーラス	ちょっとハスキーな乾いた感じのコーラスの音です。ムードポップスにお似合いです。
52	シンセウッド	一度耳にしたら忘れられない、とてもコケティッシュな音です。可愛らしい、おどけた感じのメロディにぴったりです。
53	シンセクリスタル	キラキラしたイメージのシンセサウンドです。クリアで歯切れのよい音は、効果音としても使えます。



各音色の推奨音域

クラピノーパで演奏するとき、各音色にはそれぞれ音的に推奨される音域があります。これ以外の音域では、その楽器のイメージと違う音になることもあります。



まん中のド

弦楽器 / オーケストラ

- 33. バイオリン
- 34. バイオリンハード
- 35. ピチカート
- 36. ハープ
- 37. ティンパニ
- 38. スtringスソフト
- 39. シンセstringス

金管楽器

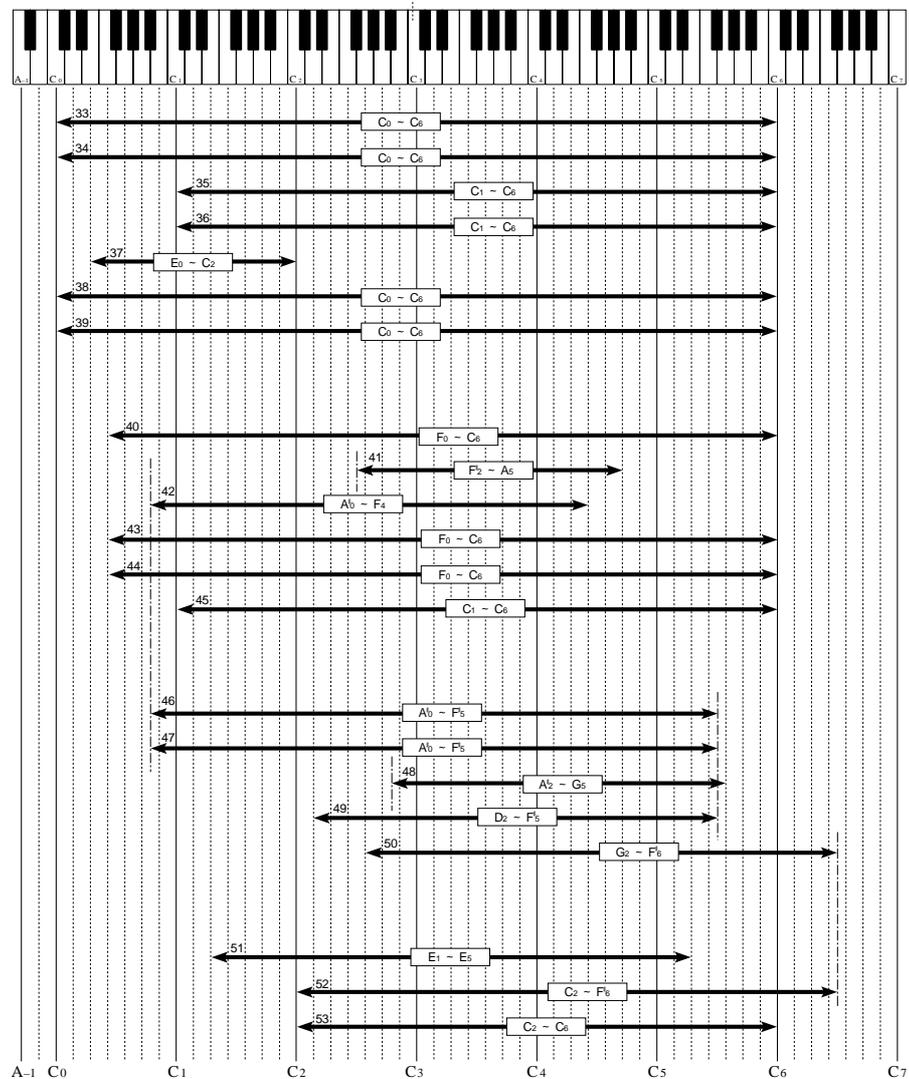
- 40. トランペット
- 41. ミュートトランペット
- 42. ホルン
- 43. ブラス
- 44. ポップブラス
- 45. シンセブラス

木管楽器 / サックス

- 46. サックス
- 47. サックスソフト
- 48. オーボエ
- 49. クラリネット
- 50. フルート

シンセサイザー系

- 51. シンセコーラス
- 52. シンセウッド
- 53. シンセクリスタル



- ・「33 バイオリン」の低い音域は、チェロ、コントラバスの音色です。
- ・「35 ピチカート」は、高い方からバイオリン、ピオラ、チェロ、コントラバスとつながっています。
- ・「37 ティンパニ」は、G₂以上の鍵盤では音が出ません。
- ・「40 トランペット」の低い音域は、トロンボーン、チューバの音色です。

リズム一覧表

パネルのリズム（打楽器メトロノーム）およびディスクリズムの一覧表です。

パネルのリズム

[打楽器メトロノーム]

名 前	No.	内 容	テンポ	解 説
2または4拍子 1	1	中ぐらいの速さの4拍子	100	ポピュラー風の8ビート感覚のリズムです。
"	2	4拍子	100	ゆったりめの8ビート感覚のリズムです。
"	3	中ぐらいの速さの2拍子	132	シンプルな2拍子のリズムです。
"	4	マーチ	100	シンプルなマーチです。
3拍子 1	5	中ぐらいの速さの3拍子	120	ワルツ風の3拍子のリズムです。
3拍子 2	6	ゆったりめの3拍子	100	ポピュラー風の3拍子のリズムです。

ディスクリズム

[打楽器メトロノーム]

拍 子	No.	名 前	テンポ	解 説
2または4拍子	1	4拍子 1	100	8分音符を使った、打楽器によるメトロノームです。
	2	4拍子 2	100	16分音符を使った、打楽器によるメトロノームです。
	3	4拍子 3	80	ゆったりめの8ビートのリズムです。
	4	2拍子	120	ゆったりめの2拍子です。
	5	6/8拍子 1	132	ゆったりめの6/8拍子です。
	6	6/8拍子 2	200	少し速めの6/8拍子です。
	7	ポルカ	100	ヨーロッパの舞曲で、軽快なリズムに特徴があります。
	8	マーチ	120	華やかなマーチです。
	9	マーチ 6/8	120	3連音符のマーチです。
	10	ハバネラ	138	キューバが発祥のリズムです。
3拍子	11	3拍子 1	100	8分音符を使った、打楽器によるメトロノームです。
	12	3拍子 2	100	16分音符を使った、打楽器によるメトロノームです。
	13	3拍子 3	120	メヌエットなど、軽やかな3拍子向きです。
	14	ボレロ	72	スペインのボレロです。
	15	スペイン風3拍子	108	カスターネットが特徴的なスペイン風3拍子です。

[ポピュラー・リズム]

ジャンル	No.	名 前	テンポ	解 説
ポップス	16	8ビート	100	ポップスで最もよく使われるリズムです。
	17	ロックン・ロール	144	1960年代の軽快なリズムです。
	18	16ビート	120	シンプルな16ビートです。
	19	16ビート・シャッフル	100	ハネる感じの16ビートです。
	20	ディスコ	120	重量感のあるディスコ・リズムです。
ラテン	21	ルンバ	120	キューバが発祥のリズムです。
	22	ピギン	120	西インド諸島マルティニーク島が発祥のリズムです。
	23	マンボ	120	キューバが発祥で、ルンバから発展したリズムです。
	24	チャ・チャ・チャ	132	キューバが発祥のリズムです。
	25	カリブソ	120	ジャマイカが発祥のリズムです。
	26	タンゴ	120	アルゼンチンが発祥のリズムです。
	27	ボサノバ	120	サンバとジャズが融合してできたリズムです。
	28	サンバ	108	ブラジルが発祥の軽快なリズムです。
	29	サルサ	108	ニューヨークで流行した都会的なラテン・リズムです。
	30	ラテン・ロック	120	8ビート感覚のラテン・リズムです。
ジャズ、他	31	ジャズ・バラード	72	ゆったりめの曲に合うジャズ・バラードです。
	32	2ビート・スイング	160	2拍子感覚のリズムです。
	33	スイング・ジャズ	160	ブラシを使った軽快なリズムです。
	34	モダン・ジャズ	160	ジャズで最もよく使われるリズムです。
	35	シャッフル	132	軽い感じのハネたリズムです。
	36	ブギウギ	144	古いスタイルのジャズの一つで、軽快なリズムです。
	37	ロック・バラード	80	ゆったりとした、重量感のあるリズムです。
3拍子	38	ワルツ	120	シンプルなワルツです。
	39	ボサ・ワルツ	120	3拍子のボサノバです。
	40	ジャズ・ワルツ	160	3拍子のモダン・ジャズです。

最大同時発音数について

CLP-705の最大同時発音数は、ディスクオーケストラやリズム、パフォーマンスメモリーの再生音と合わせて、合計32音です。最大同時発音数を越えると、あとに弾いた方の音が優先されて、前に弾いた音が消されます。

下記の音色の場合は、発音数が半分になります。

- 1 ピアノ(ステレオ音色)
- 3 オルガン(2系列音色)
- 4 クラビノーバトーン(2系列音色)
- 5 ビブラフォン(2系列音色)
- 7 コーラス(2系列音色)
- 11 エレクトリックピアノ 1(2系列音色)
- 12 エレクトリックピアノ 2(2系列音色)
- 16 ジャズオルガン(2系列音色)

弾き方による発音数の割り当ては、次のとおりです。

	リズム以外の音	リズム
鍵盤演奏だけのとき	演奏音で32音(16音)	-
鍵盤演奏 + リズムのとき	演奏音で24音(12音)	8音
鍵盤演奏 + パフォーマンスメモリー再生のとき	演奏音 + リズム以外の	8音
鍵盤演奏 + ディスクオーケストラ・コレクション再生のとき	再生音で24音(12音)	

()内は、ステレオ、2系列音色の場合です。

ディスクオーケストラ・コレクションでは、リズムが4音のもの、リズムがないものもあります。その場合はその分、演奏音の発音数が増えます。

デュアルのときは、この表よりも発音数が少なくなります。

エラーメッセージ

エラーメッセージ	原因	処置
<p><u>For</u> (Format)</p>	<p>フォーマットしていないディスクを差し込んだ。</p>	<p>フォーマットをしてください。 (☞ 49ページ)</p>
<p><u>Pro</u> (Protected)</p>	<p>ディスクのライトプロテクトタブが、録音不可の位置になっている。</p> <p>プロテクトされているディスクに、データを記録しようとした。</p> <p>ディスクオーケストラ・コレクションのオーケストラ(伴奏)パートとリズムパートをコピーしたディスクの曲を、さらに別のディスクにコピーしようとした。</p> <p>ディスクリズムやそれをコピーしたディスクに、パフォーマンスメモリーやディスクオーケストラ・コレクションを書き込み、またはコピーしようとした。あるいは、その逆の操作をしようとした。</p>	<p>ディスクのライトプロテクトタブを、録音可の位置にしてください。</p> <p>ディスクオーケストラ・コレクションやディスクリズム、ピアノプレーヤ用ソフトは、データが書き込めないようにプロテクトされています。</p> <p>ディスクオーケストラ・コレクションをコピーしたディスクの曲は、そのディスク内でのコピーはできますが、別のディスクへのコピーはできません。</p> <p>同じ種類のデータのみ、書き込み、またはコピーできます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・ ディスクリズム ・ リズムをコピーした ディスク</p> <p style="text-align: center;">→ × ←</p> <p>・ パフォーマンスメモリーの曲が入ったディスク ・ ディスクオーケストラ・コレクションをコピーしたディスク</p> </div>
<p><u>der</u> (disk Error)</p>	<p>ディスクがこわれている。</p> <p>ディスク作動時に大きな振動があった。</p>	<p>ディスクを交換してください。</p> <p>振動を与えないように注意しながら、もう一度操作を行ってください。</p>

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら時は、まずこの表に沿って調べてみてください。

現象	原因	解決法
CLP-705の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていない。 電源コードの本体側のプラグが抜けている。 電源スイッチが切れている。	家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。 リアパネルのジャックに確実に差し込んでください。 電源スイッチを押して電源を入れてください。
電源スイッチをオンまたはオフにした時、「カチ」と音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
鍵盤で弾く音が、リズムやディスクの再生音に比べて小さい。	マニュアルボリュームの音量が下がっている。	マニュアルボリュームの音量を上げてください。 ⇒ 31ページ
リズムやディスクの再生音が、鍵盤で弾く音に比べて小さい。	[伴奏]スライダーが下がっている。	[伴奏]スライダーを上げてください。
全体的に音が小さい。全く音が出ない。	[ボリューム]スライダーが下がっている。 ヘッドフォンを接続している。 ローカルコントロール・オフになっている。	[ボリューム]スライダーを上げてください。 ヘッドフォンのプラグを抜いてください。 [MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら[ピアノ]ボタンを押して、[ピアノ]のランプを消します。
リズムやディスクの再生がスタートしない。	MIDIロックが外部になっている。	[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながら[打楽器]ボタンを押して、[打楽器]のランプを消します。
低音側の音だけが出ない。	MIDIスプリット&レフトローカル・オフになっている。	通常の状態に戻してください。 ⇒ 87ページ
高音側の音だけが出ない。	MIDIスプリット&ライトローカル・オフになっている。	通常の状態に戻してください。 ⇒ 88ページ
押えた鍵盤の数だけ音が出ない。	最大同時発音数を越えている。 ⇒ 98ページ	あとの音を優先し、前の音を消すしくみになっています。
ソフトペダルを踏むと、リズムがスタート/ストップしてしまう。	ソフトペダルが、スタート/ストップ機能になっている。	[MIDI/トランスポーズ]ボタンを押しながらソフトペダルを踏んで、通常のソフトペダルの機能に戻してください。
60曲まで録音できない。	1曲の演奏時間が長かったり、たくさんの機能を使ったため、記憶容量がいっぱいになった。	不要な曲を削除する(⇒70ページ)か、または新しいディスクに録音してください。
パフォーマンスメモリーの再生のとき、再生されないトラックがある。	そのトラックがオフになっている。	オフになっているトラックをオンに戻してください。 ⇒ 37ページ

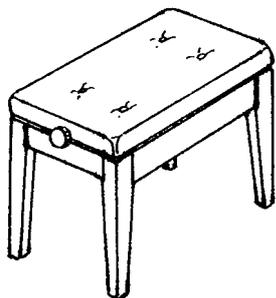
CLP-705の仕様

音源	AWM音源
最大同時発音数	32 / 16(ステレオ)
鍵盤	88鍵(A-1 ~ C7)、イニシャルタッチ付き
音色	[パネル音色]..... ピアノ、ハーブシコード、オルガン、クラビノーバトーン、 ピブラフォン、ストリングス、コーラス、打楽器
	[その他音色]..... 45種類
効果・機能	デュアル、リバーブ、ダンパーペダル、ソステヌートペダル、 ソフトペダル、トランスポーズ、ピッチコントロール、 鍵盤のタッチ感度切り換え、パン、デモ演奏
リズム(打楽器メトロノーム)	
	[パネルのリズム] 2または4拍子 : 4種類 3拍子 : 2種類
	[ディスクリズム] 40種類
コントロール	電源スイッチ、ボリューム、伴奏(音量)、メトロノーム
パフォーマンスメモリー/ディスクオーケストラ	
	録音/再生(10トラック+リズムトラック)、 記録容量 : 1曲あたり約700kバイト・1ディスクあたり最大60曲まで、 記録媒体 : 3.5インチ2DDマイクロフロッピーディスク、 LEDディスプレイ、ビートランプ、テンポ、スタート/ストップ、 曲/フレーズ、ソングセレクト、ランプキャンセル、フレーズリピート、 ガイド、鍵盤ガイドランプ、左手/1、右手/2、伴奏/3~10、リズム、 巻戻し、早送り、ポーズ、録音、コピー、フォーマット、デリート
付属端子	ヘッドフォン端子(×2) : 最大出力レベル2.5V(30 ヘッドフォン接続時)、 AUX出力端子(L/L+R,R) : 出力抵抗600 、最大出力レベル4.9V(負荷10k)、 オプショナル入力端子(L,R) : 入力抵抗10k 、入力感度0.26V、 MIDI端子(IN,OUT,THRU)
メインアンプ	50W × 2
スピーカー	18cm × 2、10cm × 2、5cm × 2
定格電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	80W
外装	仕上げ ブラックローズウッド調仕上げ 間口 143.2cm 奥行 48.2cm 高さ 譜面立てを倒しているとき : 84.4cm、譜面立てを立てているとき : 101.4cm 重量 79kg
装備	スライド式キーカバー(木製)、ワンタッチ式譜面立て(木製)
付属品	はじめてブック+ はじめてブック専用ディスク、ディスクリズム、 録音用blankディスク、ボイスリスト・ステッカー、保証書、 ご愛用者カード、取扱説明書

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

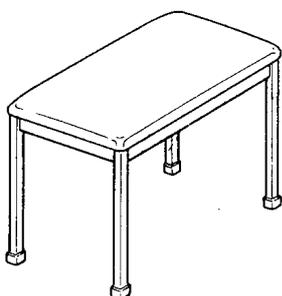
オプション(別売品)のご紹介

高低自在椅子 BC-20
¥17,000



ディスクオーケストラ・コレクション
'93年4月現在でクラシックからジャズ/ポピュ
ラーまで81タイトルが発売されています。
(各巻 ¥3,000 ~ ¥5,000)

椅子 BC-8
¥8,000



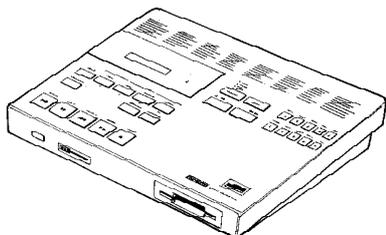
ピアノプレーヤソフト
'93年4月現在で、クラビノーバ対応分375タイ
トルが発売されています。
(アーティストシリーズ各巻 ¥5,500)
(リスニングシリーズ他、各巻 ¥4,000より)

ヘッドフォン HPE-6
¥5,500



ピアノ・ア・ラ・モード
クラビノーバ、ピアノプレーヤ共用のアンサン
ブルソフトです。
(各巻 ¥1,800 ~ ¥1,815、
発売元：財団法人ヤマハ音楽振興会)

ディスクオーケストラ・モジュール DOM-30
¥110,000



・表示の価格には、消費税は含まれていません。

索引

	ページ
A	
A-Bリピート機能	46 ~ 47
AUX出力端子	81
ア行	
一時停止(ポーズ)	36
移調	75 ~ 76
オプション入力端子	81
オール(全曲リピート再生)	35
音色	
一覧表	93 ~ 94
推奨音域	95 ~ 96
選択	9
音像の定位(パン)	80
音程を合わせる(ピッチコントロール)	77 ~ 78
音量調節	10、30 ~ 31
音量バランス	30 ~ 31
カ行	
ガイド機能	40 ~ 42
カウントダウンスタート	29
記憶残容量	54
キーボードバーカッション	12 ~ 14
曲	52
コピー	63 ~ 69
選択	35
デリート(消去)	70
番号	35
クラビノーバ共通音色	73 ~ 74
鍵盤ガイドランプ	40 ~ 42
コピー	63 ~ 69
サ行	
最大同時発音数	98
小節番号	35
シンクロナスタート	29
シンバルオフ	14
接続端子	81 ~ 82
全曲リピート再生	35
ソステヌートペダル	22
その他音色	10
ソフトペダル	22
スタート/ストップ	22
タ行	
打楽器音色	12 ~ 14
打楽器メトロノーム	28 ~ 33
タッチ感度	79
端子	81 ~ 82
ダンパーペダル	21
ディスク	48
イジェクトボタン	48
差し込み	48
種類	48
挿入口	48
タブ(録音可/不可)	48
ドライブユニット	48
取り扱い	48
取り出し	48
ブランクディスク	48
ヘッドクリーニング	48
リズム	32 ~ 33
ディスクオーケストラ	34 ~ 47
デモ演奏	7
デュアル	15 ~ 17
音量バランス	16 ~ 17
組み合わせ	16
デリート	70 ~ 72
電源	3
テンボ	30
トラック	52、56 ~ 60
トランスポーズ	75 ~ 76

	ページ
ハ行	
パートオン・オフ	37 ~ 39
パフォーマンスメモリー	52 ~ 62
早送り	36
パン(音像の定位)	80
伴奏(スライダー)	30 ~ 31
パンチインレコーディング	61
ピアノプレーヤソフト	34
ビートランプ	29、59
左手パートオン・オフ	37 ~ 39
ピッチコントロール	77 ~ 78
フォーマット	49
ブランクディスク	48
フレーズ	
A-Bリピート	46 ~ 47
番号	44
リピート	43 ~ 45
フロッピーディスク ディスク	48
ヘッドフォン端子	6
ペダル	21 ~ 22
ボリューム(スライダー)	10
マ行	
巻戻し	36
マニュアルボリューム	31
右手パートオン・オフ	37 ~ 39
MIDI	83 ~ 92
インプリメンテーションチャート	92
オムニモード	85
共通音色マルチティンバーモード	89
クロック	88
コントロールチェンジ	86
スプリット&ライトローカル・オフ	88
スプリット&レフトローカル・オフ	87
端子	84
チャンネル	84、85
データフォーマット	89 ~ 91
パネルデータの送信	88
プログラムチェンジ	86
マルチティンバーモード	86 ~ 87
マルチトラック録音	62
ローカルコントロール	86
メトロノーム	23 ~ 27
ヤ行	
ユーズランプ	48
ラ行	
ランダム(順不同リピート再生)	35
ランプキャンセル	35
リズム	28 ~ 33
一覧表	97
選択	29
リバーブ	18 ~ 20
リピート	43 ~ 47
録音	53 ~ 62
カウントスタート録音	61
曲の途中からの再録音(パンチインレコーディング)	61
記録内容	61
初期値の変更	61
トラックごとの音量調節	61
パンチイン・レコーディング	61
MIDIマルチトラック録音	62
メトロノームを使った録音	61
録音トラックの選び方	61

修理サービスと保証

修理サービスの依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年で
す。

(日本国内のみ有効)

保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任を
もってサービスを実施いたします。尚、補修用性能
部品の保有期間は製造打切り後最低8年となってお
ります。また、保証期間中の修理などアフターサー
ビスについてご不明の場合は、お買い上げ店が右記、
お近くのサービス拠点までお問い合わせください。

■ お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、お買い上げ店にご連絡ください。責任
を持って修理調整をいたします。

■ 修理サービスのご依頼

サービスをご依頼いただくときは、お名前、ご住
所、電話番号などをハッキリお知らせください。ま
たお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番
号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器
の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万
一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなけれ
ばならないようなときに、お客さまにご連絡申し上
げます。)

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

〔修理受付および修理品お預り窓口〕

北海道サービスセンター	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL.011(513)5036
仙台サービスセンター	〒983	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL.022(236)0249
新潟サービスセンター	〒950	新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL.025(243)4321
東京サービスセンター	〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F TEL.03(3255)2241
首都圏サービスセンター	〒211	川崎市中原区木月1184 TEL.044(434)3100
浜松サービスセンター	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL.053(465)6711
名古屋サービスセンター	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL.052(652)2230
大阪サービスセンター	〒565	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL.06(877)5262
神戸サービスセンター	〒650	神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ(株)神戸店内7F TEL.078(321)1195
四国サービスセンター	〒760	高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内 TEL.0878(22)3045
広島サービスセンター	〒731-01	広島市安佐南区西原2-27-39 TEL.082(874)3787
九州サービスセンター	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092(472)2134
〔本社〕 カスタマーサービス部	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL.053(465)1158

北海道支店 / 営業推進課	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター TEL.011(512)1550
仙台支店 / 営業推進課	〒980	仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル TEL.022(222)6149
東京支店 / 鍵盤推進課	〒104	東京都中央区銀座7-9-18 パールビル TEL.03(3572)3140
関東支店 / 営業推進課	〒104	東京都中央区銀座7-9-18 パールビル TEL.03(3572)3120
名古屋支店 / 鍵盤推進課	〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL.052(201)5140
大阪支店 / 鍵盤推進課	〒542	大阪市中央区南船場3-12-9 心齋橋プラザビル東館 TEL.06(252)7541
広島支店 / 営業推進課	〒730	広島市中区紙屋町1-1-10 TEL.082(244)3748
九州支店 / 鍵盤推進課	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092(472)2152
鍵盤営業本部 / 電子楽器営業部 クラビノーバ営業課	〒104	東京都中央区銀座7-9-18 パールビル TEL.03(5568)2932

住所および電話番号は変更になる場合がありま
す。



YAMAHA
YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社

M.D.G., EMI Division © Yamaha Corporation 1993

VQ20760 JDAHR2AP1.3AP